博 士 前 期 課 程

シ　ラ　バ　ス

（令和２年度）

2020

日本大学大学院総合社会情報研究科

日本大学教育憲章

日本大学は，本学の「目的及び使命」を理解し，本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」,「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ,「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

・日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質，感性及び価値観を身につけ，その特質を自ら発信することができる。

・多様な価値を受容し，自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し，地域社会，日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し，説明することができる。

・社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の３つの構成要素及びその能力

＜　自ら学ぶ　＞

・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

・世界の現状を理解し，説明する力

世界情勢を理解し，国際社会が直面している問題を説明することができる。

＜　自ら考える　＞

・論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。

・問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。

＜　自ら道をひらく　＞

・挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

・コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを伝えることができる。

・リーダーシップ・協働力

集団のなかで連携しながら，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

・省察力

謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。

日本大学教育憲章ルーブリック

			初年領域：Basic		中上級領域：Intermediate and Advanced	
			1	2	3	4
自主創造	自ら学ぶ	A-1：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，自己の倫理観をもって，倫理的な課題に向き合うことができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，自己の倫理観を倫理的な課題に適用することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。
		A-2：世界の現状を理解し，説明する力	世界諸国の歴史や政治，経済，文化，価値観，信条などの現状を概説できる。	世界諸国の歴史や政治，経済，文化，価値観，信条などの現状および相互関係を，自己の世界観をもって説明できる。	世界諸国の歴史や政治，経済，文化，価値観，信条などの現状および相互関係を，複数の世界観に立って解釈し説明できる。	世界諸国の歴史や政治，経済，文化，価値観，信条などの現状および相互関係を総合的に理解し，国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。
	自ら考える	A-3：論理的・批判的思考力	仮説に基づく課題や問題を提示し，客観的な情報を基に，論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し，客観的な情報を基に，論理的・批判的に考察できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し，客観的な情報を基に，論理的・批判的な考察を通じて，課題に対する見解を示すことができる。	仮説に基づく課題や問題を提示し，客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて，課題に対し，具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに，その限界を認識することができる。
		A-4：問題発見・解決力	事象を注意深く観察して，解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し，助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し，複数の解決策を提示した上で，問題を解決することができる。	創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し，独力または他者と協働して問題を解決することができる。
	自ら道をひらく	A-5：挑戦力	新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	新しい挑戦への計画を立て，準備することができる。	責任と役割を担い，新しいことに挑戦することができる。	責任と役割を担い，あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
		A-6：コミュニケーション力	親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互の意思伝達を自由かつ確実に行い，他者との良好な関係を確立することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し，ときに強い影響を与えることができる。
		A-7：リーダーシップ・協働力	集団の活動において，より良い成果を上げるために，お互いを尊重することができる。	集団の活動において，より良い成果を上げるために，指導者のもとで他者と協働し，作業を行うことができる。	集団の活動において，より良い成果を上げるために，指導者として他者と協働し，作業を行うことができる。	集団の活動において，より良い成果を上げるために，他者と協働し，作業を行うとともに，指導者として他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
		A-8：省察力	自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り，分析できる。	学修状況を自己分析し，その成果を評価することができる。	学修状況の自己分析に基づく評価を，今後の学修に活かすことができる。

―目　次―

国際情報専攻

必修科目

国際情報論特講……加藤　孝治……2

国際（関係）・政治コース

戦略情報論特講……川中　敬一……5
危機管理論特講……川中　敬一……8
組織倫理論特講……坂井スオミ……11
現代政治学特講……井手　康仁……14
国際法特講……安藤　貴世……17
国際政治論特講……庄司　貴由……20
国際協力論特講……池上　清子……23
国際関係論特講……草野　大希……26
行政論特講……関根二三夫……29
日本政治史論特講……瀧川　修吾……32
アフリカ開発論特講……未　開　講
グローバルヘルス論特講……未　開　講
国際メディア論特講……近藤　大博……35
現代中国政治論特講……未　開　講
日中比較社会論特講……髙綱　博文……38
環境生態論特講……村井　英紀……41
市民社会論特講……未　開　講

経営・経済コース

経済理論特講……後藤　康雄……44
経済理論特講……川又　　祐……47
国際経済政策論特講……前野　高章……50
近代日本社会変動論特講……小峰　和夫……53
グローバル経営戦略論特講……階戸　照雄……56
現代ファイナンス論特講……建宮　　努……59
アカウンティング論特講……未　開　講
フィナンシャル・アカウンティング論特講…丸森　一寛……62
マネジメント・アカウンティング論特講……丸森　一寛……65
マーケティング論特講……雨宮　史卓……68
人材マネジメント論特講……加藤　孝治……71
多国籍企業論特講……諸上　茂登……74
流通ビジネス論特講……小林二三夫……77
ビジネス法特講……中村　　良……80
ファミリービジネス論特講……未　開　講
ファミリーガバナンス論特講……階戸　照雄……83
事業創造論特講……中村裕一郎……86
事業承継論特講……曽根　秀一……89
中小企業論特講……未　開　講

専攻共通科目

調査分析特講……田中堅一郎……92
統計基礎Ⅰ……荒関　仁志……95
統計基礎Ⅱ……荒関　仁志……98
ゲーム理論……荒関　仁志……101

国 際 情 報 専 攻

（シラバス）

シ　ラ　バ　ス

シラバスには , 教材の概要・参考図書・履修上のポイント・リポート課題が掲載されています。履修登録時に参照してください。

リポートの提出期限は , ９月・１月（予定）となっています〔詳細は研究科報（ホームページ）にてお知らせします〕。

科目名	国際情報論特講	担当者	加藤（カトウ）　孝治（コウジ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	これから国際情報分野（国際・政治・経済・経営）を学び、諸領域の研究を行う際に必要なリテラシーを学ぶ。具体的には研究を行う上で欠かせない論文作成上の注意事項、研究倫理、文献検索の方法等理解するとともに、研究基盤となる知識・教養の涵養を目的とする。 Ⅰ.問題発見･解決力：事象を注意深く観察し，解決策を提案することができる。 Ⅱ.論理的･批判的思考力：得られる情報を基に，論理的な思考，批判的な思考ができる。 Ⅲ.倫理観：豊かな知識を基に，倫理観を高めることができる。
到達目標	【一般目標（GIO)】 ・国際情報分野で研究および論文を作成するうえで「常識」とされる知識を理解する。 【行動目標（SBOs)】 ・修士論文を作成するまでに必要な 3 つのリテラシーを理解できる。 　①研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件の把握 　②自分の研究課題に関する先行研究を文献検索する方法 　③研究を進める上でやってはいけない研究倫理上の問題 ・自分の研究領域において必要な知識を得て，自分の研究課題を具体化することができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・スクーリングでは 15 回の講義に出席。在宅学修（リポート作成）では 1 つのリポート作成にあたり基本教材および参考文献の読み込みに 25 時間以上，manaba-Folio への提出・再提出のやりとりに 20 時間以上要することを目安とする。
学修方略（方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・リポートの推敲過程において，manaba folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し，その過程を受講生全員に公開する。 ・必要に応じオープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 【学修方略（LS)】 ・指定された基本教材，および参考文献を読みこなし，リポートを作成し manaba folio に提出する。提出されたリポートについて担当者が検討すべき事項を指摘して修正版の提出を求める。これらを繰り返して合格水準に達するリポートを完成させる。この過程において疑問が生じた場合には，Manaba-Folio を通して適宜担当者に質疑をする。 ・5 月初旬に 3 日間実施されるスクーリング（集中面接授業）に全日程出席することが、単位取得の要件となる。また、リポート課題についてもスクーリング後、指定された期限までに manaba folio に提出する。<u>なお、補講を実施する場合がある。</u> 【学修時間】 ・在宅学修では、リポート課題 1 つにつき、完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20 時間、2)リポート執筆；10 時間、3)リポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導を含む)；15 時間。
スケジュール	この講義は，大学院の初年度教育に関する内容なので，日程の調整を図り、初年度に履修すること。 ＜通信授業（在宅学習）　２単位：基本教材 1＞ 1）基本教材 1. のリポート課題 1 　初稿〆切　2020 年 6 月末日　→　最終稿〆切　学事暦に定める前期リポート提出期限 2）基本教材 1. のリポート課題 2 　初稿〆切　2020 年 11 月末日　→　最終稿〆切　学事暦に定める後期リポート提出期限 ＜スクーリング　２単位＞ 　2019 年 5 月 2 日～4 日　（9 月中に補講を実施する場合がある。） 1）研究、及び論文作成に必要なリテラシー（三専攻合同講義） 2）国際情報専攻分野における様々な課題（担当：各科目担当教員） 　1）スクーリング・リポート課題１：スクーリング 1 週間後（初稿のみ） 　2）スクーリング・リポート課題２：スクーリング終了の１か月後（初稿のみ）

成績評価	種　別	割合	評価基準
	通信授業 （在宅学習）	50%	リポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）: 35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）: 15%
	スクーリング	50%	リポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）: 35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）: 15%

履修者への要望	・円滑な学習のため、履修届を提出したら担当教員（kato.koji115@nihon-u.ac.jp）に必ずメールにて連絡すること。 ・学修およびリポート作成についての注意事項については、全て Manaba Folio の「国際情報論特講」の掲示板で告知するので、必ず定期的にチェックすること。 ・リポートを作成する際には、事実と意見を峻別すること。また、意見のうち他者の意見と自分の意見を峻別し、前者については引用部分と出典を明らかにし、後者についてはその根拠を論理的に説明すること。

【リポート課題】

基　本　教　材　１（通信授業/在宅学習用）		
教材の概要	著者名： 教材名：	船橋洋一 『検証　日本の「失われた 20 年」』（東洋経済新報社，2015 年） ISBN: 978-4492396179　3,080 円+税
参考図書	(1)著者名： 教材名：	山家悠紀夫 『日本経済 30 年史　バブルからアベノミクスまで』（岩波新書，2019 年） ISBN: 978-4004317999　900 円+税
	(2)著者名： 教材名：	博報堂生活総合研究所 『生活者の平成 30 年史　データで読む価値観の変化』（日本経済新聞社，2019 年） ISBN: 978-4532176549　2,080 円+税
	(3)著者名： 教材名：	日本経済新聞社(編) 『令和につなぐ平成の 30 年』（日本経済新聞社，2019 年） ISBN: 978-4492396179　2,800 円+税
履修上のポイント	国際情報専攻で学ぶ領域は、政治・経済・企業経営と幅広い分野に跨っているが、それぞれの分野の研究に必要な知識は独立しているのではなく相互に関係している。近現代の日本の歴史を振り返りつつ、研究に必要な論点を幅広く把握してほしい。浅くとも広い知識を持つことは、自分の研究テーマに沿った深い研究を進めることに十分に役に立つものとなることを理解してほしい。	
リポート課題 1	自らが研究テーマとして取り上げる内容に**最も近い章**を一つ選び、その内容を要約し、筆者の意見に対して賛成するか反対するかを明確にして、自らの意見を述べてください(1500 字程度)。その際に、課題図書以外の参考文献（必ずしも参考図書を含む必要はない）を必ず記入すること。	
リポート課題 2	自らが研究テーマとして取り上げる内容とは**異なるテーマを取り上げている章**を一つ選び、その内容を要約し、筆者の意見に対する自らの意見を述べてください(1500 字程度)	

基　本　教　材　２（スクーリング）	
教材の概要	著者名：　　スクーリングあるいは個別ゼミにおいて、特別研究担当教員より提示された推薦図書 教材名：
参考図書	自らの研究を進めていくために、必要と思われる資料を選択し、研究計画書を作成するときに参考としてください。なお、参考として選択した参考図書・論文は、研究計画書上に記載すること。
履修上のポイント	スクーリング前半の「大学院における研究及び論文作成に必要な基礎的事項」において、①研究及び論文の最低条件を理解する、②研究倫理を含む研究を進めるための基本的なスキルを身につける、③研究及び論文作成のモチベーションを高める、という 3 つの目的を達成して修士論文を作成するために必要な研究リテラシーを涵養するとともに、後半の「各専攻分野における様々な問題」において、国際情報専攻分野の研究基盤となる知識・教養の涵養に努めること。
リポート課題 1	スクーリングの概要を要約し、それについての意見をまとめてください。その際に、前半の共通講義と後半の専攻ごとの講義を分けて意見をまとめてください（1,000 字から 1,500 字）。
リポート課題 2	各分野の研究方法の講義や基本教材および参考図書、並びにスクーリングでの発表およびディスカッションを踏まえて、入学前に検討していた研究計画を見直し、再作成した**研究計画書**（3,000 字から 4,000 字）を提出すること。なお、その際に、必ず指導教員のレビューを受けてください。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」「研究の取り組み方」について全体的な理解をする 教材に基づく学修（第１章から第３章につき通読する）
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、大学院の学び方を理解する 教材に基づく学修（第４章から第６章につき通読する）
第３回	教材に基づく学修（第７章から第９章につき通読する）
第４回	教材に基づく学修（第 10 章から第 12 章につき通読する）
第５回	教材に基づく学修（第 13 章から第 15 章を通読する）
第６回	「学修の進捗状況・課題の取組方針」について、担当教員と認識を共有する （自らの取り組むテーマ２つを確定し、リポート作成方針のすり合わせを行う）
第７回	教材に基づく学修（テーマ選択①の対象章につき精読し、初期原稿を作成する）
第８回	教材に基づく学修（選択したテーマ①に係る参考文献を探索し、提出原稿―初稿―を作成する）
第９回	教材に基づく学修（テーマ選択②の対象章につき精読し、初期原稿を作成する）
第 10 回	教材に基づく学修（選択したテーマ②に係る参考文献を探索し、提出原稿―初稿―を作成する）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	三専攻合同講義 （専攻主任が分担して担当）	研究，及び論文作成に求められるもの　（加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
第２回		主な研究スタイルと論文の構成－研究目的の決め方と論証・検証の方法」 （加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
第３回		研究倫理１（田中堅一郎）
第４回		研究倫理２（田中堅一郎）
第５回		先行研究のレビューとその利用方法　（保坂敏子）
第６回		研究及び論文についての概論　（加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
第７回		研究及び論文の進め方　（加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
第８回	国際情報専攻 （講義の順番は変更される可能性がある）	国際・政治分野１（瀧川修吾）　日本政治史論
第９回		国際・政治分野２（川中敬一）　危機管理論／戦略情報論
第 10 回		経営・経済分野１（中村良）　ビジネス法
第 11 回		経営・経済分野２（階戸照雄）　ファミリーガバナンス論
第 12 回		経営・経済分野３（丸森一寛）　フィナンシャル・アカウンティング論／マネジメント・アカウンティング論
第 13 回		経営・経済分野４（前野高章）　国際経済政策論
第 14 回		経営・経済分野５（中村裕一郎）　事業創造論
第 15 回		経営・経済分野６（加藤孝治）　国際情報論／人材マネジメント論

※各講義については，１回あたり９０分で実施する。

科目名	戦略情報論特講	担当者	川中（カワナカ） 敬一（ケイイチ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は、ある目的を有する行動の包括的方針たる戦略策定に必須となる情報の意義と扱い方に関する知識を修得することにより、以下の能力を取得することを目的とします。なお、本講座では、軍事・外交戦略情報を題材とします。 ① 世界諸国の歴史や政治、文化、価値観、信条、技術等の社会的現状及び相互関係を総合的かつ比較的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。 ② 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的情報に基づく論理的・批判的な考察を通じ、課題に対し具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。 ③ 学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。
到達目標	【一般目標（GIO）】 学修者は、行動を成功に誘導する前提となる包括的総方針たる戦略を構築し、戦略の成否を決定する社会現象の現状を正確に認識する基盤たる情報を駆使できるようになるために、戦略における情報の意義を知悉することにより、両者を巧妙に駆使するに必要な素養を修得する。 【行動目標（SBOs）】 ① 学修者が、『孫子』を通じて普遍の戦略における情報の意義を説明することができる。（知識） ② 学修者が、国際安全保障を具体例として、戦略における情報の扱い方を修得できる。（技能） ③ ①及び②により修得した知識と技能をもって、自己を取り巻く社会現象における戦略構築と情報の正しい扱いを駆使するよう意識する。（態度）
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ① 指定図書及び参考図書の読書と課題答申草案を作成する。 ② Manaba- folio のコレクション利用によるインタラクティヴな個別指導を受ける。 【学修方略（LS）】 ① リポート作成を通じた意志決定と行動に必須な戦略・情報の相関関係の標準理解を構築。 ② 自己構築標準理解の適用による付与された課題の意義を評価。 ③ 個別指導を通じた自己構築標準理解の深化及び実用性向上。 【準備学修項目と準備学修時間】 ① 基本教材及び参考資料読書：20 時間（リポート 1 編当たり） ② 情報の扱い方修得：10 時間（リポート 1 編当たり） ③ 国際情勢における情報と戦略との関連づけ：5 時間（リポート 1 編当たり） ④ 戦略構築と情報の扱い方の応用：10 時間（リポート 1 編当たり）

スケジュール		
	前　期	初稿提出期限：2020 年 7 月 20 日 00:00 最終提出期限：最終稿の提出期限は学事暦に従う
	後　期	初稿提出期限：2020 年 11 月 15 日 00:00 最終提出期限：最終稿の提出期限は学事暦に従う

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	８０％	① 戦略に寄与する情報という構図を維持しているか。 ② 結論と導出過程が簡明に連接しているか。 ③ 引用・参照を適切かつ正確に記述したか。
	観察記録	２０％	① 不明点を早期かつ率直に質問したか。 ② 指導に対する真摯な受容と積極的再検討を行ったか。 ③ 指定図書及び参考図書以外の資料も自発的に駆使したか。

履修者への要望	① 国際政治関連を学ぶ学生は無論、経営・経済を学ぶ学生にこそ履修を強く推奨します。安易に使用されがちな「戦略」と「情報」という概念の根源的峻厳さを知悉することは、経営・経済活動において、必ずや大きな参考となるでしょう。 ② 基本教材１は、反復読書を推奨します。そして、本書が、なぜ時空を超越して読み継がれているのかを熟考してみてください。 ③ 基本教材 2 は、外国との“距離”が著しく短縮され、多方面にわたって連接している現代のあらゆる活動に、軍事問題が深く関わっていることを意識しながら読書してみてください。 ④ 基本教材１により修得した戦略と情報の関係における原則を、現実の国際安全保障でいかに具現化されているかを基本教材２において意識しながら学修するよう心掛けてください。 ⑤ 戦略や情報という概念は、私心を排除した“公”のために活用されるべきものであることを感得してください。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　浅野裕一 教材名：　『孫子』(講談社学術文庫,1997 年) ISBN:978-4-061-59283-4/1,000 円＋税
	本書は、約 2,500 前から、アジア圏にとどまらない全世界で今日まで読み継がれている不滅の戦略指南書である。主として、戦略に関わる不変的鉄則が一貫して記述されています。同時に、随所に軍事的決心・行動（戦略的思考・判断・行動）を成功に結実させるに必要な情報の種類と扱い方の真髄が述べられています。更には、政治（集団最高意志決定層）と軍事（実務活動層）との関係のあり方、将軍（行動責任者）の資質にまで言及されています。本書を通じて、行動の包括的方針たる戦略と、その正当性の根拠となる情報とのあるべき関係を感得できるでしょう。
参考図書	①浅野祐吾『軍事思想史入門』(原書房，2010 年) ISBN:978-4-56204-566-2/3.200＋税 ②金澤治『老子』(講談社学術文庫，1997 年) ISBN:978-4-06159-278-0/1,010 円＋税 ③村井友秀『戦略論大系⑦毛沢東』(芙蓉書房出版，2004 年) ISBN:978-4-82950-308-9/3,800 円＋税 ④海洋政策研究財団『中国の海洋進出』(成山堂書店，2013 年) ISBN:978-4-425-53151-6/2,400 円＋税
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意してください。 ①情報には、多くの分野・種類があることに留意してください。 ②戦略（包括的方針）に情報が重要な作用を及ぼす理由に留意してください。 ③戦略も情報も、人間の問題によって有効性が大きく左右されることに留意してください。 ④君主（集団最高意志決定者）と将軍（行動責任者）とのあるべき関係と資質に留意してください。 ⑤将軍（行動責任者）による将兵（実行者）の統帥における要訣は何かに留意してください。 ⑥孫子とともに、毛沢東軍事思想を是非とも関連づけて読んでください。
リポート課題 1	「孫子の軍事思想における戦略策定・実行と情報との関連を示す箇所を要旨と共に列挙せよ」(4,000～6,000 字) **留意点**：戦略情報と戦術情報、そして、情報活動の３側面から考察してください。
リポート課題 2	「孫子の軍事思想における戦略・情報と統率との関係を考察せよ」(4,000～6,000 字) **留意点**：戦略も情報も、君主、将軍と兵士という人間の問題により、その効力が大きく異なることに留意してください。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　ジョン・ベイリス、ジェームズ・ウィルツ、コリン・グレイ 教材名：　『戦略論』(勁草書房，2012 年) ISBN:978-4-326-30211-6/2,800 円＋税
	本書は、戦略の基本概念を知るうえでの英語圏における入門書の邦訳版ですが、最終章で戦略と情報との関係の説明が盛り込まれ、欧米が理解する戦略と情報との基本概念の理解の一助となるでしょう。
参考図書	①北岡元『インテリジェンスの歴史－水晶玉を覗こうとする者たち』(慶應義塾大学出版会，2008 年) ISBN：4-7664-1300-8/2,500 円＋税 ②北岡元『インテリジェンス入門－利益を実現する知識の創造』(慶應義塾大学出版会，2009 年) ISBN:978-4-7664-1662-4/2,400 円＋税
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意してください。 ①戦略が、科学（Science）ではなく術（Art）と定位される意味に留意してください。 ②戦略情報には、どのような分野（要素）が必須であるかに留意してください。 ③「孫子兵法」と比較し、文化に関係なく必須とされる戦略情報要素は何かに留意してください。 ④「孫子兵法」との差異が生じる原因に留意してください。
リポート課題 1	「戦略策定及び修正に当たって必要とされる情報に関して、収集・分析を必須とする分野を理由とともに列挙せよ」(4,000～6,000 字) **留意点**：軍事の活動実態と空間的特性は何かに注目してみてください。
リポート課題 2	「孫子兵法と英語圏との戦略情報に関し、共通点と相違点をそれぞれの要旨とともに考察せよ」(5,000～7,000 字) **留意点**：人間に関わる要素に特に注目してみてください。

基本教材 1

第 1 回	課題の意図を熟考する。教材の“解説（261 頁以降）”に基づく学修①（孫子兵法の全体像）を実施する。
第 2 回	教材の「計篇」及び「作戦篇」に基づく学修②を実施する。
第 3 回	教材の「謀攻篇」に基づく学修③を実施する。
第 4 回	教材の「形篇」及び「勢篇」に基づく学修④を実施する。
第 5 回	教材の「虚実篇」及び「軍争篇」に基づく学修⑤を実施する。
第 6 回	教材の「九変篇」及び「行軍篇」に基づく学修⑥を実施する。
第 7 回	教材の「地形篇」に基づく学修⑦を実施する。
第 8 回	教材の「九地篇」に基づく学修⑧を実施する。
第 9 回	教材の「用間篇」及び「火攻篇」に基づく学修⑨を実施する。
第 10 回	教材全体に基づく学修⑩（戦争の意義、政軍関係、処理すべき情報分野に関する考察）を実施する。
第 11 回	教材全体に基づく学修⑪（戦争における人間に関わる問題処理）を実施する。
第 12 回	リポート課題 1 及び 2 の考察結果を初稿として提出する。
第 13 回	リポート課題 1 及び 2 の初稿に対する教員からの指導を受け、それに基づき初稿の内容を再考する。
第 14 回	リポート課題 1 及び 2 の再考結果と各課題の意図との整合性を確認する。
第 15 回	リポート課題 1 及び 2 の最終結果を提出する。

基本教材 2

第 1 回	課題の意図を熟考する。教材の序章及び第 1 章に基づく学修①（戦略と戦争の概要）を実施する。
第 2 回	教材の第 2 章に基づく学修②（近代戦争と戦略）を実施する。
第 3 回	教材の第 3 章に基づく学修③（代表的戦略理論）を実施する。
第 4 回	教材の第 4 章に基づく学修④（戦略文化）を実施する。
第 5 回	教材の第 6 章に基づく学修⑤（戦略の地理的要素）を実施する。
第 6 回	教材の第 7 章に基づく学修⑥（戦略の技術的要素）を実施する。
第 7 回	教材の第 8 章に基づく学修⑦（戦略とインテリジェンス）を実施する。
第 8 回	基本教材 1 に基づく学修⑧（孫子兵法における情報の理解と扱い方）を実施する。
第 9 回	基本教材 2 に基づく学修⑨（欧米戦略理論における情報の理解と扱い方）を実施する。
第 10 回	基本教材 1 及び 2 に基づく学修⑩（孫子と欧米における戦略情報の理解と扱い方の比較）を実施する。
第 11 回	学修⑩に基づく学修⑪（孫子と欧米の相違発生の理由に関する考察）を実施する。
第 12 回	リポート課題 1 及び 2 の考察結果を初稿として提出する。
第 13 回	リポート課題 1 及び 2 の初稿に対する教員からの指導を受け、それに基づき初稿の内容を再考する。
第 14 回	リポート課題 1 及び 2 の再考結果と各課題の意図との整合性を確認する。
第 15 回	リポート課題 1 及び 2 の最終結果を提出する。

科目名	危機管理論特講	担当者	カワナカ ケイイチ 川中 敬一	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　的	本講座は、自らの関心事象の歴史的淵源及び経緯を知ることにより、当該事象の推移の方向性を測る尺度を修得することを目的とする。 ①　世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条等の現状及び相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。 ②　仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的情報に基づく論理的・批判的な考察を通じ、課題に対し具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。 ③学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学習に活かすことができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 意志決定者が、適切な情勢判断を実施するために、関心事象の歴史的分析方法を理解し、当該事象の推移の方向性を測る尺度を構築する能力を修得する。 【行動目標（SBOs）】 ①　学修者が、米国及び中国の政治・経済・文化の統合的理念を説明することができる。（知識） ②　上記統合的理念達成過程における軍事の定位・機能を関連づけられる。（知識） ③　①及び②により得た尺度に基づく現実の事象の意義を評価できる。（技能） ④　①～③により修得した尺度を常時点検し、精度向上に努めることができる。（態度）		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ①　指定図書及び参考図書の読書と課題答申草案を作成する。 ②　manaba folio のコレクション利用によるインタラクティヴな個別指導を受ける。 【学修方略（LS）】 ①　リポート作成を通じた米中両国の統合的理念の整理及び現象評価尺度の構築。 ②　自己が構築した尺度の適用による付与された現象の意義を評価。 ③　個別指導を通じた自己構築尺度の精度向上努力。 【準備学修項目と準備学修時間】 ①　基本教材及び参考資料読書：15 時間（リポート１編当たり） ②　自己の評価尺度構築：15 時間（リポート１編当たり） ③　付与現象の意義評価：10 時間（リポート１編当たり） ④　尺度再構築・精度向上：5 時間（リポート１編当たり）		
スケジュール	前　期	初稿提出期限：７月２０日００：００ 最終提出期限：最終稿の提出期限は学事暦に従う	
	後　期	初稿提出期限：１１月１５日００：００ 最終提出期限：最終稿の提出期限は学事暦に従う	
成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	①　SOB①及び②を精度に関わらず明確に構築できているか。 ②　結論と結論導出過程が明確に連接しているか。 ③　引用・参照を適切かつ正確に記述したか。
	観察記録	20%	①　不明点を早期かつ率直に質問したか。 ②　指導に対する真摯な受容と積極的な再検討をしたか。 ③　指定図書及び参考図書以外の資料も自発的に駆使したか。
履修者への要望	①　国際政治関連を学ぶ学生は無論、経営・経済を学ぶ学生の履修を歓迎します。経営・経済と国際的枠組みとは無縁ではないことを知っていただきたいと思います。 ②　基本教材と参考図書のみでは、課題に答申しきれないかもしれません。その際は、担当教員に必要な資料を問い合わせることを推奨します。 ③　「講義概要」では記述しきれない細部については、履修後直ちに各学生に伝達します。 ④　リポートは、読書と並行しながら作成することを推奨します。疑問が湧いたり、行き詰まった都度、担当教員を存分に利用してください。 ⑤　履修登録と同時に、担当教員に履修した旨を連絡してください。 kawanaka.keiichi@nihon-u.ac.jp		

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　麻田貞雄 教材名：　『マハン海上権力論集』（講談社、2010 年）ISBN:978-4-06-292027/920 円
	①　米国の海外進出の理論的基板であり、後年における日本やアジア地域との確執の萌芽を生み出したマハンによる海洋戦略思想と米国の発展方向を包括的に理解する上での必読書である。 ②　米国建国以来の海外利権と、アジア（特に日本・中国）観を理解する上での必読書である。
参考図書	①　渡辺惣樹『日本開国』（草思社、2016 年）/978-4-7942-2204-6/880 円 ②　松岡完等『冷戦史』（同文館出版社、2003 年）/978-4-4495-46331-1/3,190 円 ③　末里周平『セオドア・ルーズベルトの生涯と日本』（丸善プラネット、2013 年）/978-8-4863-45173-5/1,600 円
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意してください。 ①　米国の建国理念が、国家建設過程において、いかなる変容と遂げたか。 ②　マニフェスト･デスティニーという概念が､米国対外市場の各現象にどのように作用したのか。 ③　①と②の延長で、米国の不変的な対中国・日本観は、どのようなものか。 ④　①～③で得られる米国の不変構造の今日的意義は、どのようなものか。
リポート課題 1	「米国の対中姿勢における変動の原因を米国の伝統的アジア観を基軸にして考察せよ」 **留意点**：アジアにおける米国の究極的利益は何かを中心に考察してください。
リポート課題 2	「第 2 次世界大戦で日米が衝突した遠因を米国の歴史的アジア観を基軸にして考察せよ」 **留意点**：中国をめぐる日米の利権争奪という側面から考察してください。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　岡本隆司 教材名：　『中国の論理』（中央公論新社、2016 年）/978-4-12-102392-6/902 円
	欧米世界とは異なる価値観・秩序観に立脚した悠長の歴史を歩んできた“中華”世界特有の中国と台湾という隣国の不変部分と可変部分とを理解する上で極めて有用な良書である。特に、中華世界の指導者たちの理念と思考方式を理解する上での必読書である。
参考図書	①　岡本隆司『歴史で読む中国の不可解』（日本経済新聞出版社、2018 年）/978-4-5322-6378-4/935 円 ②　丸川哲史『魯迅と毛沢東』（以文社、2010 年）/978-4-7531-0278-5/2,800 円 ③　海洋政策研究財団『中国の海洋進出』（成山堂書店、2013 年）/977-8-4425-53151-6/2,400 円 ※　中古のみ入手可能。第 4 章「海洋をめぐる中国の戦略的構造」：担当教員執筆 ④　田越英『図解　現代中国の軌跡　中国国防』（科学出版社東京、2018 年）/978-4-907051-42-6/4,180 円 ⑤　楊鳳春『図解　現代中国の軌跡　中国政治』（科学出版社東京、2018 年）/978-4-907051-43-3/4,180 円 ⑥　ハインリッヒ・シュリーマン『シュリーマン旅行記　清国・日本』（講談社、1998 年）/4-06-159325-0/880 円
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意してください。 ①近代中国の各政権の理念における連続性と不連続性は何か。 ②中華世界の指導者の不変的な国内統治観と対外姿勢とは、それぞれどのようなものか。 ③①と②の延長にある近代中国革命の本質と、それが現今の国内外政治へ及ぼしている影響。 ④①～③で得られる中華世界を基軸とした国際社会構造における日本の定位を考察する。
リポート課題 1	「中国の領土問題に関わる特殊性形成の淵源を具体的に考察せよ」 **留意点**：近代史における“天下”概念と台湾問題に留意して考察してください。
リポート課題 2	「日米による南シナ海問題への関与の意義を中国の立場から考察せよ」 **留意点**：領土問題において中国が妥協可能とみなすか否かを基軸に考察してください。

基本教材１

第１回	課題の意図を熟考する。教材の「解説」に基づく学修①（マハン海権思想の背景・全体像）を実施する。
第２回	教材の「海上権力の歴史に及ぼした影響」に基づく学修②（シーパワーの要旨）を実施する。
第３回	教材の「海上権力の歴史に及ぼした影響」に基づく学修③（シーパワーの要旨）を実施する。
第４回	教材の「合衆国海外に目を転ず」に基づく学修④（19 世紀末の米国の情勢）を実施する。
第５回	教材の「合衆国海外に目を転ず」に基づく学修⑤（19 世紀末の米国の情勢）を実施する。
第６回	教材の「ハワイとわが海上権力の将来」に基づく学修⑥（米国の海外侵略の原型）を実施する。
第７回	教材の「20 世紀への展望」に基づく学修⑦（米国の選民思想）を実施する。
第８回	教材の「海戦軍事充実論」に基づく学修⑧（米国政治における海軍の地位）を実施する。
第９回	教材の「アジアの問題」に基づく学修⑨（米国の対アジア観）を実施する。
第 10 回	教材の「アジア情況の国際政治に及ぼす影響」⑩（マハンの日本・中国観）を実施する。
第 11 回	リポート課題１及び２の考察結果を初稿として提出する。
第 12 回	リポート課題１に関する教員からの指導を受け、それに基づき初稿の内容を再考する。
第 13 回	リポート課題２に関する教員からの指導を受け、それに基づき初稿の内容を再考する。
第 14 回	リポート課題１及び２の再考結果と各課題の意図との整合性を確認する。
第 15 回	リポート課題１及び２に関する最終結果を提出する。

基本教材２

第１回	課題の意図を熟考する。教材の「Ⅰ　史学」に基づく学修①（中国における儒教の影響）を実施する。
第２回	教材の「Ⅰ　史学」に基づく学修②（中国人の歴史観）を実施する。
第３回	教材の「Ⅱ 社会と政治」に基づく学修③（中華の伝統的エリート）を実施する。
第４回	教材の「Ⅲ 世界観と世界秩序」に基づく学修④（天下の意味）を実施する。
第５回	教材の「Ⅲ 世界観と世界秩序」に基づく学修⑤（東アジア世界の形成と華夷秩序）を実施する。
第６回	教材の「Ⅳ 近代の到来」に基づく学修⑥（西洋の衝撃の定位）を実施する。
第７回	教材の「Ⅳ 近代の到来」に基づく学修⑦（変革の胎動と梁啓超）を実施する。
第８回	教材の「Ⅴ 革命の世紀」に基づく学修⑧（あとをつぐもの）を実施する。
第９回	教材の「Ⅴ 革命の世紀」に基づく学修⑨（毛沢東）を実施する。
第 10 回	教材の「Ⅴ 革命の世紀」に基づく学修⑩（改革開放の歴史的位置）を実施する。
第 11 回	リポート課題１及び２の考察結果を初稿として提出する。
第 12 回	リポート課題１に関する教員からの指導を受け、それに基づき初稿の内容を再考する。
第 13 回	リポート課題２に関する教員からの指導を受け、それに基づき初稿の内容を再考する。
第 14 回	リポート課題１及び２の再考結果と各課題の意図との整合性を確認する。
第 15 回	リポート課題１及び２に関する最終結果を提出する。

科目名	組織倫理論特講	担当者	坂井（サカイ） スオミ	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本科目はグローバルな視点で組織倫理と人権促進、持続可能なビジネスおよび開発との関連性また組織倫理向上のための各ステークホルダーの役割を分析、理解し複数の解決策を提示して説明できることを目的とする。
到達目標	【一般目標（GIO)】 組織倫理が人権促進、持続可能なビジネスまた開発にもたらす影響を分析する能力を身につけ、組織倫理向上のためのオプションを理解する。 【行動目標（SBOs)】 倫理的意思決定、戦略決定の方法論を理解し、それを使って実際のケースを分析する。グローバル化が組織倫理の実施にもたらすチャレンジを理解する。日本政府だけでなく日本企業及び市民が人権の保護促進、持続可能な開発等の SDG の国内外での達成にどのように貢献できるかを組織倫理の視点から分析し、行動案のオプションを探る。
学修方略（方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 (1) 科目は e-learning が主な学習方法である。 (2) Web リサーチ及び manaba を通じた教員とのコミュニケーションを使用する。 (3) レポートを通じた学修は、課題に沿って作成し、manaba を通じて教員のコメントなどを参考にして修正を重ねて、最終版としてまとめてから manaba に改めて最終版として提出するプロセスを経る。 【学習方略(LS)】 (1) 新しい情報を常に入手することが重要となるので関連する website や新聞記事などの分析は欠かせない。そのため日常からの情報収集にも配慮する。 (2) 具体的には教材や参考図書をもとにそれらから吸収したうえで関連した新情報も分析し、レポートの課題に対する自分の考えをまとめる。 【準備学修項目と準備学修時間】 (1) レポート作成のための準備学修は教材を読み、Web リサーチをすることが主である。教材を読むのに課題につき 20 時間、Web リサーチは課題につき計 5 時間を目安とする。レポート作成及びマナバコメントに基づく修正に課題につきそれぞれ 20 時間を目安にする。従って課題(レーポート一本)につき 45 時間強を目安とする。
スケジュール	提出期日は manaba-folio ならびに学事歴記載のとおり。教員のコメントに基づいた学修であるため以下のようなスケジュールが目安として考えられる。 前期: レポート課題１の草稿は 7 月末、課題２は 8 月末を目安に提出する。取り上げる課材については草稿をまとめる前にマナバもしくはメールで相談することが望ましい。 後期: レポート課題１の草稿は 11 月中旬、課題２は 12 月中旬を目安に提出する。取り上げる課材については草稿をまとめる前にマナバもしくはメールで相談することが望ましい。 最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	課題に沿った論理構築がされているか。 3000～4000 字という短い字数で自分の意見をまとめているか。 十分に教材を読み込んでいるか。 参考文献、Web リサーチなどの情報検索が十分であるか。 脚注などレポート作成に必要な情報が正確に含まれているか。
	観察記録	20%	Manaba を通して行われるコメントに関する修正度合。

履修者への要望	理論的であることと自分の意見をまとめることを主眼としているので、どんな小さな点でも構わないので自分の考えや気づきを大切にしてレポートを書いていただきたい。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　ジョゼフ・R・デジャルダン（文京学院大学グローバル・カリキュラム研究会訳） 教材名：　『ビジネス倫理学入門』(文京学院大学総合研究所、2014 年) ISBN: 978-4-905194-72-9　　2,700 円
	ビジネス倫理を企業の経営者や経営幹部の視点からだけでなく、従業員、顧客そして市民の視点から検討する枠組みを提供する。倫理的組織を創り、推進するため倫理的問題の理解、分析、その意義を理解する感受性を養うことを目的とした書籍である。グローバル化の中、重要性が増している環境責任、多様性と差別、文化の違いを超えた価値観と国際的な権利の考察もする。
参考図書	増田英次 『もうやめよう！その法令尊守』 (フォレスト出版、2012 年)　ISBN: 978-4-89-451467-6　　1,512 円
履修上のポイント	以下の点に留意してレポートをまとめる: (1) 組織倫理と法律の関係; (2) 組織倫理と平等、公正、ジェンダー、持続可能な開発、人権などの概念の関連性; (3) 倫理的決定の過程; (4) 倫理的決定の推進における企業経営者、従業員、顧客、政府そして市民の役割。
リポート課題 1	近年日本でニュースになった企業もしくは他の組織のスキャンダルを選び、そこにどのような倫理的問題が含まれているかを検討し、その問題を各種ステークホルダーの視点から考察し、倫理学理論及び個人と地域社会の権利と組織経営者、従業員、顧客、政府、市民等の観点から分析する。 **留意点**： 新聞記事や website の分析が重要である。
リポート課題 2	持続可能なビジネスの実現と組織倫理との関連を様々なステークホルダーの視点から検討しそれぞれの役割について自分なりの議論を展開する。 **留意点**： グローバルなビジネス環境の中でのサプライチェーン・マネジメントも考慮する。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　ジョン・ジェラルド・ラギー（東澤 靖 訳） 教材名：　『正しいビジネス』（岩波書店、2014 年）　ISBN: 978-4-00-025976-7　　3,672 円
	ビジネスによる人権への有害な影響はビジネス界、各国政府そして市民社会から国際問題としての認識が高まっている。この書籍はグローバル化の中、人権の「保護・尊重・救済の枠組み」とこれをもとにした「ビジネスと人権に関する指導原則」が定められる過程を描いてる。
参考図書	海野みづえ、『新興国ビジネスと人権リスク』、現代人文社、2014 年、ISBN: 978-4-87798-587-5, 2,970 円
履修上のポイント	以下の点に留意してレポートをまとめる: (1) 持続可能な開発目標（SDG）達成へのビジネス界の役割; (2) 人権の「保護・尊重・救済の枠組み」と「ビジネスと人権に関する指導原則」の実施状況及び課題; (3)「ビジネスと人権に関する指導原則」の実施にあたり、コンプライアンスを超えた組織倫理の持つ役割。
リポート課題 1	人権の「保護・尊重・救済の枠組み」によると政府は第三者による人権侵害からの保護と侵害があった場合の救済の義務がある。各国政府また国際機関は「保護」の実現のためどのような政策、ガイダンスを出しているか、その実施上、組織倫理はどのような役割を持つかを自分なりに議論する。 **留意点**： 贈収賄等の汚職と人権の関連も考慮する。
リポート課題 2	日本が国際社会の一員として「保護・尊重・救済の枠組み」を実行するために政府、ビジネス、市民の持つ役割と課題を探る。「ビジネスと人権に関する指導原則」、組織倫理を考慮して自分なりに議論する。 **留意点**： 持続可能な開発目標(SDG)達成のための日本企業を含めた日本の役割を考慮する。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（なぜ倫理学、倫理学理論とビジネス）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（企業の社会的責任）を行う
第３回	教材１に基づく学修③（企業文化、企業統治、倫理的リーダーシップ、仕事の意味と価値）
第４回	教材１に基づく学修④（職場における道徳権、従業員の責任）
第５回	教材１に基づく学修⑤（マーケティング倫理）
第６回	教材 １に基づく学修⑥（企業の環境責任、多様性と差別）
第７回	教材 １に基づく学修⑦（国際ビジネスとグローバル化）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第８回	リポート課題１・リポート課題２について新聞記事、website で材料を捜索し分析する。
第９回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、草案を提出する
第 10 回	リポート課題１草案に教員から指摘事項を受け、それに基づき初稿を提出する
第 11 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 12 回	リポート課題２草案に教員から指摘事項を受け、それに基づき初稿を提出する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（なぜビジネスと人権）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（チャレンジ）を行う
第３回	教材に基づく学修③（銀の弾丸などはない）
第４回	教材に基づく学修④（保護、尊重、そして救済）
第５回	教材に基づく学修⑤（戦略上の道程）
第６回	教材に基づく学修⑥（次なるステップ）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	リポート課題１・リポート課題２について新聞記事、website で材料を捜索し分析する。
第８回	リポート課題１について考察した内容をまとめ、草案を提出する
第９回	リポート課題１草案に教員から指摘事項を受け、それに基づき初稿を提出する
第 10 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 11 回	リポート課題２について考察した内容をまとめ、草案を提出する
第 12 回	リポート課題２草案に教員から指摘事項を受け、それに基づき初稿を提出する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	現代政治学特講	担当者	井手（イデ）　康仁（ヤスヒト）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座はそもそも政治学の基本的テーマである民主主義とは何かという知識を修得することにより，以下の能力を身に付けることを目的とする。 ① 格差や貧困、テロなど我々の生活を脅かす問題に対しての情報を集め、自ら分析ができる。 ② 既存の政治がそれらに応えることが可能なのか、あるいは限界があるのか、自ら考えることができる。 ③ 現代の民主政治について、より深い見地から理解することができるようになることで，有権者としての自らの行動に責任を持ち、政治についてより深く理解するようになる。 ④ 現代政治の病巣でもあるポピュリズムや排外主義的な主張に対してどのような対処が可能なのか，より深い理解に到達することができる。
到達目標	【一般目標（GIO)】 世界の現状を理解して説明し、有益な情報を選別すると共に、様々な角度から事象を分析し、独自の視点から解説できる力を身につける。 【行動目標（SBOs)】 ① 学修者が世界各国の民主主義制度に関する情報を得た上で、各国の民主主義の特徴を比較して理解する(知識) ② 具体的に各国の民主主義の事例に対して，自ら学習して得た知識を活かして、なぜそれぞれの国ではそれぞれ特徴ある民主主義制度を持っているのか比較検討して考えることで、物事を国際比較する技能を高める(技能) ③ 政治学的な理論(理想)と具体的な各国の民主主義制度(現実)の間には差異があり、そのことを理解しつつ各国の特徴にあわせた考え方を応用的に適用することで，例えば様々な選挙制度の比較や統治組織の比較など、テーマに応じて使いこなせるような思考・行動がとれる(態度)
学修方略 （方法）	【学修方略（LS)・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba folio 並びにメールのやり取りによるインタラクティブな添削指導を実施する。また、受講生の考え方を最大限に大切にしてそれを発展させられるよう、科目担当者の意見を押し付けるようなやり方の指導は避ける。 【準備学修項目と準備学修時間】 まず教材を読み込むことが第一である。教科書そのものは１日あれば十分読破可能なものではあるが、真に内容を理解するためには，具体的な事例の考察を自らやってみることが大切である。そのためにも、図書館を活用して教科書に挙げられている参考文献を調査するところまで進んで欲しい。そのためには、教科書読破にかかった時間の 4～5 倍の時間が必要であることを肝に命じて欲しい。
スケジュール	前期：基本教材１のリポート課題１の最終稿は７月末までに提出。リポート課題２の最終稿は９月中旬までに提出。最終期限は学事暦に従う 後期：基本教材１のリポート課題の最終稿は 11 月末までに提出。リポート課題２の最終稿は１月中旬までに提出。最終期限は学事暦に従う

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	70　％	教材内容を十分に理解し、かつ自分の意見や主張を反映させたリポートになっているか
	観察記録	30　％	意見交換などのプロセスを含めて、その取り組みの姿勢などを平常評価として勘案する。

履修者への要望	各教材、参考図書の意味内容の把握だけに終わることなく、こんにちの政治状況全般に関心を持ち、問題点を把握し、改善策を考えるなど、自らの意見が持てるように努力をすること。そのためにも、日頃から各種のニュースに関心をもって欲しい。他方で、ニュースで取上げられた出来事だけが、全てではないということにも注意して欲しい。例えば、最近の日本では、高齢ドライバーの事故のニュースが連日のように報道されていて、ともすれば若者に比べて高齢者は非常に事故を起こしやすいので免許を取り上げなければといった議論に行き着きやすいが、実際には、10 代、20 代のドライバーによる事故発生率の方がはるかに高いのが現実である。マスコミが選んで報道した出来事がニュースとなり、報道されなかったことに関しては、我々が知らないだけである。報道のみに依拠して議論することは危険であり、何事においても議論をする際には、自分の力で正しい資料を入手した上で議論をはじめるように心がけて欲しい。

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：　森政稔 教材名：　『迷走する民主主義』(筑摩書房，2016 年)ISBN:978-4-480-06881-1　1,000 円+税
	主に最近の日本政治を題材として、民主主義の意義と限界を思想的に問い直して、現在の閉塞状況を打破するための条件について考える。
参考図書	苅部直・宇野重規・中本義彦編『政治学をつかむ』(有斐閣，2011 年) ISBN:978-4-641-17715-4　2,200 円＋税
履修上のポイント	世界がめまぐるしく変動する中で、現代の民主主義が直面している困難について考えるとともに、民主主義をどのように変革していくべきかを考える。民主主義の起源は紀元前に遡るが、近・現代の民主主義は、時代に合わせて何度もモデルチェンジされながら、それぞれの時代に適応して生き続けてきた。民主主義を我々の生活に生かすためにはどうすれば良いか、自分自身のこととして考えてみよう。
リポート課題 1	現代の民主主義のメリットとデメリットはどういった点だろうか。独裁体制のメリットとデメリットと比較しながら論じなさい。 **留意点**：教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。
リポート課題 2	弱者に厳しく彼らの利益にはなりそうにない新自由主義的な政府が、なぜ弱者によって支持される傾向が世界各地でみられるのか考察しなさい。 **留意点**：教材を熟読した上で、具体例を挙げて論じて欲しい。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：　中谷義和・川村仁子・高橋進・松下冽編 教材名：　『ポピュリズムのグローバル化を問う 揺らぐ民主主義のゆくえ』(法律文化社,2017 年)ISBN:978-4-589-03839-5　4,800 円+税
	まず最初にポピュリズムとはどのような性格を持つものであるかについて検討した上で、各国のポピュリズムについて、それぞれの国の歴史的・文化的背景等から分析するものである。
参考図書	W.リップマン著,掛川トミ子訳『世論(上・下)』(岩波書店,1987) ISBN:（上)4-00-342221-X　720 円+税，（下）4-00-342222-8　900 円+税
履修上のポイント	21 世紀になってから、ポピュリズム、ポピュリストという言葉がメディアに登場するようになった。そして、アメリカ大統領選挙でトランプが当選して以降、ポピュリズムという言葉は現代政治を説明するために不可欠な言葉となった感がする。ポピュリストと呼ばれるこんにちの政治家達は、どのようにして世論を動かし、味方につけているのか考えてみよう。
リポート課題 1	世論はどのように形成されるのか。世論はどのように操作される可能性があるのか。例えば郵政民営化や原発問題など、具体的な事例を挙げて論じなさい。 **留意点**：教材を熟読した上で、具体例を挙げて論じて欲しい。
リポート課題 2	あなたがポピュリストであると考える現代の政治家 1 人を挙げて、どのような点においてそう考えられるか、具体的な政策や言動について検証しながら論じなさい。 **留意点**：教材を熟読した上で、具体例を挙げて論じて欲しい。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①を行う
第２回	「学修の進め方」について理解を深め、教材に基づく学修②を行う
第３回	教材に基づく学修③(そもそも民主主義とは何か)
第４回	教材に基づく学修④(民主主義の歴史と成り立ち)
第５回	教材に基づく学修⑤(日本の民主主義は他の先進諸国と比べてどの程度か)
第６回	教材に基づく学修⑥(理想の民主主義の条件について考える)
第７回	教材に基づく学修⑦(最も理想に近い民主主義国はどこか考える)
第８回	教材に基づく学修⑧(失敗した民主主義について考える)
第９回	教材に基づく学修⑨(民主主義の限界について考える)
第 10 回	リポート課題１に取り掛かる
第 11 回	必要に応じてリポート課題に関して教員と意見交換をする
第 12 回	リポート課題１を完成させる
第 13 回	リポート課題２に取り掛かる
第 14 回	必要に応じてリポート課題に関して教員と意見交換をする
第 15 回	リポート課題２を完成させる。

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①を行う
第２回	「学修の進め方」について理解を深め、教材に基づく学修②を行う
第３回	教材に基づく学修③(そもそもポピュリズムとは何か)
第４回	教材に基づく学修④(ポピュリズムの歴史)
第５回	教材に基づく学修⑤(ポピュリズムの危険性)
第６回	教材に基づく学修⑥(世界のポピュリズム)
第７回	教材に基づく学修⑦(日本のポピュリズム)
第８回	教材に基づく学修⑧(ポピュリズムとナショナリズム)
第９回	教材に基づく学修⑨(ポピュリズムと世論)
第 10 回	リポート課題１に取り掛かる
第 11 回	必要に応じてリポート課題に関して教員と意見交換をする
第 12 回	リポート課題１を完成させる
第 13 回	リポート課題２に取り掛かる
第 14 回	必要に応じてリポート課題に関して教員と意見交換をする
第 15 回	リポート課題２を完成させる。

科目名	国際法特講	担当者	安藤（アンドウ） 貴世（タカヨ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	国際法は国家間関係を規律する法であるが，今日，その規律対象は国家に留まらず，国際機関，個人などにも及ぶ。本講座は，こうした点を念頭に，本科目は，国際法の形成と発展，国際法の主体，武力行使禁止原則など，国際法の基本構造を理解したうえで，現代の国際社会が直面している個別具体的な論点や課題について国際法の観点から検討し，理解する力を身につけることを目的とする。
到達目標	【一般目標（GIO)】 ・世界の現状を理解し，自らの言葉で説明する力を身に付けることができる。 ・現代の国際社会が直面する諸問題を発見し，国際法を手掛かりに論理的かつ批判的に思考することができる。さらにそれら諸問題の解決策について提案することができる。 【行動目標（SBOs)】 １）国際法の形成と発展について，国際法の主体（国家，国際組織，個人など）について留意しつつ，理解する（知識)。 ２）今日の世界情勢を念頭に置きつつ，国際法の基本原則たる武力行使禁止原則について，その例外とともに理解し，自らの言葉で説明する力を身につける（知識，技能，態度)。 ３）現代の国際社会における諸問題（難民，個人の国際犯罪，人権の国際的保障，領土・海洋，国際環境保護など）について，自らの関心に沿ってテーマを設定し，国際法の観点から説明する力を身につける（知識，技能，態度)。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を使用し，教員と院生との間での双方向性を重視した添削指導を実施する。 【学修方略（LS)】 ・基本教材，参考図書を熟読する（自習：SBOs①)。必要に応じて関連図書・文献などを参照する（自主研究：SBOs②)。そのうえで，リポート課題に沿って各リポートを作成する（リポート作成：SBOs③)。 ・リポート作成に際しては，オンラインを通じた教員からの指導，コメントや双方向的な質疑応答に基づいて修正を重ね，最終的なリポートを完成させる。また必要に応じて対面指導も取り入れ，リポートの作成，履修生の学修を補完する（ディベート：SBOs④)。 【準備学修項目と準備学修時間】 リポート課題１つにつき，完成までに最低 45 時間の学修時間を要するものとする。目安の時間は以下のとおりとする。 ・基本教材および参考文献の読み込み：20 時間以上／リポート１本 ・リポート執筆：10 時間以上／リポート１本 ・リポートの推敲・最終稿の完成（教員とのやり取りを含む)：15 時間以上／リポート１本
スケジュール	【前期】 ・リポート課題１については草稿を７月末，リポート課題２について草稿は８月末を目安に提出すること。その間，リポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じ対応する。 ・最終稿の提出は，リポート課題１，２ともに学事暦の最終期限に従う。 【後期】 ・リポート課題１については草稿を 11 月中旬，リポート課題２について草稿は 12 月中旬を目安に提出すること。その間，取り上げるテーマ，リポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じ指導，対応する。 ・最終稿の提出は，リポート課題１，２ともに学事暦の最終期限に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80　%	・基本教材，参考図書，その他の文献を用い，課題に沿った十分な検討がなされているか。 ・リポートの構成，論理展開が明確か。 ・脚注，参考文献リスト等リポートの体裁が整っているか。
	観察記録	20　%	教員からのコメントに対する対応，質疑応答など，リポートの最終稿提出までの取り組みを評価する。

履修者への要望	基本教材の理解を前提としつつ，参考図書やそれ以外の関連文献をリサーチしたうえで，テーマ設定，リポート作成を行うことが求められる。 リポート作成にあたっては，単に基本教材等をまとめるだけではなく，国際社会における現代的な問題に関心を寄せ，それらの問題について，国際法をとおし論理的に議論を展開することを心掛けてほしい。

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：　横田洋三編 教材名：　『国際社会と法』(有斐閣，2010 年) ISBN:978-4641046528　2,800 円＋税
	国際法の基本的構造について，特に市民生活と国際法とのかかわり(国際人権分野，国際経済分野等）について取り上げ概説する入門書である。
参考図書	小寺彰ほか『講義国際法（第２版)』(有斐閣，2010 年）ISBN:978-4641046535 4,300 円＋税 柳原正治ほか『プラクティス国際法講義（第３版)』(信山社，2017 年) ISBN: 978-4797224528　3,800 円＋税 岩沢雄司『国際条約集』(有斐閣，2019 年) ISBN: 978-4641001534　2,800 円＋税 (なお,『国際条約集』は最新版のものでなくとも構わない。) 小寺彰ほか『国際法判例百選（第２版)』(有斐閣，2011 年）ISBN: 978-4641115040 2,476 円＋税
履修上のポイント	それぞれのリポート課題の留意点に沿って，基本教材のほかにも，参考図書や，必要に応じて関連の文献なども参照しつつリポートをまとめること。特に，国際法の形成と発展の過程，国際法の基本原則たる武力行使禁止原則について十分に理解し考えることは，今後の学修における基盤となる。
リポート課題１	国際法の形成と発展について，国際法の主体にも留意しつつ論じなさい（4000 字程度）。 **留意点**:基本教材第１章などを参照しつつ，国際法の形成および発展の歴史について，伝統的主体である国家のみならず，国際機構，個人なども国際法の主体と認められるようになった過程にも留意したうえで論ずること。
リポート課題２	戦争違法化，武力行使規制の歴史について整理したうえで，武力行使禁止原則の例外について国連憲章の規定を挙げつつ論じなさい（4000 字程度）。 **留意点**:基本教材第７章などを参照しつつ，戦争違法化の系譜と国連憲章の規定について留意し論ずること。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：　横田洋三編 教材名：　『国際社会と法』(有斐閣，2010 年) ISBN 978-4641046528　2,800 円＋税
	国際法の基本的構造について，特に市民生活と国際法とのかかわり(国際人権分野，国際経済分野）について取り上げ概説する入門書である。
参考図書	小寺彰ほか『講義国際法（第２版)』(有斐閣，2010 年）ISBN:978-4641046535 4,300 円＋税 柳原正治ほか『プラクティス国際法講義（第３版)』(信山社，2017 年) ISBN: 978-4797224528　3,800 円＋税 岩沢雄司『国際条約集』(有斐閣，2019 年) ISBN: 978-4641001534　2,800 円＋税 (なお,『国際条約集』は最新版のものでなくとも構わない。) 小寺彰ほか『国際法判例百選（第２版)』(有斐閣，2011 年）ISBN: 978-4641115040 2,476 円＋税
履修上のポイント	それぞれのリポート課題の留意点に沿って，基本教材のほかにも，参考図書や，必要に応じて関連の論文なども参照しつつリポートをまとめること。特にリポート１，２ともに，取り上げるテーマについては，現代的な問題･課題を念頭に置きつつ，担当教員と十分に相談したうえで決定すること。
リポート課題１	「難民の庇護」，「国際犯罪と個人」，「人権の国際的保障」からテーマを１つ設定し，現代的な問題に触れつつ論じなさい（4000 字程度）。 **留意点**：基本教材第 10 章，第 11 章などを参照しつつ，担当教員と相談のうえテーマを設定し，リポート課題に取り組むこと。
リポート課題２	「領土」,「海洋」，「国際環境保護」をめぐる現代的問題からテーマを１つ設定し，国際法の観点から論じなさい（4000 字程度）。 **留意点**：基本教材第３章のⅠ，第６章，第 13 章などを参照しつつ，担当教員と相談のうえテーマを設定し，リポート課題に取り組むこと。

基本教材１

第１回	教材の学習および本講座の課題の理解
第２回	基本教材１に基づく学修①（国際法の形成と発展について）
第３回	基本教材１に基づく学修②（国際法の主体について）
第４回	参考図書に基づく学修（国際法の形成と発展，国際法の主体について）
第５回	リポート課題１の作成：初校の執筆
第６回	リポート課題１の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第７回	リポート課題１の作成：ピア・レスポンス
第８回	リポート課題１の作成：最終稿の作成
第９回	基本教材１に基づく学修③（戦争違法化，武力行使規制の歴史について）
第 10 回	基本教材１に基づく学修④（武力行使禁止原則の例外について）
第 11 回	参考図書に基づく学修（戦争違法化，武力行使規制の歴史，武力行使禁止原則の例外について）
第 12 回	リポート課題２の作成：初校の執筆
第 13 回	リポート課題２の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題２の作成：ピア・レスポンス
第 15 回	リポート課題２の作成：最終稿の作成

基本教材２

第１回	教材の学習および本講座の課題の理解，課題として取り上げる題材の検討
第２回	基本教材２に基づく学修①（難民の庇護，国際犯罪と個人，人権の国際的保障のいずれかについて）
第３回	基本教材２に基づく学修②（3 つの問題のいずれかに関する現代的な問題について）
第４回	参考図書に基づく学修（難民の庇護，国際犯罪と個人，人権の国際的保障のいずれかについて）
第５回	リポート課題１の作成：初校の執筆
第６回	リポート課題１の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第７回	リポート課題１の作成：ピア・レスポンス
第８回	リポート課題１の作成：最終稿の作成
第９回	基本教材２に基づく学修③（領土，　海洋，国際環境保護のいずれかについて）
第 10 回	基本教材２に基づく学修④（３つの問題のいずれかに関する現代的な問題について）
第 11 回	参考図書に基づく学修（領土，　海洋，国際環境保護のいずれかについて）
第 12 回	リポート課題２の作成：初校の執筆
第 13 回	リポート課題２の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題２の作成：ピア・レスポンス
第 15 回	リポート課題２の作成：最終稿の作成

科目名	国際政治論特講	担当者	庄司（ショウジ） 貴由（タカユキ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	ウェストファリア体制の成立から冷戦後の世界に至るまでの国際政治を，歴史はもちろん，理論も含めて体系的に学習していく。法律，政治，経済，歴史など諸科学の領域横断的な学問として確立された国際政治学は，当初，国家間のパワー・ゲームとして捉えられてきた。やがて，国家のみならず，国際機関，企業，ＮＧＯ，テロリストなど脱国家的主体が影響力を持ち始めるようになると，国際政治の捉え方にも徐々に変化が訪れるようになる。 本講義では，根拠に乏しい印象論ではなく，歴史や理論に裏打ちされた深い議論を受講生が構築・展開していくための基礎を提供していきたい。
到達目標	【一般目標（GIO)】 ・国際政治学の歴史や理論を体系的に理解し，それらに基づく独自の考察を創造する。 【行動目標（SBOs)】 ・世界的潮流を踏まえたうえで，体系的な説明ができる。(知識・想起) ・基本的な歴史や理論を用いながら，論理的，批判的な思考ができる。(知識・解釈) ・既存の研究や現実から何らかの問題点を導き出し，独自の考察を展開できる。(技能・問題解決)
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・Manaba-Folio を通じて，教員と院生の間で双方向型の指導を行うこととする。 【学修方略（LS)・準備学修時間】 リポートの作成１本につき，最低 45 時間を要する。個人差，分析手法による相違もあるが，大体の目安は以下の通り。 (1) 基本教材の熟読。(自習)【10 時間/リポート１本】 (2) リポート課題に関係する参考文献の渉猟，読解。(自主研究)【10 時間/リポート１本】 (3) リポート初稿の作成。(リポート作成)【15 時間/リポート１本】 (4) Manaba-Folio 上でのやりとり，および，加筆・修正作業。(ディベート，リポート作成)【10 時間/リポート１本】 【準備学修項目】 ・リポート執筆段階でまとめて探すのは困難になるので，テキストを精読しながら，自身のテーマに関連する論文，著書なども同時に収集すると良い。
スケジュール	(1) 最終稿の提出期限は，学事暦で定められている提出期限に準じる。 (2) 前期リポートは７月末までに，後期リポートは 11 月中旬までに初稿を提出する。その過程では，適宜，質疑応答を行うこととする。 (3) いずれも修正を施し，誤字脱字など確認した後に，提出期限までに最終稿を提出する。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	60%	先行研究との関係が明確化しているか。 論旨が一貫しているか。 独自性，先見性が導き出されているか。 注，参考文献など基本的な体裁が整えられているか。
	観察記録	40%	manaba でのやりとりを含む取り組み方。 初稿、最終稿の提出期限が守られているか。 コメントに対する加筆・修正。

履修者への要望	先人たちの知的恩恵に浴しつつも，5W1H で研究対象を捉え，自分なりの「視点」や「問い」を見つけて下さい。国際政治という比較的新しい専門領域を通じて，ささやかながらそのお手伝いをさせて頂ければと思っています。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　村田晃嗣，君塚直隆，栗栖薫子，秋山信将 教材名：　『国際政治学をつかむ（新版)』(有斐閣，2015 年) ISBN 978-4-641-17722-2　2,200 円＋税
	本書は，「歴史」，「理論」，「アクター」，「イシュー」の全四章（全 27 Unit）で構成された国際政治学の基本的な教科書である。基礎を幅広く網羅し，確かな専門性と平易な文章で貫かれた内容は，アメリカ，ヨーロッパの国際政治学を導入する類書とは本質的に異なるものである。複数の見方を日本人向けに「ブレンド」し，論を進めたところに最大の特徴がある。
参考図書	山田高敬，大矢根聡編 『グローバル社会の国際関係論〔新版〕』(有斐閣コンパクト，2011 年) ISBN 978-4-641-04988-8　2,000 円＋税
履修上の ポイント	(1) 国際政治の歴史的流れを理解する。 (2) 代表的な理論の相違を理解する。 (3) 国際政治の制度や構造を理解する。 (4) 近年の国際政治が直面している課題を理解する。
リポート課題 1	リアリズム，リベラリズム，コンストラクティビズムなど，基本教材 1 で書かれている国際政治の主要理論に基づいて，特定の事例を分析しなさい（3,000 字程度）。 **留意点**：理論枠組み，事例の選択はいずれも各自の自由とする。
リポート課題 2	国際政治は絶えず新たな課題に直面しているが,それらは歴史的にどのような対応が施されてきたのだろうか。Unit 16 以降からテーマを選び，歴史的視点で論じなさい（3,000 字程度）。 **留意点**：事例の選択は各自の自由とする。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　高坂正堯 教材名：　『国際政治―恐怖と希望』(中央公論新社，1966 年) ISBN:978-4-12-100108-5　660 円＋税
	日本における国際政治学の古典的名著である。出版年からやや古い印象を受けるが，それでも平和，軍備，経済交流，国際機構など現在に通じる論点を随所に提示している。いかにして現実の国際政治にアプローチをし，分析，考察を展開していくのか，本書は，この問いに一つの答えを与えてくれる好個の書籍に他ならない。
参考図書	服部龍二 『高坂正堯―戦後日本と現実主義』(中央公論新社，2018 年) ISBN 978-4-12-102512-8　1,000 円＋税
履修上の ポイント	(1) 勢力均衡原則をはじめ，戦争と平和の関係を理解する。 (2) 経済交流，国際機構の機能と課題を理解する。 (3) 内政と外交の連関を理解する。 (4) 大まかな国際政治の流れを理解する。
リポート課題 1	高坂の『国際政治』は全５章構成であるが，そのうち１章を選び，簡潔にまとめなさい。そのうえで、どのような特徴があるのか論じなさい（3,000 字程度）。 **留意点**：関連文献を紐解くと，比較的書き易くなる。
リポート課題 2	現代の国際政治を眺めたとき，高坂が展開した議論の先見性や限界性はどこにあるのだろうか。具体的な事例を提示しながら論じなさい（3,000 字程度）。 **留意点**：高坂が『国際政治』を執筆した時代がどのような時代かを意識する。

基本教材１

第１回	教材の学修（第１章：国際政治のあゆみ①）
第２回	教材の学修（第１章：国際政治のあゆみ②）
第３回	教材の学修（第２章：国際政治の見方①）
第４回	教材の学修（第２章：国際政治の見方②）
第５回	教材の学修（第３章：国際政治のしくみ①）
第６回	教材の学修（第３章：国際政治のしくみ②）
第７回	教材の学修（第４章：国際政治の課題①）
第８回	教材の学修（第４章：国際政治の課題②）
第９回	教材の学修（さらに国際政治学を学ぶために）
第 10 回	リポート課題１，２の初稿提出
第 11 回	添削指導に基づき、関連文献の調査・渉猟
第 12 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 15 回	最終稿提出

基本教材２

第１回	教材の学修（序章：問題への視角）
第２回	教材の学修（第１章：軍備と平和①）
第３回	教材の学修（第１章：軍備と平和②）
第４回	教材の学修（第２章：経済交流と平和①）
第５回	教材の学修（第２章：経済交流と平和②）
第６回	教材の学修（第３章：国際機構と平和①）
第７回	教材の学修（第３章：国際機構と平和②）
第８回	教材の学修（終章：平和国家と国際秩序①）
第９回	教材の学修（終章：平和国家と国際秩序②）
第 10 回	リポート課題１，２の初稿提出
第 11 回	添削指導に基づき、関連文献の調査・渉猟
第 12 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 15 回	最終稿提出

科目名	国際協力論特講	担当者	イケガミ　キヨコ 池上　清子	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	国際化・グローバル化を特質とする現代において，国際情勢の帰趨と世界の中の日本のあり方に対する広い視野と鋭敏な感覚及び能力を身に付けることを目的とする。特に、国際社会の現実的動態，国際社会と日本との関連等に関する学問的認識を自ら学び、自ら考えることを目的とする。 単に、経験や学修から得られた豊かな知識と教養を養うにとどまらず、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる能力を養う。さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
到達目標	【一般目標（GIO)】 国際協力に関する理念，ミレニアム開発目標（MDGs）と持続可能な開発目標（SDGs）の歴史的な意義，開発と，平和，平等，公正，ジェンダー，人権などの概念との接点，開発プログラムの策定過程を習得する。 【行動目標（SBOs)】 i.　開発目標であるグローバルパートナーシップのもつ意義を考えることができる。（知識・想起） ii. 国際援助の担い手のマッピングを知り、作成することができる。（知識・技能） iii. 携わる多様なプレーヤー(国際機関，開発途上国と先進国政府，市民社会，企業，財団など)の役割と課題に配慮できる。（態度・反応）
学修方略 （方法）	【学修方略（LS)・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio のコレクションと利用して、学生と教員の双方向の指導を受ける。 ・manaba folio の掲示板等を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する質疑応答、意見交換、レポートの推敲のピア・レスポンスなど）（アクティブラーニング） ・図書館、インターネットで自律てきに論文を検索して、レポートを作成する。 【準備学修項目と準備学修時間】 （自習）基本教材や参考文献などを熟読する。情報検索方法や自分の考えを構築することを含めて自律的な研究遂行能力を習得し，さらに，変化する社会環境や多様な価値観を読み解き，正当な批判と評価を行う理解を深め、判断力を養う。先行研究リストの中から、少なくとも 1－2 論文を読むこと。【SBO i.＆ii.】【20 時間/リポート 1 本】 （自主研究）リポート課題に沿った事例及びデータを収集し分析する。【SBO ii.】 【10 時間/リポート 1 本】 （リポート作成）リポートの草案を作成する。【SBO ii.＆iii.】【5 時間/リポート1 本】 （ディベート）manaba folio での掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるリポート添削での教員と受講生とのディスカッションによりリポートの最終版を完成させる。【SBO ii.＆iii】【10 時間/リポート 1 本】
スケジュール	提出期限は manaba folio　並びに学事歴記載された通りに従うこと。 前期：教材１のリポート課題(1)の草稿は 6 月末，課題(2)は 7 月末を目処に提出する。取り上げる題材については，草稿としてまとめる前に，メール等で相談することが望ましい。 後期：教材２のリポート課題(1)の草稿は 11 月中旬，課題(2)は 12 月中旬を目処に提出する

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	課題に沿った論理構築がなされているか。課題に関係する重要な論点をおさえているか。結論が明確であるか。結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。
	観察記録	20%	レポートの構成や表現に関して、全体の書き方、図表の使い方、引用文献などを評価する。

履修者への要望	論理的であることと、自分の意見をまとめることを主眼としているので，どんな小さな観察点でも構わないので，自分の考えや気づきを大切にして，リポートを書いていただきたい。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　内海成治編『新版　国際協力を学ぶ人のために』 教材名：　（世界思想社,2016 年）ISBN:978-4-7907-1674-7　2,800 円+税
	開発の在り方に関わる諸問題について，特に開発協力の現場，理論的な国際協力の必要性，などを包括的に取り扱っている。国際協力に関与しようと思う人にとっては、様々な角度や場面での、実践的なヒントが含まれている。
参考図書	国分良成編『東アジアにおけるシヴィル・ソサエティの役割』 （慶応義塾大学出版会，2007 年）ISBN: 978-4-76-641378-6　2,200 円+税 吉田康彦編『21 世紀の平和学』（第２版） （明石書店，2005 年）ISBN:978-4-75-032205-6　2,400 円+税
履修上のポイント	以下の点に留意して，リポートをまとめること。 (1)開発に向けた国際協力の効果 (2)持続可能な開発目標の歴史的意義，成果，課題 (3)開発と，平和，平等，公正，ジェンダー，人権などの概念との接点 (4)開発プログラムの策定過程
リポート課題 1	国際協力の必要性を，様々な角度から検討して自分なりの議論を展開する。特に，格差の是正，公平性などの原則を踏まえながら，3,000 字程度でまとめる。十分にこのテーマを学び，議論していると考える場合には，必要ないというスタンスから，同様に必要ないことを議論する。 **留意点**：開発の理念についての議論が中心となる。
リポート課題 2	持続可能な開発の定義を理解しつつ，持続可能な開発目標(SDGs)が内包する課題を挙げつつ，2030 年の目標達成期限までの課題を想定し，自分なりの提案を，3,000～4,000 字程度にまとめること。 **留意点**:現在進行形のテーマなので,Web 検索なりで情報を収集してからリポートにまとめること。出版されている書籍よりは論文が主となる。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　高松香奈 教材名：　『政府開発援助政策と人間の安全保障』 （日本評論社、2011 年）ISBN: 978-4-535-55692-8　5,700 円+税
	どうすれば開発や援助が開発途上国の市民一人ひとりの生活の質を高めることができるのかという課題について，国際協力を幅広い領域から取り上げる。ODA は人間の安全保障のために行われているだろうかの問いに、ODA の援助方法論の分析に加えて、ミャンマーでの大規模調査を踏まえ実証的に検証する。
参考図書	NPO 法人いきいきフォーラム 2010 編 『シニアのための国際協力入門』（明石書店，2004 年）ISBN:978-4-75-032027-4 2,400 円+税
履修上のポイント	以下の点に留意してリポートをまとめる。 (1)目標として掲げられる人間の安全保障のもつ意義 (2)国際協力の担い手のマッピングを基にして，国連機関間の調整機能と能力，政府開発援助(ODA)の役割と課題，国際機関の持つ独自性と課題，市民社会，NGOs の役割と課題，市民社会，NGOs の役割と課題を知る。特に，調整に関する情報を収集しておく。 (3)アジアとアフリカが置かれている開発状況の違い
リポート課題 1	人間の安全保障の観点から，開発援助との関連について，現状と課題を分析して，3,000-4,000 字程度にまとめる。 **留意点**：人間の安全保障、日本の開発のさまざまな開発支援の方法論などの定義を確認すること。
リポート課題 2	日本国内の援助機関・関係者の調整について，TICAD（東京アフリカ開発会議）を事例として，現状と課題を分析して，人間の安全保障の視点から、3,000 字程度にまとめる。 **留意点**：TICAD の役割にも触れること。国際協力の担い手を分析すること。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をしてから、教材に基づく学修①（国際協力の必要性、公平性の確保）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と話し理解の上、教材に基づく学修②（倫理的な課題）を行う
第３回	教材１に基づく学修③（持続可能な開発目標（SDGｓ）の意義）
第４回	教材１に基づく学修④（開発の概念）
第５回	教材１に基づく学修⑤（平等と公平）
第６回	教材１に基づく学修⑥（男女共同参画、市民社会）（ここでは参考図書も使用する）
第７回	教材１に基づく学修⑦（平和の概念）（ここでは参考図書も使用する）
第８回	教材１に基づく学修⑧（開発と人権）
第９回	教材１に基づく学修⑨（ステークホールダー間の協調と協働）
第 10 回	教材１に基づく学修⑩（開発プログラムの策定過程）
第 11 回	レポート課題１・レポート課題２について考察した内容をまとめ、アウトラインを提出する
第 12 回	教員からレポート課題１に係るアドバイスや指摘を受け、全体的な課題を把握してから、レポートにまとめる
第 13 回	レポート課題２に係るアドバイスや指摘を受け、全体的な課題を把握してから、レポートにまとめる
第 14 回	レポート課題１・レポート課題２について、教員と複数回のやり取りを行い、内容を再検討し、レポートの質を高める
第 15 回	レポート課題１・レポート課題２について、自ら熟考した課題の解答を最終レポートにまとめ、提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をしてから、教材に基づく学修①（開発援助の異なる支援形態）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と話し理解の上、教材に基づく学修②（倫理的な課題）を行う
第３回	教材２に基づく学修③（開発における効果とは）
第４回	教材２に基づく学修④（政府間援助（ODA）の役割）
第５回	教材２に基づく学修⑤（社会的弱者への配慮の方法、特に女性）
第６回	教材２に基づく学修⑥（市民社会の役割）（参考図書）
第７回	教材２に基づく学修⑦（人間の安全保障の概念）（参考図書）
第８回	教材２に基づく学修⑧（持続可能な開発目標（SDGｓ）の果たす役割）
第９回	教材２に基づく学修⑨（ステークホールダーの洗い出しと関係者の役割分担）
第 10 回	教材２に基づく学修⑩（現状に合致する開発援助政策とその策定プロセス）
第 11 回	レポート課題１・レポート課題２について考察した内容をまとめ、アウトラインを提出する
第 12 回	教員からレポート課題１に係るアドバイスや指摘を受け、全体的な課題を把握してから、レポートにまとめる
第 13 回	レポート課題２に係るアドバイスや指摘を受け、全体的な課題を把握してから、レポートにまとめる
第 14 回	レポート課題１・レポート課題２について、教員と複数回のやり取りを行い、内容を再検討し、レポートの質を高める
第 15 回	レポート課題１・レポート課題２について、自ら熟考した課題の解答を最終レポートにまとめ、提出する

科目名	国際関係論特講	担当者	草野（クサノ）　大希（ヒロキ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本科目は、国際関係論における代表的な理論に関する理解を深めると同時に、国際関係の「歴史および現実」についても学習し、結果として、複雑な国際関係を分析的、理論的、体系的な視座から捉えられるようになることを目的とする。具体的には、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム等の国際関係論の主要学派が提供してきた諸理論を学習し、「分析レベル」に基づく国際事象の考察方法を学び、国際関係論の主要理論を総合化する「複雑システム」の観点を理解し、過去および現代の国際秩序に関わる具体的な問題を複眼的な視点から考察できるようになること、である。
到達目標	【一般目標（GIO)】 国際関係論の理論的な専門「知識」および国際関係事象の分析・考察「技能」を修得する。 【行動目標（SBOs)】 ①　国際関係論の主要学派と複雑システムについての理論的内容を理解する（知識） ②　分析レベルに基づく国際事象の考察方法および世界大戦、冷戦、グローバル化、米国の介入政策など国際秩序に関わる具体的な事実（歴史）を理論的に考察する方法を獲得する（技能） ③　様々な国際関係事象に対して、社会科学的なセンスを持って向き合えるようになる（態度）
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folio やメールでのやり取りを通じた、受講者の積極的学習と双方向型の指導を行う 【学修方略（LS)】 ・次のように「基本教材」や「参考図書」の精読（25 時間以上)、「リポート作成」(20 時間以上）が本科目の学修方法となる＜カッコ内はリポート１本当たりの修学時間＞ ・基本教材を基に合計４つの課題を設け、その課題に答える形で学習を行う。質問や疑問が生じた場合には、メールにより教員に相談したうえで問題を解消し、効果的に学習を進めてほしい。 ・リポート課題としては、後述のように、合計４つのリポートを提出する必要がある。 【準備学修項目と準備学修時間】 「国際関係論特講準備学修」のスライド（Manaba-Folio 掲載）を閲覧、吟味（10 時間）することに加え、次の学習法略で示す学修時間を要する。
スケジュール	・前半は「基本教材１」を中心にした内容を学習範囲とする。6 月末までに一通りの学習を終了し、「基本教材１」に関連する「リポート課題１」を 7 月中旬、「リポート課題２」を 8 月中旬までに、それぞれ初稿を提出する。教員からのコメントを考慮した上で修正した最終稿を、学事暦記載の締切日までに提出する。 ・後半は「基本教材２」を中心とした内容を学習範囲とする。10 月末までに一通りの学習を終了し、「基本教材２」に関連する「リポート課題１」を 11 月中旬、「リポート課題２」を 12 月中旬までに、それぞれ初稿を提出する。教員からのコメントを考慮した上で修正した最終稿を、学事暦記載の締切日までに提出する。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	７０％	(A) 内容（課題に的確に答えているか)、(B) 構成（文章の構成は合理的で論理的か)、(C) 調査の精度（十分な調査に基づくものか)、(D) 文章表現力（誤字脱字の無い、理解可能で正確な文章か)
	観察記録	３０％	リポート作成の過程や質問などのやり取りを通して総合的に判断

履修者への要望	国際関係論または国際政治学に関する入門的な知識があれば、履修者の学習はよりスムーズに進むと思われるが、たとえそのような知識がなくとも、履修者の努力次第では、履修は可能と考える。また、本科目の基本教材は日本語で書かれた書物であるため、高度な英語力（読解力）は必須ではない（ただし、より発展的な学習を行う場合には、高い英語力が武器となることは確かである)。他方で、現在の世界情勢を含め、国際関係に関心がない人にとっては、本科目の履修は難しいと言える。本科目は、所謂「時事解説」を主眼とするものではないが、ここで学ぶ様々な知識は、現在あるいは今後の世界秩序を構想する上でも有用になるものである。それを自分自身で実践できるような、普段から国際問題に高い関心を有している積極的で意欲的な学生が履修してくれることを期待する。なお効果的な授業運営の為に、履修希望者は、履修登録と同時に担当教員にその旨、連絡して下さい（kus1saku@mail.saitama-u.ac.jp)。

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：　ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、 デイヴィッド・A・ウェルチ 教材名：　『国際紛争―理論と歴史（原書第 10 版）』（有斐閣、2017 年） ISBN: 978-4-641-14917-5　3,300 円（定価）
	ハーバード大学での講義のためにナイによって執筆された「国際関係論」における定評ある教科書である。20 世紀の二つの世界大戦や冷戦を経た後、人類は地域紛争やテロに見舞われている。なぜそうした紛争が起こるのか。相互依存が進展し、民主的価値が広まれば世界秩序が達成されるのか。「理論」と「歴史」の相互検証を通して、国際関係論の分析道具を提供する最適の教材である。
参考図書	吉川直人・野口和彦編『国際関係理論（第 2 版）』（勁草書房、2015 年） ISBN:978-4-326-30244-4　3,300 円（税別）
履修上のポイント	・古代ギリシャにおけるペロポネソス戦争からグローバル化する 21 世紀の世界に至るまでのマクロな国際関係の歴史的動向を掴む ・国際事象を純粋な「歴史学」ではなく、社会科学の一分野としての「国際関係論」の理論的、分析的、方法的視座から考察する感覚を身につける ・リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムに関する学術的知識を習得する
リポート課題 1	課題：「分析レベル」に基づく国際関係の分析とはどのようなものか。具体的な分析の「例」に言及しつつ、その可能性と限界について論じなさい。（三千～四千字） **留意点**：とくに、教材の第 1 章～第 5 章の内容を十分踏まえて課題に取組んで下さい。
リポート課題 2	課題:冷戦終結後以降に進展したグローバル化は、世界の平和と安定にどのような影響を与えたか。「非伝統的」とされる国際関係の新たな展開に留意しつつ、論じなさい。（三千～四千字） **留意点**：とくに、教材の第 6 章～9 章の内容を十分踏まえて課題に取組んで下さい。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：　草野大希 教材名：　『アメリカの介入政策と米州秩序―複雑システムとしての国際政治』（東信堂、2011 年）　ISBN:978-4-7989-0085-8　5,400 円（税別）
	国際関係論の主要学派であるネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティビズムの理論的知見を総合化するものとして「複雑システム」の理論を位置づけ、同理論の妥当性を、20 世紀初頭の米州におけるアメリカの介入事例から検証した本書は、「理論」と「事実」両面から高度な国際関係の理解を目指す上で最適の教材である。
参考図書	廣瀬和子『国際法社会学の理論―複雑システムとしての国際関係』（東京大学出版会、1998 年） ISBN: 978-4130311618　5,200 円（税別）　【アマゾン中古有】
履修上のポイント	・ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティビズム（三つの「イムズ」）の理論的特徴、およびそれぞれの理論が何を抽象し、何を捨象したかについてきちんと理解する ・三つの「イムズ」が、互いに「対立的」ではなく、「補完的」で「有機的」な関係として統合できることを、複雑システムの視点を通して理解し、国際関係を体系的に捉える力を涵養する ・複雑システムの枠組みを応用し、具体的な国際関係事象の特徴や論理を自分自身の手で解明する
リポート課題 1	課題：国際政治学における３つの「イムズ」を総合するモデルとしての複雑システムの理論的特徴は何か。基本教材を参照しつつ、その内容を概説しなさい。（三千～四千字） **留意点**：とくに、教材の第 1 章～第 4 章の内容を十分踏まえて課題に取組んで下さい。
リポート課題 2	課題：国際関係に関わる特定事象や事例を任意に選択し（事前に担当教員に相談）、その特徴や論理を、本科目で学修した理論を援用して明らかにする小論文を作成しなさい。（三千～四千字） **留意点**：分析や記述の方法として、基本教材の第 5 章～第 12 章を参考にすると良いだろう。

基本教材１

第１回	学修課題の理解①：国際関係論特講準備学修
第２回	学修課題の理解②：国際関係論特講準備学修
第３回	学修課題の理解③：教員との意見交換を通じた学修課題の理解度の確認
第４回	基本教材１に基づく学修①（第１・２章）
第５回	基本教材１に基づく学修②（第３・４章）
第６回	基本教材１に基づく学修③（第５章）
第７回	基本教材１に基づく学修④（第６・７章）
第８回	基本教材１に基づく学修⑤（第８・９章）
第９回	基本教材１に基づく学修⑥（第１０章）
第10回	基本教材の内容吟味とレポート課題１の作成
第11回	リポート課題１　初稿提出
第12回	リポート課題１　教員の添削を受けて、加筆・修正を行った最終稿提出
第13回	基本教材の内容吟味とレポート課題２の作成
第14回	リポート課題２　初稿提出
第15回	リポート課題２　教員の添削を受けて、加筆・修正を行った最終稿提出

基本教材２

第１回	学修課題の理解①：国際関係論特講準備学修
第２回	学修課題の理解②：国際関係論特講準備学修
第３回	学修課題の理解③：教員との意見交換を通じた学修課題の理解度の確認
第４回	基本教材２に基づく学修①（第１・２章）
第５回	基本教材２に基づく学修②（第３・４章・第Ⅰ部の総括）
第６回	基本教材２に基づく学修③（第５・６章）
第７回	基本教材２に基づく学修④（第６・７・８章）
第８回	基本教材２に基づく学修⑤（第９・１０・１１章）
第９回	基本教材２に基づく学修⑥（第１２章・第Ⅱ部の総括）
第10回	基本教材の内容吟味とレポート課題１の作成
第11回	リポート課題１　初稿提出
第12回	リポート課題１　教員の添削を受けて、加筆・修正を行った最終稿提出
第13回	これまでの基本教材の内容吟味とレポート課題２の作成
第14回	リポート課題２　初稿提出
第15回	リポート課題２　教員の添削を受けて、加筆・修正を行った最終稿提出

科目名	行政論特講	担当者	セキネ　フミオ 関根　二三夫	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	20 世紀になって顕著になってきた行政の多様化・複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。本来、政策の執行を扱うとされた行政が、今や派生的とも言える政策の立案や決定に大きな影響力を持つようになり、議会政治の危機を生じさせております。行政が持つ制度面や機能面での特徴を国家との関連において把握し、行政と国家とが如何なる関係にあるかを学びます。
到達目標	【一般目標（GIO)】 国家概念を理解することで、国家と社会、社会と個人、個人と国家との関係を理解することが出来きるようにします。国家につきましては、19 世紀の立法国家から 20 世紀の行政国家へ、また社会につきましては、19 世紀の市民社会から 20 世紀の大衆社会へと変遷してきており、それぞれの特徴を把握します。 【行動目標（SBOs)】 ① 国家法人説や国家有機説を理解できるようになる。 ② 国家と社会、社会と個人、個人と国家との関係を理解できるようになる。 ③ 国家と国家機関との関係を理解できるようになり、体系的に説明できるようになる。 ④ 行政国家と関連して官僚政治を理解できるようになる。 ⑤ 官僚政治と議会政治の原理との関係を理解できるようになる。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 課題に関する質疑応答をメールのやり取りを中心に行います。その際、課題の要点を理解するような問いかけを行い、自発的に問題点を整理し、解決策を探ることが出来るようにします。 【学修方略（LS)】 テキスト及び参考書を基本に、メールを用いた質疑応答を行います。リポート提出期間内に、なるべく早く草稿を提出して頂きまして、問題点を把握し、完成稿に近づけ行きます。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修としましては、基本教材および参考図書を熟読し、またメディアの情報に関心を持つようにして下さい。準備学修時間としましては、リポート 1 課題につきまして 45 時間を費やすことを目安として下さい。
スケジュール	大学院が指定しました提出期間内に課題についてのリポートを提出して頂きます。提出期間内におきまして余裕をもって草稿を提出して頂き、何度かやり取りをしました後、完成稿を提出して頂きます。なお、最終稿の提出期限は学事暦に従う

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	７０％	履修上のポイントや到達目標、リポート課題の留意点を参考に評価します。
	観察記録	３０％	質疑や添削草稿への対応を中心に評価します。

履修者への要望	テキスト及び参考書を熟読して頂きますと共に、内閣や大統領を頂点とします行政部で、どのようなことが行われているか、また内閣や大統領と議会との関係はどのようになっているかなどをメディアの報道や記事などを参考にして考えて頂き、行政部での問題点を把握するように心掛けて下さい。

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：　関根二三夫、岩井奉信、黒川貢三郎、杉山逸男、外山公美、松木修二郎 教材名：　『教養政治学』（南窓社、２０１３年）ISBN:９７８－４－８１－６５０１８７－６　2,900 円+税
	政治学の研究対象は、広範囲に及びます。本書は、一般教養の政治学として執筆されたものでありますが、現代の政治を理解し得るのに必要な内容を含むものです。政治学の沿革、政治権力、国家と政府、政治過程、選挙と投票行動、政治と世論などが含まれており、国家に生起する政治現象の理解に役立つものです。
参考図書	山田光矢編『政治学』（弘文堂、2011 年）ISBN:９７８－４－３３－５００１９２－５　2,000 円+税
履修上のポイント	国家に生起する現象を政治面や社会面から把握することで、国家を立体的に把握することが可能になると思われます。国家を成立させる要素を伝統的に考えますと、国民、領域そして主権があります。それらの要素には、人間が深く係りを有しており、政治現象や社会現象を理解する必要があります。現代国家におきましては、個人が国家を離れて生活をすることが不可能に思われますので、国家に生起する問題を理解することが重要です。
リポート課題 1	近代国家の成立と発展について述べよ。 **留意点**：近代の市民社会から現代の大衆社会への変化において、国家の機能が如何に変遷してきたのかを考察して欲しいと思われます。
リポート課題 2	国家と社会との関係について述べよ。 **留意点**：一元的国家論と多元的国家論との相違について考察して欲しいと思われます。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：　西尾勝 教材名：　『行政学』（有斐閣、2001 年）ISBN:９７８－４－６４－１０４９７７－２　3,200 円+税
	本書は、行政の制度を中心に管理や政策に重点を置いて述べています。国家行政や地方行政が円滑に遂行されるためには、行政の諸局面を考慮しなければなりません。行政と行政学の背景、行政制度の構造、行政過程の展開、行政管理の充実、行政統制の推進等が、その内容になっています。
参考図書	外山公美編『行政学』（弘文堂、2011 年）ISBN:９７８－４－３３－５００１９５－６　2,400 円+税
履修上のポイント	行政概念については、憲法、行政法、行政学などからの把握が可能です。三権分立的控除説や国家目的実現説などの法的把握以外に行政過程説や統治機能説などの行政学的把握があります。行政学において行政概念がどのように把握されているか、また概念の把握に至る過程がどのようなものであるかを、行政の諸局面を考察しながら考えて欲しいと思われます。
リポート課題 1	ロレンツ・フォン・シュタインの行政学について述べよ。 **留意点**：シュタイン行政学は、ドイツ官房学を集大成し、行政法学への道を拓いたといわれます。シュタイン行政学が成立する背景、シュタインの国家観における国家と行政との関係、行政学の内容、行政法学が台頭する理由などを考えて欲しいと思われます。
リポート課題 2	現代国家と行政統制について述べよ。 **留意点**：19 世紀の立法国家から 20 世紀の行政国家への移行は、行政府の政策立案機能や政策決定機能を増大させました。行政府を外在的に、また内在的に統制し行政の民主化を確保して、行政責任を明確にすることが必要です。

基本教材１

第１回	国家と政府：近代国家の成立と発展
第２回	近代市民社会
第３回	資本主義社会の発展
第４回	大衆社会の出現
第５回	国家権力：権力分立
第６回	権力分立の意義と特性
第７回	権力分立の史的展開
第８回	権力の区分・分離・抑制
第９回	政府の概念
第 10 回	政治と行政
第 11 回	政府の機能
第 12 回	政府の形態
第 13 回	議会制度の変遷
第 14 回	議会の原理
第 15 回	議会の構成と運営

基本教材２

第１回	官僚制と民主制
第２回	ドイツ官房学とシュタイン行政学
第３回	アメリカ行政学
第４回	官僚制
第５回	中央集権と地方分権
第６回	わが国における戦前の官吏制と戦後の公務員制
第７回	組織の問題点（官僚化と寡頭化）
第８回	政策の循環と行政活動
第９回	行政評価
第 10 回	稟議制
第 11 回	行政活動と能率概念
第 12 回	行政管理の機能及び原則
第 13 回	行政統制：外在的統制
第 14 回	行政統制：内在的統制
第 15 回	行政責任

科目名	日本政治史論特講	担当者	タキガワ　シュウゴ 瀧川　修吾	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	「温故而知新，可以為師矣」というように，過去の歴史的事実から，向後の政治をより良くするための教訓を得んとする試みは，政治史という学問の最大の使命であろう。政権の在り方や，制度の不備，格差や貧困といった俄には解決しがたい問題に起因する内政上の不満を，外交や軍事に対する人々の関心を掻きたてることで，巧みに逸らす政治手法は，他国との関係を大前提とするグローバル社会にあって，あらゆる民主主義国家とその国民が対決し，克服していかなければならない脅威といえる。本講義では，広く歴史とは何かについて学んだ上で，この厄介な問題につき，幕末から明治にかけての日本で登場した征韓論を素材に，皆さんと一緒に考えることで，豊かな知識・教養に基づく高い倫理観のほか，世界の現状を理解し説明する力，論理的・批判的思考力，問題発見・解決力，挑戦力，省察力などを高度に修得することを目的とする。
到達目標	【一般目標（GIO)】 日本政治史や思想史の専門書を熟読し，内容を深く理解する洞察力や省察力を養い，その成果を纏め，独自な観点から論評・解説する論理的・批判的思考力を修得する。 【行動目標（SBOs)】 １．E.H.Carr の著作を精読し，各自の歴史観を再確認し，そこで学んだ理論の妥当性につき，日本史上の歴史的事実を事例にして考察を加えてみる。 ２．社会科学における言葉の定義の重要性につき，「征韓論」を事例に理解する。さらに徳川幕藩体制下の対馬藩が直面した危機について理解する。 ３．総じて，教養を身につけるために学ぶ通史とは異なり，いわば歴史を通じてものごとを深く考える楽しみに接し，自己の眼前に展開する諸問題につき，歴史的に思考する能力を養う。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 メールや添付ファイル，manaba を活用し，双方向性を重視した指導をおこなう。 【学修方略（LS)】 履修者の皆さんが，これまでどの程度，歴史を学んできたかで，学修方法も再考を余儀なくされるものと予想される。よって「基本教材１」の「Ⅰ歴史家と事実」をある程度読み進めた段階で，一度，皆さんからメール等で連絡をもらい，当方が皆さんの習熟度や理解度を把握することとしたい。その上で必要に応じて参考図書を紹介したり，リポートの難易度や分量を加減したりするなど，調整し，皆さんそれぞれの状況に応じた到達目標が実現されるような指導をおこなう。本を熟読する際は，重要と思われる箇所に下線を引いたり，調べたことや批判，感想などを書き加えたりして，汚しながら読む（「眉批」を付ける）ことを推奨する。概ね，自主研究に 20 時間，リポート作成に 10 時間，教員とのディベートに 15 時間を目安とする。 【準備学修項目と準備学修時間】 テキストないし指示された参考書を熟読してもらう（概ね新書１冊と学術論文２本)。学修時間は個人差が生じざるを得ないが，質問や用語の調査なども入れて 45 時間超を想定している。
スケジュール	「基本教材１」から出題した課題は，６月末までを目安に学習を終え，「リポート課題１」は７月 15 日を，「リポート課題２」は８月 15 日を，それぞれ初稿の提出締切日とする（以下全て，可能であれば，締切日以前の提出を奨励する)。最終稿の提出期限は学事暦に従う。 「基本教材２」から出題した課題は，10 月末までを目安に学習を終え，「リポート課題１」は 11 月 15 日を，「リポート課題２」は 12 月 15 日を，それぞれ初稿の提出締切日とする。最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	70%	教材から一定の知識を修得し，それらを客観的かつ論理的に纏めることができているか。また，学んだ知識を批評したり，援用したりするなど主体的に活用することができているか。
	観察記録	30%	当方がおこなった指導や指摘を，適切にリポートへ反映することができたか。リポートの提出期限の遵守等，コミュニケーション上のルールを守ることができたか。

履修者への要望	関連科目を大学で受講していなくても及第点がとれるように，極力，親切丁寧な指導を心掛けるが，その成否は，やはり皆さんがまめに連絡をくれるか否かに掛かっていると思われる。質問してくれたことに対して減点をするようなことは一切ないので，積極的かつ気軽に質問をして頂きたい。なお，皆さんが効率よく学修を開始するためには，当方にもしかるべき準備が必要となる。よって，<u>履修登録をすると同時に，その旨を担当教員にメール</u>（takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp）<u>で報告する</u>ことを履修の条件としたい（その後，履修取消しをした場合もご一報頂きたい)。

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：　E.H.カー著・清水幾太郎訳 教材名：　『歴史とは何か』(岩波書店，1962 年，原著は出版) ISBN：4-00-413001-8 (820 円＋税)
	本書は，E.H.Carr が 1961 年にケンブリッジ大学でおこなった講演をもとに編まれたもので，歴史を研究する者にとっては必読文献といっても過言ではない。本書の出版からすでに半世紀が経過したが，ここで提示されている議題の数々がその重要性を失うことは，この世に人間や社会が存在する限り，決してないであろう。
参考図書	原著“What is history“は，幸いインターネット上でも閲覧できるようなので，訳本と併読することを推奨したい。もちろん Amazon 等で，ペンギンブックスなどのペーパーバックを購入するのも良い（千数百円程度)。
履修上のポイント	同書では，劈頭で掲げられていた命題が先々まで深い意味をもっていたり，再び別の視点で論じられたりといったケースがあるので，論点をノートに書き出して読み進めると良いであろう（本に線を引いたり，眉批を直接書き込むのも良い)。呉々も，新書をたった一冊読むだけなどと侮らず，その分，しっかりと基本教材を「精読」してもらいたい。読み進める中で，知らない人名や事件等が出てきたら，最低限，電子辞書やインターネットなどを用いて調べるようにすること。
リポート課題 1	歴史とは「歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり，現在と過去との絶え間ない対話」であるという Carr の主張は，いったいどのような意味か。現今を生きる自分自身の体験や経験を踏まえて論じなさい。 **留意点**：Carr の所論と皆さんの意見等とが混在しないように，正しい「引用」と「援用」の技法を駆使してリポートを作成すること（換言すれば，要旨を纏めるだけでは不十分です)。
リポート課題 2	Carr が述べる「歴史における必然」と「歴史における偶然」とはどのような問題か。要領よく論点を纏めると共に，適当な日本史上の歴史的事実を随意に用いて説明を試みなさい。 **留意点**：リポートの構成や用いる事例などが決まった段階で，一度当方に相談の連絡をくれた方が効率的と思料される。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：　瀧川修吾 教材名：　『征韓論の登場』(櫻門書房，2014 年) ISBN：978-4-901250-46-7 (2,500 円＋税)
	本書は，「征韓」論が幕末から明治の政治空間にどのようにして登場したかを，政治史・思想史的なアプローチで探求した専門書である。いわゆる博士論文を刊行したものであるため，章・節の設け方や脚注の付け方等々，皆さんがリポートや修士論文を作成するにあたって書式の見本となれば幸甚である。入手が困難な場合は，takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp まで御一報下さい。
参考図書	本書一冊を読破するだけでも骨が折れると思われるので，教材としては「序章「征韓」論の歴史的意義と論理的構造」と「第一章 ロシアによる対馬占拠事件」を使用する。参考図書については，適宜，紹介をする。
履修上のポイント	同書は専門書であるため，日本史の学術論文を初めて読むという履修者には，おそらく読みづらいものと思われる。まずは根気強く，導入部にあたる序章を読んでみてもらいたい。「基本教材１」と同様，未知の人名や事件については調べる努力を惜しまないで欲しい。ついで第１章を読み終えたところで，「リポート課題２」を具体的にどのようなテーマにするのか相談したいので，必ず連絡をもらいたい。そこで参考図書も決まるので，遅くとも 10 月初旬には第１章を読み終えて欲しい（場合によっては，先に第１章を読むと良いであろう)。
リポート課題 1	幕末から明治にかけての「征韓」論が当事者および歴史家によってどのように認識され，その結果，どういった学説が形成されてきたかについて論じなさい。 **留意点**：呉々も「基本教材２」の切り貼りにならないように，当方の指導を受けつつ，自分の言葉でリポートを作成すること。
リポート課題 2	幕末から明治の日本を取りまいていた国際的環境をテーマに，各自で自由に議題を設定し，これについて論じなさい。 **留意点**：履修上のポイントにも書いたように，「自由」とはいえども，当方と相談の上で議題設定をすること。

基本教材１

第１回	基本教材１の目次等を確認し，いわゆる「斜め読み」を行い，全体を俯瞰してみる
第２回	基本教材１の斜め読みを続けると共に，参考図書等にもアクセスしてみる
第３回	基本教材１「Ⅰ 歴史家と事実」を熟読し（眉批を付ける），参考文献にあたるなど学修する
第４回	基本教材１「Ⅱ 社会と個人」を熟読し（眉批を付ける），参考文献にあたるなど学修する
第５回	基本教材１「Ⅲ 歴史と科学と道徳」を熟読し（眉批を付ける），参考文献にあたるなど学修する
第６回	基本教材１「Ⅳ 歴史における因果関係」を熟読し（眉批を付ける），参考文献にあたるなど学修する
第７回	基本教材１「Ⅴ 進歩としての歴史」を熟読し（眉批を付ける），参考文献にあたるなど学修する
第８回	基本教材１「Ⅵ 広がる地平線」を熟読し（眉批を付ける），参考文献にあたるなど学修する
第９回	基本教材１を読み直して整理しつつ，リポート課題１・リポート課題２の作成に必要な文献を収集する
第10回	基本教材１を読み直して整理しつつ，リポート課題１・リポート課題２の作成に必要な文献を収集する
第11回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	基本教材２の目次等を確認し，いわゆる「斜め読み」を行い，全体を俯瞰してみる
第２回	基本教材２の斜め読みを続けると共に，参考図書等にもアクセスしてみる
第３回	基本教材２「序章「征韓」論の歴史的意義と論理的構造」を熟読し，参考文献にあたるなど学修する
第４回	基本教材２「第１章 ロシアによる対馬占拠事件」を熟読し，参考文献にあたるなど学修する
第５回	基本教材２「第２章 対馬藩の征韓論に関する比較考察」を熟読し，参考文献にあたるなど学修する
第６回	基本教材２「第３章 アジア雄飛論の諸相」を熟読し，参考文献にあたるなど学修する
第７回	基本教材２「第４章 山田方谷とアジア雄飛論」を熟読し，参考文献にあたるなど学修する
第８回	基本教材２「第５章 勝海舟とアジア雄飛論」を熟読し，参考文献にあたるなど学修する
第９回	基本教材２「第６章 アジア雄飛論と征韓論の因果関係」を熟読し，参考文献にあたるなど学修する
第10回	基本教材２を読み直して整理しつつ，リポート課題１・リポート課題２の作成に必要な文献を収集する
第11回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	国際メディア論特講	担当者	コンドウ モトヒロ 近藤 大博	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　的	本講座は，現代社会において不可欠な情報・メディアの特質を修得することにより，以下の能力を身につけることを目的とする。 １.国際的な情報の流通の特質を把握することができる。 ２.国際社会のメディアの問題点を指摘することができる。 ３.メディア・リテラシーを高めることができる。 ４.理想的なメディア像を描くことができる。
到達目標	[一般目標(GIO)] 時代の変化とメディア，特に新聞や雑誌の論調の変化，論調・報道と現実の動きの相互関係を検証することにより，情報・メディアを適切に活用する方法を修得する。 [行動目標(SBOs)] 1.メディアの発達・変化がいかに時代を動かしたか，動かすかを説明できる。(知識・想起) 2.時代の流れや経営上の要請により，メディア・情報・論調が変容する様相を類別できる。(知識・解釈) 3.IT 化の進展，SNS の普及によるメディア・情報の変質を測定・指摘できる。(知識・技能) 4.学問，知識人，世論，政治とメディアの関係を説明できる。(知識・解釈) 5.日本の報道・評論と諸外国のそれらとの相違とその原因を指摘できる。(知識・問題解決) 6.メディア・情報に内在する問題を歴史的に整理・類別できる。(知識・解釈) 7.歴史認識・対外認識・自国イメージを形成する際に陥りやすい陥穽を列挙できる。(知識・問題解決) 8.メディアの今後の方途を記述できる。(知識・問題解決)
学修方略(方法) と 学修時間	[アクティブラーニングの有無・学修媒体等] ・manaba folio の全受講者用の掲示板機能を利用し，教員と受講者とで質疑し，その過程を受講者全員に公開し，その成果を共有する。(自習，自主研究，ディベート) ・manaba folio を利用し，受講者同士で質疑応答・意見交換する。(自主研究，ディベート) ・図書館、インターネットなどで自律的に資料を検索して，リポートを作成する。(自習，自主研究，リポート作成) ・manaba folio を利用し，教員にリポートの構成を相談し，草稿を提出し，添削指導を受ける。(リポート作成) [学修方略(LS)] ・リポート課題に沿って，教材や参考図書を読み込み，自らが問題点を抽出する。 ・抽出した問題を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し，それに対する考え方をリポートとしてまとめる。 ・上記の過程で，疑問点などに関し，教員に，manaba folio，メールなどで相談・質問する。 ・教員から，適宜，manaba folio，メールなどにて伝達される情報・補助教材を活用する。 [学修時間] １篇のリポート作成に，最低 45 時間の学習時間を要する。 ・基本教材・参考文献の読み込み，データの探索：20 時間 ・リポート執筆：10 時間 ・リポートの推敲，教員の添削指導：15 時間
スケジュール	前期：教材１のリポート課題１の草稿は７月末，課題２は８月末を目途に提出する。 いずれのリポートも課題提出締切日までに最終稿を提出すること。 後期：教材２のリポート課題１の草稿は 11 月中旬，課題２は 12 月中旬を目途に提出する。 いずれのリポートも課題提出締切日までに最終稿を提出すること。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	リポート内容を，問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し，全体の記載方法，注・参考文献の適切性・記載方法，最新の研究の反映や自らの研究分野との関連性などを評価する。
	観察記録	20%	スケジュールの遵守の度合，メールの送受信の状況，質疑応答の内容などを勘案する。

履修者への要望	自らが最も有用と想定する新聞・月刊総合雑誌を定期購読することが望ましい。外国の新聞・雑誌，WEB に恒常的に接することが望ましい。そのおり，持つにいたった疑問・問題に関し，メールや manaba folio を活用し，積極的に教員と討論すること。リポートの題材・テーマは，自身の研究に資するように努めること。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：朝日新聞社「新聞と戦争」取材班 教材名：『新聞と戦争』上・下（朝日新聞出版，2011 年） 上 ISBN:978-4-02-261701-9　780 円+税 Kindle 版　https://www.amazon.co.jp/　814 円 下 ISBN:978-4-02-261702-6　780 円+税 Kindle 版　https://www.amazon.co.jp/　814 円
	朝日新聞による戦前・戦中期の同紙の報道内容の検証。軍国主義下，新聞の取材・編集現場と経営陣の葛藤，広告と部数拡大の実態，新聞と民主主義・自由の価値，世論との相互関係等々についての歴史の教訓。かつ現在のジャーナリズム・新聞にも通底する問題を示唆する。
参考図書	今西光男『占領期の朝日新聞と戦争責任』(朝日新聞社，2008 年) ISBN:978-4-02-259940-7　1,400 円+税 河内孝『新聞社』(新潮社，2007 年) ISBN:978-4-10-610205-9　700 円+税 大治朋子『アメリカ・メディア・ウォーズ』(講談社現代新書，2013 年) ISBN：978-4-06-288227-9　780 円+税 辻田真佐憲『大本営発表　改竄・隠蔽・捏造の太平洋戦争』(幻冬舎新書、2016 年) ISBN：978-4-344-98425-7　860 円+税
履修上の ポイント	新聞論調を論ずる前に，歴史・時代の流れを把握すること。商品としての新聞の特性・限界とジャーナリズムの使命の関係を意識すること。 基本教材・参考図書としてあげないが，ネット上の情報もおおいに活用すること。
リポート課題 1	基本教材のうち，もっとも印象的だった章について，その概要を紹介し，かつ取り上げた理由を叙述せよ。(3,000 字程度) **留意点**：過去の新聞を現在の時点から断罪するのではなく，かつ「やむをえなかった」などと諦めることなく，あくまでも現在・将来に通用するジャーナリズム・新聞像及びその役割を求めること。
リポート課題 2	基本教材が示す事象を教訓として，現代における理想のメディア像・新聞像・雑誌像を明示せよ。(3,000 字程度) **留意点**：情報のすべてが商品である今日，発信源の経営が成立しなくては，情報を供給できなくなる。情報の質・精度を高めることと収益性を高めることは，ときに矛盾・相克が生じることを意識すること。かつ，活字媒体の場合，それらが生き残る方途をも考察すること。また，IT 化の進展，SNS の普及によるメディア・情報の変質，フェイクニュースの特性とその影響を考察すること。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：青木保 教材名：『「日本文化論」の変容』(中央公論新社，1999 年) ISBN：978-4-12-203399-3　590 円+税
	戦後の日本人論・日本文化論の展開と軌跡をたどり，経済的発展と日本人の自画像を描く営みの関係を考察する。日本人の対外認識，外国人による日本・日本人論に潜む偏見とそれらが生じる原因を考察する。
参考図書	文春ムック『文藝春秋オピニオン　2020 年の論点 100』(文藝春秋，2020 年) ISBN：978-4-16-008697-5　1,500 円+税 文春ムック『文藝春秋オピニオン　2019 年の論点 100』(文藝春秋，2019 年) ISBN：978-4-16-008683-8　1,500 円+税 文春ムック『文藝春秋オピニオン　2018 年の論点 100』(文藝春秋，2018 年) ISBN：978-4-16-008658-6　1,500 円+税 小池和男『日本産業社会の「神話」』(日本経済新聞出版社，2009 年) ISBN:978-4-532-31435-4　1,800 円+税 竹内洋『革新幻想の戦後史』(中央公論新社，2011 年) ISBN:978-4-12-004300-0　2,800 円+税 近藤大博『月刊総合雑誌拾い読み(2011－2015)』(未来へのメッセージ舎，2016 年) Kindle 版 https://www.amazon.co.jp/　533 円
履修上の ポイント	日本人による日本論，外国人(たとえばアメリカ人)による日本論の相違が生じる理由・背景を把握するよう努めること。また，日本人による外国論(たとえばアメリカ論や中国論)と外国人(たとえばアメリカ人や中国人)による日本論の相違が生じる理由・背景を把握するよう努めること。 上の営為は，国際関係を考究するさいに，肝要な，客観的な自国分析・他国把握を可能にする。
リポート課題 1	基本教材の４つの区分のうち，一つの時期を取り上げ，その特徴を論述せよ。(3,000 字程度) **留意点**：その時期が，現在の論調や日本・日本人の自己認識(自画像)といかなる関連・関係があるかを考察すること。
リポート課題２	基本教材の問題提起を踏まえ，新聞・雑誌・テレビ・SNS などでの，現在の日本人による外国に関しての報道・評論を，または外国人による日本に関しての報道・評論を，批判的に考察・論述せよ。(3,000 字程度) **留意点**：対象としやすいのは，雑誌論文である。各自の研究に資するような題材にすること。

基本教材１

第１回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①(通読)を行う。
第２回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、リポート作成までの工程表を作成する。
第３回	教材に基づく学修③を行い、リポート課題１のテーマを考察する。
第４回	教材に基づく学修④を行い、リポート課題１の関連参考図書を渉猟する。
第５回	教材に基づく学修⑤を行い、リポート課題１の目次を作成する。
第６回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、リポート作成までの工程表を再検討する。
第７回	教材に基づく学修⑦(通読)を行い、リポート課題２のテーマを考察する。
第８回	教材に基づく学修⑧を行い、リポート課題１と課題２の関連を考察する。
第９回	教材に基づく学修⑨を行い、リポート課題２の関連参考図書を渉猟する。
第10回	教材に基づく学修⑩を行い、リポート課題２の目次を作成する。
第11回	リポート課題１について考察した内容をまとめ、初稿(草稿)を提出する。
第12回	リポート課題１に係る教員の指摘・指導を受け、リポート課題１を作成する。
第13回	リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿(草稿)を提出する。
第14回	リポート課題２に係る教員の指摘・指導を受け、リポート課題２を作成する。
第15回	リポート課題１・リポート課題２の最終稿を提出する。

基本教材２

第１回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①(通読)を行う。
第２回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、リポート作成までの工程表を作成する。
第３回	教材に基づく学修③を行い、リポート課題１のテーマを考察する。
第４回	教材に基づく学修④を行い、リポート課題１の関連参考図書を渉猟する。
第５回	教材に基づく学修⑤を行い、リポート課題１の目次を作成する。
第６回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、リポート作成までの工程表を再検討する。
第７回	教材に基づく学修⑦(通読)を行い、リポート課題２のテーマを考察する。
第８回	教材に基づく学修⑧を行い、リポート課題１と課題２の関連を考察する。
第９回	教材に基づく学修⑨を行い、リポート課題２の関連参考図書を渉猟する。
第10回	教材に基づく学修⑩を行い、リポート課題２の目次を作成する。
第11回	リポート課題１について考察した内容をまとめ、初稿(草稿)を提出する。
第12回	リポート課題１に係る教員の指摘・指導を受け、リポート課題１を作成する。
第13回	リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿(草稿)を提出する。
第14回	リポート課題２に係る教員の指摘・指導を受け、リポート課題２を作成する。
第15回	リポート課題１・リポート課題２の最終稿を提出する。

科目名	日中比較社会論特講	担当者	タカツナ ヒロフミ 髙綱 博文	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講義では，上海における日本人コミュニティの歴史と日中関係史を主要なテーマとする。はじめに，本講義は前の上海日本人コミュニティの形成・発展・崩壊の歴史過程を中心に講述する。「国際都市」上海には，戦前最も多い時に約 10 万人の日本人が在留し，上海「共同租界」の一角には日本人コミュニティが形成されていたが，その歴史を明らかにする。次に，日本と中国の 150 年の歴史を世界史の文脈において考察し，両国の「敵対」・「依存」・「相互理解」の錯綜した関係を明らかにする。それによって，歴史的視点とより正確な歴史像把握の方法を身につけ、問題発見・解決力，省察力，世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO)】 本講義は，近代上海における日本人の活動と意識を分析対象として取り上げ，日中関係史を歴史的に理解し，歴史学による実証的且つ批判的な研究方法論を学修する。 【行動目標（SBOs)】 日中関係の歴史について現代的な視点から考察し，日中関係の新たな未来を創造することのできる人材を育成する。		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio の掲示板を利用し，受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換，リポートの推敲のためのピア・レスポンス等） ・OER を視聴し，リポートを作成する。 【学修方略（LS)】 （自主研究）教材及び参考文献の検索と熟読 （リポート作成）リポートの作成・リポート推敲 （ディベート）掲示板上のディスカッション，ピア・レスポンス（受講者同士で互いのリポートにコメントをし合い，推敲する協働活動） 【準備学修項目と準備学修時間】 現代中国や上海に関する映像などを多く視聴し，今後の日本が中国といかに向き合うかについて考える。 準備学修時間 6 時間を含め，1 篇のリポート作成に 45 時間の学修時間を要する。		
スケジュール	前期：基本教材『「国際都市」上海のなかの日本人』序章から第 4 章を学修し，前期リポート課題については、最終稿の提出期限は学事暦に従う。 後期：基本教材『「国際都市」上海のなかの日本人』第 5 章から終章を学修し，後期リポート課題については、最終稿の提出期限は学事暦に従う。		
成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	75%	教材理解度 15%，論旨の一貫性 15%，要約力 15%，表現力 15%，解釈の妥当性 15%
	観察記録	25%	ピア・レスポンスへの参加度，リポート添削への対応等
履修者への要望	本講義は,近代上海における日本人の「帝国意識」とその行動を歴史学的に検証するも のであるが，リポートを作成する際には論文を作成するトレーニングであるとの自覚に基づき社会科学の方法論を積極的に修得しようとする熱意を持つことを要望する。		

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　髙綱博文 教材名：　『「国際都市」上海のなかの日本人』(研文出版，2009 年) ISBN:978-4-87-636297-４　6,500 円+税 本書の前半は，序章・第１章　上海日本人居留民社会，第２章　上海「在華紡」争議，第３章　上海事変と上海日本人居留民，第４章　日中戦争期の「租界問題」
参考図書	榎本泰子『上海』(中公新書,2009 年) ISBN:978-4-12-102030-7 800 円+税
履修上のポイント	本書は,上海日本人居留民社会の初期から終焉に至る時期を考察の対象としている。特に日清戦争から第二次上海事変までの社会形成・発展期に確立した社会階層及び社会組織を具体的に解明し，それを基礎として上海日本人居留民の活動及び意識を検証したところに方法論的な特徴がある。これにより上海の日本人居留民社会が他の外国人コミュニティと比較して閉鎖的・排外的な特性を帯びた要因を析出し，「国際都市」上海における日本人コミュニティの位置付けが歴史的に解明されている。
リポート課題 1	近代上海おける日本人居留民社会の形成と特徴について論述しなさい。 **留意点**:本書(教材)の序章及び第 1 章を学習して,近代上海の歴史的性格を明確にした 上で,上海日本人居留民社会のあり方を検証すること。
リポート課題 2	上海日本人居留民の「帝国意識」に基づく中国民衆に対する行動について論述しなさい。 **留意点**:本書(教材)の第 2 章及び第 3 章を学習して,上海日本人居留民の行動を具体的 に検証すること。
基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　髙綱博文 教材名：　『「国際都市」上海のなかの日本人』(研文出版，2009 年) ISBN:978-4-87-636297-４　6,500 円+税 本書の後半は,第 5 章 上海内山書店及び補論・第 6 章 上海日本人居留民の歴史意識の生成・ 第 7 章 最後の上海日本人居留民社会・第 8 章 上海日本人引揚者のノスタルジー・終章からなる。
参考図書	榎本泰子『上海』(中公新書,2009 年) ISBN:978-4-12-102030-7 800 円+税
履修上のポイント	本書は,上海日本人居留民社会の初期から終焉に至る時期を考察の対象としている。特に日清戦争から第二次上海事変までの社会形成・発展期に確立した社会階層及び社会組織を具体的に解明し，それを基礎として上海日本人居留民の活動及び意識を検証したところに方法論的な特徴がある。これにより上海の日本人居留民社会が他の外国人コミュニティと比較して閉鎖的・排外的な特性を帯びた要因を析出し，「国際都市」上海における日本人コミュニティの位置付けが歴史的に解明されている。
リポート課題 1	上海内山書店が日中文化交流に重要な役割を果たし,その書店経営が成功した理由について考察しなさい。**留意点**:第 5 章及び補論を学習し,上海日本人居留民社会における内山書店の特異性を明 確にし,その内山完造の中国体験を検証すること。
リポート課題 2	敗戦後における上海日本人引揚者たちの意識のあり方について考察しなさい。**留意点**:第 6 章,第 7 章及び第 8 章を学習して,上海日本人引揚者の「歴史意識」・「帝国意識」・戦争責任認識などについて検証すること。

基本教材１

第１回	教材及びシラバスを読み、学修課題と学修方法を理解する
第２回	教材の学修：序章
第３回	教材の学修：第１章
第４回	課題資料の検索と分析
第５回	リポート課題１：初稿の作成
第６回	リポート課題１：添削指導に対する修正稿の作成
第７回	リポート課題１：ピア・レスポンス
第８回	リポート課題１：最終稿の作成
第９回	教材の学修：第２章
第 10 回	教材の学修：第３章
第 11 回	課題資料の検索と分析
第 12 回	リポート課題２：初稿の作成
第 13 回	リポート課題２：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題２：ピア・レスポンス
第 15 回	リポート課題２：最終稿の作成

基本教材２

第１回	教材及びシラバスを読み、学修課題と学修方法を理解する
第２回	教材の学修：第５章
第３回	教材の学修：補論
第４回	課題資料の検索と分析
第５回	リポート課題１：初稿の作成
第６回	リポート課題１：添削指導に対する修正稿の作成
第７回	リポート課題１：ピア・レスポンス
第８回	リポート課題１：最終稿の作成
第９回	教材の学修：第６章
第 10 回	教材の学修：第７章・第８章
第 11 回	課題資料の検索と分析
第 12 回	リポート課題２：初稿の作成
第 13 回	リポート課題２：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題２：ピア・レスポンス
第 15 回	リポート課題２：最終稿の作成

科目名	環境生態論特講	担当者	村井（ムライ）　英紀（ヒデキ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	気候変動（地球温暖化）は着実に進行しており，熱波・旱魃，台風・豪雨による気象災害が常態化し，人やインフラ・農作物等への甚大な被害が出ています．また，人への被害だけではなく，同じ環境に成立する生態系（生物多様性）にも大きな影響をもたらします．一般に，温度・濃度，被害額等の把握手法は確立されていますが，気象や植生・土地利用など多様な要因が絡みあった生態系の総体としての評価（環境の生態的な評価）手法は確立されていません． 本論では，温暖化（気温変化）との関連性が高い生物種群について温度等の反応事例を収集し，温暖化の生態的な環境指標としての適性を評価するものです．次いで，温暖化動向(IPCC)に基づいた将来気温を想定して抽出生物種群への影響程度を想定・評価します，これは，環境への生態的な影響の可視化に役立つもので，持続可能性 SDGs の重要な評価軸の一つとなります．
到達目標	【一般目標（G10)】 先行事例の収集は，温暖化に伴って環境が変化することを前提として，その環境に成立する生物分類群への影響性の解析を行う．これは、今まで計測し難たかった環境の質を，生物分類群から計測するものです．また，抽出した生物分類群が成立する場の温暖化データ（気温）を収集し，温暖化シナリオを当てはめて影響程度を検討し，新しい評価軸案として提案します． 【行動目標（SBOs】 ①知識・想起・問題解決：収集データに基づいて要素関係を類別し，抽出要素の妥当性を検討する．また，正の寄与面だけではなく，批判的な側面・問題点等についても指摘する．課題解決能力と豊かな知識・教養に基づいて倫理感を高める． ②技能：収集したデータを集計し，両者の関係性を適性に解析する能力を養う． ③態度・：データ解析にあたっては，解析前に抽出データの過不足・妥当性等や解析手法の選択について事前の検討作業を行う．
学修方略 （方法）	【学修方略（LS)・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・基本教材および参考図書の熟読しドラフトリポートを作成する（自習・リポート作成，SBO①②)【15 時間/リポート１本】) ・Manaba folio でのコメント・指導に基づき，課題レポート初稿を作成する（自習・リポート作成，SBO①②)【15 時間/リポート１本】 ・課題に沿った事例，気温データ収集と長期傾向の分析（アクティブラーニング、データ解析） ・インタラクティブな学習の場（Manaba folio）での議論を通じより深く理解しリポート最終案を作成する（自主研究・リポート作成・ディベート，SBO②③)【15 時間/リポート１本】 【準備学修時間】 教材は，十分に読み込んで理解し具体的に考察することが肝要です．また、世界の気温データをネットで収集して，自分のものとして温暖化実態を把握・提示する．
スケジュール	【研究実行計画案】 実行素案を速やかに manaba に登録し，内容，方向性について（自習)，意見交換換（ディベート）して実施計画を詰めて進めます．また，草稿としてまとめる前にストーリー構築等を検討します． 【前期】教材１リポート課題(1)：７月末に草稿提出，課題(2)：８月末に草稿提出． 複数回の議論（ディベート）と修正を経て，最終稿の提出期限は学事暦に従う。 【後期】教材２リポート課題(1)：11 月中旬に草稿提出，課題(2)：12 月中旬に草稿提出． 数回の議論（ディベート）と修正を経て，最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	・事例を適切に収集し，十分に想起しているか（自習)． ・問題解決のための検討が十分になされているか（自主研究)． ・問題解決の流れ（概念図）が提示されているか（ディベート)． ・説明に必要な図表が適正に作成されているか（ディベート)． ・自分の意見を適切にまとめているか（レポート作成)．
	観察記録	20%	manaba を通じて継続的に討論（ディベート）し，適切な修正を逐次実施してリポートを作成しているか．

履修者への要望	課題解決に向けた自分の考え・想起の概念図を作成し，適正なストーリー展開による問題解決能力を重視する．また，説得力のある課題解決リポートとなるようまとめること．

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　R. カールソン 教材名：　『沈黙の春』 （新潮社，2004 年）ISBN:978-4-10-207401-5　710 円+税
	農薬等の化学物質は人への毒性が強く，環境に放出（浸透）すると，人間より先に鳥に影響が発現する．本書は，化学物質の環境への浸透と循環・生物濃縮の観点から，同じ環境を共有する人への影響についての最初の警鐘で，環境を生態的な観点から評価したマイルストーンである．
参考図書	①R.　ブラウン，『 プラン B　4．0』 （ワールドウォッチジャパン，　2010 年）ISBN:978-4948754362 ②持続的な開発目標 SDGs　（環境省等の website からダウンロード）
履修上のポイント	(1)生態に係わる環境影響事例の例示と課題（自習）． (2)持続可能な利用性からみた環境の生態的評価の重要性（自主研究，ディベート）． (3)人の生活環境を生態的な側面から評価する意義と課題（レポート作成）．
リポート課題 1	教材だけではなく，気温との関連が指摘される生物種群の影響事例を収集し，温暖化の生態的な評価軸として適性の高い生物分類群を抽出し利点・問題点を整理し，3000 字程度にまとめる． **留意点**：着目された生物種群の影響内容と課題等の整合性を議論する．また，全体をどう構成するのかについても議論し，課題 2 に至るストーリー構成に留意する．
リポート課題 2	人の生活環境との関連性(SDGs 目標 12-15)から，環境影響を生態的な側面から把握する意味(妥当性）を整理し，利点・問題点等を踏まえて評価手法として 3000 字程度にまとめる． **留意点**：既往研究，web 等の議論に基づいてまとめる，

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　A. ゴア 教材名：　『不都合な真実』 （ランダムハウス講談社　2007）　ISBN987-4-270-00226-1 1200 円+税）
	現象としての地球温暖化は事実であり，その原因は人間活動による温暖化ガスの排出であることは疑いの余地がなくなった．温暖化ガスの排出を抑制・低減できければ，人の生活環境への深刻な影響がもたらされると警告した．
参考図書	①A.ゴア『不都合な真実２』 （実業之日本社，ISBN 978-4408420790 3024 円+税） ②岩槻邦雄，堂本睦子編『温暖化と生物多様性』 （築地書館，2008 年）ISBN:978-4806713678　2，600 円+税
履修上のポイント	(1)基本教材 1 を踏まえ，地球温暖化を反映する生態的な評価軸案を提示する（自習）． (2)最新の温暖化シナリオと京都議定書からパリ協定,COP25 へ至る経過を整理し提示し，主要な抑制策をまとめて提示する（自習，自主研究）． (3)上記を併せ，生物だけではなく人にとっても潤いのある生活環境の実現のために有用な評価軸となる生物種群を評価・抽出し提案し，抽出した生物種群によって，地球温暖化の評価（可視化）ができることの利点を提示する．また，持続可能な開発 SGDs についての適性の高い評価軸であることを考察する（ディベート，レポート作成).
リポート課題 1	地球温暖化についての最新観測データ，シナリオ・対策と推移を整理し，それが抽出した生態軸（生物種群）からみた妥当性・適性を考察して 3000-4000 字にまとめる． **留意点**：気候変動，温暖化についての先行研究・文献等を収集し，温暖化の基礎情報として整理・解析し，図化する．
リポート課題 2	環境を生態的な側面から把握・評価することが，人の生活環境の質の維持と持続的利用に関わる評価軸であることを考察し提示する．また，それが生物多様性の保全にとっても重要であり，世界的な取組み（持続可能な開発目標 SDGs）における基礎的な評価軸ともなることを明記し，4000 字程度でまとめる． **留意点**：本文中に，コメントを補足する概念図や根拠となる図表を適切に挿入する．

基本教材１

第１回	課題1，2の狙いと学修方法についてのオリエンテーション.
第２回	教材１を読んで著者の意図と課題遂行方針を事前準備し，進め方を議論する.
第３回	進め方を踏まえ，課題１のレポート作成方針・目次案等を議論する.
第４回	参考図書の読解において留意すべき項目を整理・提示し，その適性を議論する.
第５回	参考図書以外に，関連する資料やweb等の調査方針を検討する.
第６回	気候変動で影響を受ける可能性の高い動物種の抽出要件（気温、生息基盤影響等）を議論する.
第７回	抽出要点に基づいて対象種群を抽出し，その妥当性を検討する.
第８回	持続可能性からみた環境の生態的評価の重要性をまとめる.
第９回	上記の検討結果に基づいて課題１のドラフトレポート案をまとめる.
第10回	課題１に基づいて，課題２への展開を議論する.
第11回	SDGsの目標との関連性を議論する.
第12回	人の生活環境を生態的な側面から評価する意義と課題を議論しまとめる.
第13回	以上から課題２のレポート案を作成し，核心部の適性を吟味・検討する.
第14回	課題１との整合性を再検討し，より適正な展開・ストーリーを議論する.
第15回	必要な修正や図表を加え，最終案として提出する.

基本教材２

第１回	基本教材２の狙いと学修方法についてのオリエンテーション.
第２回	課題１の遂行方針案を事前作成し，今後の方針を議論する.
第３回	基本教材１との関連性を検討し，作成方針・目次案を議論する.
第４回	参考図書で特に留意すべき内容案を抽出し，その妥当性を議論する.
第５回	国内外の都市の気温遷移を調べて作図し(webデータ収集)，温暖化の実態把握する.
第６回	基本教材１を踏まえて，地球温暖化を反映する生態的な評価軸を検討・抽出する.
第７回	気候変動の経緯（京都議定書からパリ協定，COP25）と主要な論点等をまとめる.
第８回	地球温暖化についての最新シナリオを整理し，抽出種群に関わる将来の温暖化程度を想定する.
第９回	抽出生物種群への影響程度を想定し，抽出種群の適性（利点）や問題点等を議論する.
第10回	課題１に対応するドラフトレポート案を作成する.
第11回	SDGsアジェンダから関連する項目を抽出し，課題２への適正な導入について議論する.
第12回	課題２のレポート案を作成する.
第13回	課題１との連携性に留意し，ストーリー展開を検討・議論する.
第14回	基本教材１との関連性と本手法の妥当性について検討・議論する.
第15回	必要な修正や図表を加え，最終版として提出する.

科目名	経済理論特講	担当者	後藤（ゴトウ） 康雄（ヤスオ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は、現実の日本経済の課題を考察することで、現代経済学の柱であるミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の各視点を有機的に関連付けながら習得し、経済環境を客観的に把握するための以下の能力を得ることを目的とする。 ① 経済リソースの効率的配分を通じて、供給主体の生産性向上と経済全体の厚生増大を実現する経済学的な意義を理解し、現実の政策のあり方を考察する。 ② 集計レベルの経済をマクロ経済学の視点から理論的・実証的にとらえ、現実の日本経済や世界経済の動向を自ら考察することができる。 ③ 現実の経済データを統計的に解析する考え方の枠組みを習得することにより、ミクロ的、マクロ的な経済上の仮説を検証する手法を学ぶ。それにより、自らの問題意識を現実のデータに当てはめて分析ができる基礎的な能力を得る。
到達目標	【一般目標（GIO）】 現実の経済の理解に必要な理論と実証分析手法に関する専門的知識を習得し、自ら関心のある経済領域の説明に応用できるようになる。 【行動目標（SBOs）】 ① 学修者が経済理論・実証分析手法に関する知識を整理し、各知識の相互的な関連性を含め理解する（知識） ② 現実の経済現象や政策課題を、学んだ知識に基づいて自ら考察することにより、より普遍的・包括的な枠組みに位置付けて理解できる技能への向上を図る（技能） ③ いずれの経済現象にも一般的な要素と個別の要素があり、それらを峻別して理論的に理解できる部分を見極めるとともに、データに基づく客観的な判断を下せるようになることで、意思決定の前提となる経済環境に臆することなく、その動向を客観的に把握できるようになる（態度）
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材および適宜指示・配布する講義資料、参考文献・資料類に基づく。教材の選定は基本的に教員が行うが、履修者の関心を取り入れる部分もあり得る。アクティブラーニングは予定していない。 【学修方略（LS）】 ・ まず基本となる教材や各種資料等を熟読する。その過程で、理解が困難な個所や自らの問題意識を整理する。 ・その上で、リポートの素案を作成する。具体的には、①テーマの選定、②執筆の方向性（着眼点、仮説等）の検討、③全体の骨子作成、をまとめる。 ・ 学修支援者が学術的・政策的な観点から専門知識に基づくコメントを与え、その内容を反映したファースト・ドラフトを作成する。 ・ 全体のプロセスを通じ、有機的な理解を促すために学修支援者と緊密な討議を行う場として、適切なタイミングでの添削指導を複数回にわたり行い、より充実したリポートの作成に導く。なお、作業過程を通じ、リポートに直接盛り込まれる情報だけでなく、必ずしも盛り込まれないがリポートの作成に資する関連資料を自らサーチして、読み込む。 【準備学修項目と準備学修時間】 リポートを1つ作成するごとに、参考文献・資料等の選定・読み込みに20時間以上、リポートの素案作成（執筆の方向性の検討や骨子の作成等）に10時間以上、Manaba-Folioへのドラフト提出・改訂稿の作成の連絡・調整に15時間以上を目安とする。
スケジュール	① 提出期限より前にManaba Folioを通じて、複数回、直接的なやりとりを行うことで理解を深めておくこと。また、初稿の提出は、最終的な提出期限の4週間前までに行っておくこと。 ② 課題への基本的な取り組み方が分からず、提出期限までの完成に不安がある場合、自ら抱え込んだままにせず、早い段階で大まかな問題意識とともにManaba Folioを通じて相談する。 ③ 最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	① 教材の内容を十分に修得し、それらに基づいて執筆されているか ② 自らの考察を、読者に伝わるように書かれているか ③ 自主的に関心を持って情報を集め、活用して解答しているか
	観察記録	20%	① 最終提出までに複数回の指導を受けて作業が進められているか ② 最終提出4週間前に初稿を提出できているか（減点項目）

履修者への要望	経済学は現実の問題意識、例えば政策課題や経営上の関心などをもって取り組むことが、深い理解に到達するために有効である。講義で直接取り扱う文献類のみならず、日常から幅広い情報源（新聞、経済誌、各種文献等）に積極的に触れていることが望ましい。

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：大守 隆（編） 教材名：『日本経済読本（第 21 版）』 東洋経済新報社、2019 年 1 月：ISBN 978-4492100349　2,640 円（税込）
	金融、財政、景気、産業、雇用、世界経済などを幅広く捉え、現代の日本経済の課題を多面的に考察する。
参考図書	・日経ビジネス編集部（編）『日経ビジネス 日本経済入門』日経ビジネス社、2014 年 11 月、ISBN 978-4822277987　2,750 円 ・藤井彰夫（著）『日本経済入門』日経文庫、2018 年 1 月、ISBN 978-4532113858　860 円+税
履修上のポイント	まずは、日本経済の弱み、強みな何かという問題意識を持って、現状を理解してもらいたい。その上で、それが当面の政策課題にどうつながるか、企業経営や家計マネジメントにどのような含意をもたらすか、という観点で考察を深めてもらうことを期待する。最終的には、今後の政策のあり方や経済全体のシナリオメイキングにつなげて欲しい。
リポート課題 1	教材１および参考図書の内容を参考にしつつ、わが国の金融政策の展望について自らの考えをまとめ、今後のあり方を述べてもらう。 **留意点**： 経済メカニズム（因果関係）に留意し、現実のデータを踏まえた議論を展開する。
リポート課題 2	教材１および参考図書の内容を参考にしつつ、日本の財政の先行きについて展望を述べ、財政再建の必要性と今後のあり方を考察し、考えをまとめる。 **留意点**： 経済そのもののメカニズムに加え、政治との相互作用など現実の経済に影響を及ぼす要素についても配慮する。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：森川正之（著） 教材名：『生産性　誤解と真実』 日本経済新聞出版社、2018 年 11 月：ISBN 978-4532358037　3,000 円+税
	著者名：玄田有史（編） 教材名：『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』 慶応義塾大学出版会、2017 年 4 月：ISBN 978-4766424072　2,200 円（税込）
参考図書	・宮川努（著）『生産性とは何か』筑摩書房、2018 年 11 月、ISBN 978-4480071897　800 円+税
履修上のポイント	日本経済のみならず、先進国の経済はほぼ軒並み低成長、低インフレの傾向にある。こうした状況を企業と家計、生産性と賃金という相互に関連する視点から解きほぐし、まずは現状を経済理論の枠組みに基づいて理解する。その上で、政策的・マネジメント的に改善すべき点を検討し、その処方箋を自らの問題意識として考察してもらいたい。
リポート課題 1	教材２および参考図書の内容を参考にしつつ、わが国の経済成長力の先行きについて自らの考えをまとめ、今後の成長戦略の可能性を述べる。 **留意点**：成長会計（労働力、資本、生産性）のいずれの要素を高めるかを明示する。
リポート課題 2	教材２および参考図書の内容を参考にしつつ、労働市場の先行きを展望し、日本経済の成長力と関連付けながら今後のあり方について考察する。 **留意点**：現在議論がなされている「働き方改革」の要素を織り込む。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」に関する総合的な理解を達成し、教材に基づく学修①（日本経済の基本構造）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（歴史的経緯）を行う
第３回	教材１に基づく学修③（企業の視点からの関心事項）
第４回	教材１に基づく学修④（家計の視点からの関心事項）
第５回	教材１に基づく学修⑤（金融政策の状況）
第６回	教材１に基づく学修⑥（財政の現状）
第７回	教材１に基づく学修⑦（産業界と産業政策）
第８回	教材１に基づく学修⑧（通商問題）
第９回	教材１に基づく学修⑨（地域政策）
第 10 回	教材１に基づく学修⑩（経済政策全般の論点）
第 11 回	リポート課題１・２の最終検討（教員とのインタラクティブ討議等）
第 12 回	リポート課題１・２それぞれの初稿を完成し、教員に提出する
第 13 回	リポート課題１に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第 14 回	リポート課題２に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第 15 回	リポート課題１・２の内容を教員と共有し、了承を得た上で、最終稿を提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」に関する総合的な理解を達成し、教材に基づく学修①（生産性と成長会計）を行う
第２回	「学修の進め方」を教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（労働市場の基本構造）を行う
第３回	教材２に基づく学修③（技術革新と生産性）
第４回	教材２に基づく学修④（産業構造の変化）
第５回	教材２に基づく学修⑤（グローバル競争と生産性）
第６回	教材２に基づく学修⑥（資本蓄積の視点）
第７回	教材２に基づく学修⑦（賃金の決定）
第８回	教材２に基づく学修⑧（労働生産性と労働分配率）
第９回	教材２に基づく学修⑨（人的資本の向上）
第 10 回	教材２に基づく学修⑩（成長戦略の論点）
第 11 回	リポート課題１・２の最終検討（教員とのインタラクティブ討議等）
第 12 回	リポート課題１・２それぞれの初稿を完成し、教員に提出する
第 13 回	リポート課題１に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第 14 回	リポート課題２に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第 15 回	リポート課題１・２の内容を教員と共有し、了承を得た上で、最終稿を提出する

科目名	経済理論特講	担当者	川又（カワマタ） 祐（ヒロシ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は、財政学の源流の一つであるイギリス財政思想とドイツ財政思想を中心に、財政思想の生成・発展に関する歴史を習得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。
到達目標	【一般目標（GIO)】 イギリス財政思想とドイツ財政思想の比較を通じて、両者の相違点を理解する。 【行動目標（SBOs)】 ①学修者が財政思想に関する知識を列挙し，それぞれの知識を関係づけて理解する(知識) ②個々の財政思想家について調べた知識を活かして深く考えることで理解は一層明確になり，自ら使うことができる技能に高める(技能) ③財政理論と現実社会の背景にある考え方を応用的に適用することで，財政の諸課題に対応できる配慮ある行動となる(態度)
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 各自が教材以外の関連書籍を探し，新聞・ネットメディアなどの記事のほか，図書館の公表原典資料などにもアクセスしていく必要がある。学術書や論文などの幅広い情報源を活用することが望まれる。 【学修方略（LS)】 まず，基本教材を熟読したうえで，副教材も参考にしつつ，リポートドラフトを作成する（自習・リポート作成，SBO①②)【15 時間/リポート１本】 次に、学修支援者による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき，初稿を作成する（自習・リポート作成，SBO①②)【15 時間/リポート１本】 そして、より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場（ディスカッション）となる「複数回の添削指導」を通じて，最終的にリポートを作成する。最終リポートに到達するまでには，与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し，更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで，より深い理解に到達する（自主研究・リポート作成・ディベート，SBO②③)【15 時間/リポート１本】
スケジュール	【準備学修項目と準備学修時間】 教材精読のみであれば数日もあれば読めるものであるが，内容を理解し，具体的な考察を自らやってみることで身につくものであり，その 3～5 倍の時間は取って，しっかり身に付けるだけの準備を行うことを期待する。 ①提出期限までに何度か manaba folio を使って，考え方を確認・交換することで理解を深める必要がある。最低でも前後期とも課題提出期限１か月前までには初稿を提出すること。 ②受講開始後，課題へのアプローチ方法がわからず，初稿期限(提出期限１か月前)までに課題提出することが難しいと考えた場合には，早期に必要な質問をメールあるいは manaba folio を使って連絡すること。効率的に学習に取り組むために，リポート作成前に，課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。 ③最終稿の提出期限は学事暦に従う

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	①教材の内容を修得し，その考えを踏まえて解答されているか ②自分の独自の考えを，相手に伝わるように解答できているか ③教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）
	観察記録	20%	①最終提出までに複数回のリポート交換ができているか ②途中稿提出期限（最終提出１か月前）が守れているか（減点項目）

履修者への要望	英語、ドイツ語の辞書を常に携帯し、英語文献、ドイツ語原典に日頃から接していることが望ましい。 履修登録後，速やかに学修計画のすり合わせを行うために，担当教員（川又）に連絡すること

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　池田浩太郎　大川政三 教材名：　『近世財政思想の生成　重商主義と官房学』千倉書房　1982 年 ISBN：978-4-8051-0440-8　税込み 3,850 円
	本書は、重商主義、官房学を中心として、その代表者たち（ペティ、ヴォーバン、ゼッケンドルフ、ホルニク、ユスティ、ゾネンフェルス、ダブナント、J.ステュアート）の原典を講読することで、彼らのおかれた時代背景、彼らに課された課題を明らかにする。
参考図書	ペティ『租税貢納論』（大内兵衛　松川七郎訳）　岩波文庫　1975 年 大倉正雄『イギリス財政思想史　重商主義期の戦争・国家・経済』日本経済評論社　2000 年 J.ステュアート『経済の原理』（小林昇監訳、飯塚正朝ほか訳）　名古屋大学出版会　1998 年 楠谷清ほか『財政学入門』八千代出版　2019 年
履修上のポイント	現代の財政は財政民主主義を理念としている。財政民主主義とこれらの思想家たちの考えを常に対比することで、イギリスとドイツ（オーストリアを含むドイツ語圏）の歴史の理解が深まる。
リポート課題 1	イギリス財政思想史のうちペティを取り上げ、彼のおかれた時代背景と彼の業績を説明しなさい。 **留意点**：他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること。
リポート課題 2	イギリス財政思想史のうち J.ステュアートを取り上げ、彼のおかれた時代背景と彼の業績を説明しなさい。 **留意点**：他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　田村信一・原田哲史編著 教材名：　『ドイツ経済思想史』　八千代出版　2009 年 ISBN-10：4842914688　税込み 3,630 円
	本書は、官房学から始まるドイツ経済思想の通史である。官房学では、官房学の代表者ゼッケンドルフ、ユスティ、ゾネンフェルスらが取り上げあれる。彼らの原典を講読することで、彼らのおかれた時代背景、彼らに課された課題を明らかにする。
参考図書	大倉正雄『イギリス財政思想史　重商主義期の戦争・国家・経済』日本経済評論社　2000 年 池田浩太郎・大川政三『近世財政思想の生成　重商主義と官房学』千倉書房　1982 年（基本教材）
履修上のポイント	現代の財政は財政民主主義を理念としている。財政民主主義とこれらの思想家たちの考えを常に対比することで、イギリスとドイツ（オーストリアを含むドイツ語圏）の歴史の理解が深まる。
リポート課題 1	ドイツ財政思想史のうちドイツ官房学を取り上げ、ゼッケンドルフのおかれた時代背景と彼らの業績を説明しなさい。 **留意点**：他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること
リポート課題 2	ドイツ財政思想史のうちドイツ官房学を取り上げ、ユスティとゾネンフェルスのおかれた時代背景と彼らの業績を説明しなさい。 **留意点**：他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（財政民主主義）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、教材に基づく学修②（租税原則）を行う
第３回	教材１に基づく学修③（イギリス重商主義）
第４回	教材１に基づく学修④（W.ペティ）
第５回	教材１に基づく学修⑤（J.ステュアート）
第６回	教材２に基づく学修①（イギリスとドイツの財政思想の相違）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材２に基づく学修②（前期官房学）
第８回	教材２に基づく学修③（V.L.v.ゼッケンドルフ）
第９回	教材２に基づく学修④（後期官房学）
第10回	教材２に基づく学修⑤（J.H.G.v.ユスティと J.v.ゾネンフェルス）
第11回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（A.スミスおよび古典派）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、教材に基づく学修②（A.ワグナーおよび正統派）を行う
第３回	教材に基づく学修③（予算制度）
第４回	教材に基づく学修④（歳入）
第５回	教材に基づく学修⑤（歳出）
第６回	教材に基づく学修⑥（租税）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材に基づく学修⑦（直接税と間接税）
第８回	教材に基づく学修⑧（ドメーネン）
第９回	教材に基づく学修⑨（レガリエン）
第10回	教材に基づく学修⑩（公需説）
第11回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第12回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第13回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第14回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第15回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	国際経済政策論特講	担当者	前野（マエノ）　高章（タカアキ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	近年の世界経済では，グローバルな貿易自由化が進められると同時に，地域統合への活発な動きも見せている。1990 年代以降，企業や産業のグローバルな経済活動に伴い部品・コンポーネントなどの中間財の貿易が拡大し，グローバル・バリュー・チェーン（GVCs）が広域に発展してきている。そのような国際分業をより円滑に進めるために経済政策の果たすべき役割が近年特に重要となってきている。本講座は，国際分業構造の変化，企業の海外進出，地域経済の発展などの関連性に着目し，理論と実証の両面から国際経済政策を分析することを目的とする。
到達目標	【一般目標（GIO)】 最新理論，通商政策の論点，実証分析手法を理解し，仮説の提起・検証のプロセスを熟知することを到達目標とする。グローバル化での経済政策（特に，通商政策）が各国経済と地域経済に与える影響を把握するために，国際経済と経済政策の理論的考察の知識を習得し，国際経済政策問題の理論的アプローチの変遷を理解する。 【行動目標（SBOs)】 ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。 生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。 通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。 国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 基礎理論の指導や質疑応答はオンラインでのインタラクティブな指導を行う。 【学修方略（LS)】 基本教材リーディング，研究文献サーベイとリポート作成を基本的な学修方法とするが，個別指導には対面指導とソーシャルメディアを利用するオンラインで行う。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：経済学の基礎理論を学習する。 準備学修時間：12 時間 準備学修項目：経済政策と企業の海外進出に関する基礎理論と基本課題を学習する。 準備学修時間：12 時間 準備学修項目：伝統的貿易理論，新貿易理論と新々貿易理論を学習する。 準備学修時間：36 時間
スケジュール	リポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており，提出期日は manaba_folio ならびに学事暦記載のとおりとする。受講開始後，課題へのアプローチ方法がわからず，初稿期限(提出期限 1 か月前)までに課題提出することが難しいと考えた場合には，早期に必要な質問をメールあるいは manaba folio を使って連絡すること。 最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	課題リポートの内容を正しく理解しているかどうか，教材や参考図書を理解し，自分の意見でまとめられているかどうかを基準する。
	観察記録	20%	①　リポートの事前準備や最終提出までに複数回のリポート交換ができているかなどといったリポート作成のプロセスを基準とする。

履修者への要望	基本教材を理解したうえで，その他の関連文献などから国際経済政策に関する知識を修得することを心がけてください。また，リポート作成に関しては添削や質疑応答に関する十分な時間を確保するようにしてください。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　若杉隆平 教材名：　『国際経済学(第3版)』(岩波書店，2009年) ISBN：9784000266994　2,900円＋税
	この教材は，まず国際経済に関するデータの把握から入り，国際経済学の基礎理論を概説し，そのうえで不完全競争下での新貿易理論を網羅して，完全競争下の貿易政策や不完全競争下の貿易政策を解説している。さらに，企業の異質性を国際貿易理論に取り込んだ「新々貿易理論」を紹介し，それをベースに海外直接投資やアウトソーシングなどといった国際貿易を分析する新たな視点を取りあげている。この教材は，理論的アプローチを踏まえて望ましい国際経済政策の在り方を考察するための基本教材として位置づけられる。
参考図書	木村福成『国際経済学入門』(日本評論社，2000年) ISBN：978-4535551282　3,200円＋税 冨浦英一『アウトソーシングの国際経済学』(日本評論社，2014年) ISBN：978-4535556911　3,200円＋税 清田耕三・神事直人『実証から学ぶ国際経済』(有斐閣，2017年) ISBN：978-4641165175　2,800円＋税
履修上のポイント	教材および参考図書を熟読し，国際貿易の基本理論の理解を心がける。具体的には，伝統的貿易理論のリカード・モデル，新古典派のヘクシャー＝オリーン・モデル，そして，新貿易理論や新々貿易理論までの国際貿易理論の流れとその特徴など、国際貿易理論の基本的考え方について把握するようにすること。
リポート課題1	貿易理論の展開を考慮に入れ，現在の国際貿易はどのようなパターンで行われているのか，また，貿易を行う国が国際分業を通じてどのようなメリットを得たのかについて論じなさい。 **留意点**：上記の履修ポイントを押さえて，国際貿易の基礎的な理論の展開を論理的にまとめるようにすること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は，参考図書や別の資料を参照すること。
リポート課題2	自由貿易の推進は一国の経済成長にどのようなインパクトを与えるかを論じなさい。 **留意点**：通商政策の理論，保護貿易の論拠を踏まえて，主体的な意見ではなく，具体例をあげながら論理的に結果を導くようにまとめること。また，具体例の出所なども記載すること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は，参考図書や別の資料を参照すること。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　馬田啓一・木村福成編著 教材名：　『通商戦略の論点－世界貿易の潮流を読む－』(文眞堂，2014年) ISBN：9784830948220　2,600円＋税
	この教材は，世界貿易と日本の通商戦略における諸問題を論点に取り上げ，その現状や問題点，課題についてまとめている。主な論点は，アジア太平洋の新たな通商秩序の構築に向けた日本の対応，日本が目指す通商立国のための条件，次世代型の通商政策における課題，といった三つの論点をまとめてあり，国際経済政策の現状と課題，将来的な在り方について考察するための基本教材として位置づけられる。
参考図書	馬田啓一，木村福成編著『国際経済の論点』(文真堂，2012年) ISBN：978-4830947711　2,800円+税 渡邊頼純『GATT・WTO体制と日本―国際貿易の政治的構造』(北樹出版，2012年) ISBN：978-4779303371　2,500円＋税 長谷川聰哲編『アジア太平洋地域のメガ市場統合』(中央大学出版部，2017年) ISBN：978-4805722633　2,600円＋税
履修上のポイント	教材および参考図書を熟読し，日本の通商政策への取り組みと，通商政策における近年の課題や将来的な方向性について理解することを心がけること。
リポート課題1	通商政策の論点がWTOからメガFTAへと転換してきた背景についてまとめ，日本が新たな通商立国の道を目指すための条件について論じなさい。 **留意点**：WTO体制の機能の限界と変化について考え，なぜメガFTAという方向に向かっているかを日本の視点からまとめること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は，参考図書や別の資料を参照すること。
リポート課題2	地域経済統合に向けた流れを踏まえ，日本が直面する次世代型の通商課題について論じなさい。 **留意点**：資源・エネルギー問題や環境問題などといった具体例をあげ，通所政策における将来的な論点をまとめること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は，参考図書や別の資料を参照すること。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし，教材および参考図書に基づく学修を行う
第２回	教材および参考図書に基づく学修①（国際経済と統計データ）
第３回	教材および参考図書に基づく学修②（国際貿易の基礎）
第４回	教材および参考図書に基づく学修③（比較優位と国際貿易，生産要素の変化と国際貿易）
第５回	教材および参考図書に基づく学修④（生産技術と貿易均衡，特殊的要素と国際貿易）
第６回	教材および参考図書に基づく学修⑤（貿易政策の理論，不完全競争下における貿易政策）
第７回	教材および参考図書に基づく学修⑥（規模経済性と産業内貿易
第８回	教材および参考図書に基づく学修⑦（戦略的貿易政策と通商摩擦）
第９回	教材および参考図書に基づく学修⑧（直接投資と多国籍企業，技術移転と国際貿易）
第 10 回	教材および参考図書に基づく学修⑨（国際貿易と企業）
第 11 回	教材および参考図書に基づく学修⑩（国際貿易ルール）
第 12 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容を整理し，初稿を提出する
第 13 回	リポート課題１に関する指摘事項について考察および検討を行う
第 14 回	リポート課題２に関する指摘事項について考察および検討を行う
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを整理し，最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし，教材および参考図書に基づく学修を行う
第２回	教材および参考図書に基づく学修①（アジア太平洋の新通商秩序：経済連携の潮流と日本の通商戦略，TPP と RCEP）
第３回	教材および参考図書に基づく学修②（アジア太平洋の新通商秩序：国際制度の標準化と貿易円滑化の促進，TPP 締結後の補償・調整支援措置）
第４回	教材および参考図書に基づく学修③（新たな通商立国の条件：東アジアの生産ネットワーク，日本の国際収支）
第５回	教材および参考図書に基づく学修④（新たな通商立国の条件：貿易が雇用・生産に及ぼす影響，サービス貿易の自由化）
第６回	教材および参考図書に基づく学修⑤（新たな通商立国の条件：アベノミクスと通貨戦争の虚実）
第７回	教材および参考図書に基づく学修⑥（次世代型の通商課題：アフリカの資源をめぐる貿易・投資と貧困削減）
第８回	教材および参考図書に基づく学修⑦（次世代型の通商課題：日本における地球温暖化対策の苦悩）
第９回	教材および参考図書に基づく学修⑧（次世代型の通商課題：世界食糧危機と農産物貿易）
第 10 回	教材および参考図書に基づく学修⑨（次世代型の通商課題：日本の食料保障政策）
第 11 回	教材および参考図書に基づく学修⑩（次世代型の通商課題：日本のエネルギー通商戦略の課題）
第 12 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容を整理し，初稿を提出する
第 13 回	リポート課題１に関する指摘事項について考察および検討を行う
第 14 回	リポート課題２に関する指摘事項について考察および検討を行う
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを整理し，最終レポートを提出する

科目名	近代日本社会変動論特講	担当者	小峰（コミネ）　和夫（カズオ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	当科目の目的は,日本の社会が今いかなる歴史的発展の途上にあるのか,これから我われが進むべき道,あるいは選択しうる道はどのようなものなのかといったテーマに関して,社会経済史的な視野から総括的に学習し、現代社会の動向を的確にとらえることのできる知的基盤を養うことである。学習を通じて社会科学的視野を身につけることができるはずである。
到達目標	【一般目標　(GIO)】 総合的な歴史的見地に立った社会科学の世界にふれることにより,混沌として見えにくい現代日本社会の仕組みと動きをとらえる視座と方法を身に着ける。 【行動目標　(SBOs)】 学習の決め手は読書力と文章表現力の養成である。読書力の向上は,何よりもまず教材の内容を的確に理解し，その内容を整理して説明し，問題点を指摘することにより図られる。その読書力=理解力の程度をしめすのが文章表現力であり,リポート＝報告作成には不可欠の技能である。この二つの知的スキルを養い，知識・解釈のレベルを向上させる。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba あるいは e-mail を媒体としての担当教員との双方向的学習が中心となる。 【当科目の学修方略はリポート作成】 【学修方略（LS)】 ①教材をよく読み込み，意欲的に新たな知見を獲得し,著者の主張を的確につかむ努力をする。それにより他者の意見を理解する能力を高める。(準備学修時間 13 時間) ②教材以外の文献等からも情報・知見を得るようにする。(準備学修時間 5 時間) ③リポートの内容，構成，論点を整理する。(準備学修時間 7 時間) ④リポートを執筆する。(準備学修時間 13 時間) ⑤草稿を提出し、添削結果に従って内容を修正改善し，期限に間に合うよう最終稿を仕上げていくようにする。(準備学修時間 7 時間) ⑥以上リポート 1 課題につき 45 時間が準備学修時間の目途。 【準備学修項目と準備学修時間】 教材の読解,リポートのためのメモ作成,参考図書等の利用,リポート草稿の作成と提出,添削結果への対応修正,リポート最終提出。準備学修時間は 1 課題につき 45 時間が目途。
スケジュール	①草稿の提出：前期は７月末までに，後期は 11 月末までに，それぞれ最低１回は草稿を提出し，教員からの添削を受ける。 ②草稿の手直し：前期は８月末，後期は 12 月末までを目途に，添削結果に対応した改善を草稿に加える。 ③前後期それぞれ所定の学事暦に定められた期限までに正式の原稿を提出する。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	70%	教材の理解度，リポートの構成，文章力と語彙力，参考文献等の利用具合，論旨の明快度，添削への対応状況等をみる。
	観察記録	30%	草稿の提出状況,添削結果への対応状況,担当講師とのコミュニケーション等を通じての履修態度,熱心度をみる。

履修者への要望	学習は自分を磨くためにおこなうものと心得,骨身を惜しむことなくできるだけ真摯に取り組むようにしてほしい。とくに指定の教材に関しては、これをきちんと読み込み，課題に適切に対応したリポートを作成するよう努力してほしい。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名　　見田宗介 教材名　　『現代社会はどこに向かうか』（岩波書店，2018 年）760 円+税
	近代社会,あるいは資本主義社会はいま深刻な行き詰まりをみせている。将来に向けての明るい展望や期待が失われている。人間の社会は歴史上のどのような地点に達しているのか。そしてどこに向かおうとしているのか。人々,とりわけ若い世代は何を望んでいるのか。教材はこうした現代的・世界史的テーマに正面から取り組んでいる。 ○現代社会はどこに向かうか　○脱高度成長期の精神変容　○ヨーロッパとアメリカの青年の変化　○ダニエルの問いの円環　○生きるリアリティの解体と再生　○ロジスティック曲線について　○高原の見晴らしを切り開くこと　○世界を変える二つの方法
参考図書	佐伯啓思『貨幣と欲望』(筑摩書房,2013 年）1400 円＋税　橘木俊詔『21 世紀の資本主義を読み解く』(宝島社,2015 年）1400 円＋税　岡田斗司夫『僕たちは就職しなくてもいいのかもしれない』（PHP 研究所，2014 年）760 円+税
履修上のポイント	(1)まずは教材をきちんと読み,著者の言わんとするところをよく理解してほしい。 (2)教材のテーマは非常に大きなものなので,自分自身もじっくり考えてみる姿勢でリポートに取り組んでほしい。 (3)教材だけを読んでリポートを書くのではなく,たとえば上記の参考図書に挙げられているような本にも目を通して，色々な角度から問題を考えるようにしてほしい。
リポート課題 1	テキストの中で語られている「世界の無限」「世界の有限」とはどのようなものか。その概要をまとめ,それについて論評しなさい。 **留意点**：著者の見解をよく理解しきちんとした論評を書くようにしてほしい。
リポート課題 2	テキストの著者は,先進国の若者の意識変化をみてどのような未来を予測しているか。その概要をまとめ,それについて論評しなさい。 **留意点**：課題 1 と同じ。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名　　岩井克人 教材名　『会社はこれからどうなるのか』（平凡社，2009 年）950 円+税
	いま資本主義経済は 18 世紀以来の産業資本主義の時代からポスト産業資本主義の時代に移行しつつある。この歴史的大転換は「グローバル化」「IT 革命」「金融革命」の三つの波によって推し進められている。当然のこと資本主義経済の主役である会社も,これに対応して大きく変化せざるをえない。しかし日本の会社はこれに対応できないでいる。著者は「株式会社」の再検証によりポスト産業資本主義時代を展望する。以下がおもな内容。 ○会社という不思議な存在　○法人論争と日本型資本主義　○日本型資本主義とサラリーマン　○日本型資本主義の起源　○資本主義とは何か　○ポスト産業資本主義における会社のあり方　○会社で働くということ
参考図書	平川克美『株式会社という病』(文藝春秋,2011 年) 648 円+税　伊藤誠『日本経済はなぜ衰退したのか』（岩波書店，2013 年）780 円+税　吉川洋『人口と日本経済』（中央公論新社，2016 年）760 円+税
履修上のポイント	(1)教材は，株式会社と資本主義の変化を原理論的・歴史学的にとらえ,21 世紀におけるそれらの在り方を展望している。ぜひその見解の全容を理解してほしい。 (2)自己の体験や見聞を生かしたリポートにするのが望ましい。 (3)参考図書など教材以外の情報にも当たり学習内容の充実を図ってほしい。
リポート課題 1	下記の二問から一つ選びリポートしなさい。 ①株式会社における「経営者の倫理」についての教材の見解をまとめ,それについて論評しなさい。 ②日本では会社の従業員のことを「会社員」と呼ぶのが普通である。このことについての教材の見解をまとめ,それについて論評しなさい。 **留意点**：自己の経験でリポートに生かせるものがあればそれを盛り込んでほしい。
リポート課題 2	下記の二問から一つ選びリポートしなさい。 ①教材ではポスト産業資本主義の時代における「おカネと株主」の重要性についてどう予測しているか。著者の考えをまとめ,それについて論評しなさい。 ②教材ではポスト産業資本主義の時代にける「会社と従業員のあり方」についてどう予測しているか,著者の考えをまとめ、それについて論評しなさい。 **留意点**：課題 1 と同じ。

基本教材１

第１回	「科目の目的」と「到達目標」について一応の明確なイメージを描いておく。
第２回	リポートの作成方法, 形式, 指導方針, リポートの課題等について担当教員に確認する。
第３回	教材に基づく学習①：教材の「はじめに」の部分をよく読み, 著者の意図を的確に理解する。
第４回	教材に基づく学習②：教材の本文を通読し全体の主張をとらえておく。
第５回	教材に基づく学習③：リポートの課題１にそって教材をていねいに再読する。
第６回	教材に基づく学習④：リポートの課題２にそって教材をていねいに再読する。
第７回	参考図書に基づく多様な知見の獲得による教材の言説の再吟味。
第８回	インターネット情報等に基づく様々な知見の獲得による教材の言説の再吟味。
第９回	リポート課題１および課題２の草稿の作成作業。
第10回	リポート課題１の草稿提出と添削。
第11回	リポート課題１の草稿に対する添削結果への対応・修正改善作業。
第12回	リポート課題１の修正草稿の確認・最終提出への指示。
第13回	リポート課題２の草稿提出と添削。
第14回	リポート課題２の草稿に対する添削結果への対応・修正改善作業。
第15回	リポート課題２の修正草稿の確認・最終提出への指示。

基本教材２

第１回	「科目の目的」と「到達目標」について再度確認しておく。
第２回	教材に基づく学習①：教材の「はじめに」の部分をよく読み, 著者の意図を的確に理解する。
第３回	教材に基づく学習②：教材の本文を通読し全体の主張をとらえておく。
第４回	教材に基づく学習③：リポートの課題１にそって教材をていねいに再読する。
第５回	教材に基づく学習④：リポートの課題２にそって教材をていねいに再読する。
第６回	教材に基づく学習⑤：教材の言説に対する自身の意見をまとめる。
第７回	参考図書に基づく多様な知見の獲得による教材の言説の再吟味。
第８回	インターネット情報等に基づく様々な知見の獲得による教材の言説の再吟味。
第９回	リポート課題１および課題２の草稿の作成作業。
第10回	リポート課題１の草稿提出と添削。
第11回	リポート課題１の草稿に対する添削結果への対応・修正改善作業。
第12回	リポート課題１の修正草稿の確認・最終提出への指示。
第13回	リポート課題２の草稿提出と添削。
第14回	リポート課題２の草稿に対する添削結果への対応・修正改善作業。
第15回	リポート課題２の修正草稿の確認・最終提出への指示。

科目名	グローバル 経営戦略論特講	担当者	階戸（シナト） 照雄（テルオ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は、日本企業の優秀企業の条件を探り，コーポレート・ガバナンスの重要性についての理解を深めることを目的とする。また、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 I.経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。 II.想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 III.さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。 IV.集団の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指　導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
到達目標	【一般目標（GIO)】 経営者が会社経営において適切な意思決定を行うために、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することを一般目標とする。 【行動目標（SBOs)】 企業を巡る経営戦略論はもとより、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。
学修方略（方法）（LS）と学修時間	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・manaba foio の掲示板や相互デイスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。 ・図書館、インターネット等で自ら論文検索して、レポートを作成する。 【学修方略（LS)】 ・基本図書・教材の十分な理解、参考文献の検索と適切な理解、レポート作成、受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。 【学修時間】 リポート課題１つにつき，完成までに以下を目安に最低45 時間の学修時間を要するものとする。 ・教材の学修：15 時間 ・リポート執筆：10 時間 ・リポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導等を含む）：20 時間
スケジュール	＜前期＞ ・リポート課題１ 初稿締切期限：６月末 ★最終稿提出期限=前期締切日 ・リポート課題２ 初稿締切期限：８月末 ★最終稿提出期限=前期締切日 ＜後期＞ ・リポート課題１ 初稿締切期限：10 月末 ★最終稿提出期限=後期締切日 ・リポート課題２ 初稿締切期限：12 月末 ★最終稿提出期限＝後期締切日

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	教材内容を十分理解・修得し，リポートが作成されているかを基準とする（論旨明確さ，独創性，文章表現の妥当性，引用の適切性等）。
	観察記録	20%	初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。

履修者への要望	・初稿の提出は締め切りを遵守すること。 ・経営・経済コースの経営部門のコア５科目の１つであり，他の科目（現代ファイナンス論特講，マーケティング論特講，アカウンテイング論特講，人材マネジメント論特講）と合わせて履修することが望ましい。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　グロービス・マネジメント・インスティテュート 教材名：　『ＭＢＡ経営戦略』（ダイヤモンド社，1999 年） ISBN:978-4-47-837243-2　2,800 円+税
	前期は経営戦略の概念を十分に理解することに重点をおき,経営戦略における基本的な分析ツールを使いこなせることを目標とする。その後，グローバル企業の戦略につき，実例に基づいた「成功要因」を考える。
参考図書	内田学『ＭＢＡ経営戦略入門』（ダイヤモンド社，2005 年） ISBN:978-4-47-837459-7　1,800 円+税 ジェイ B.バーニー『企業戦略論（上）』（ダイヤモンド社，2003 年） ISBN:978-4-47-837452-8　2,400 円+税 ジェイ B.バーニー『企業戦略論（中）』（ダイヤモンド社，2003 年） ISBN:978-4-47-837453-5　2,400 円+税 ジェイ B.バーニー『企業戦略論（下）』（ダイヤモンド社，2003 年） ISBN:978-4-47-837454-2　2,400 円+税 チャン・キム，レネ・モボルニュ『ブルー・オーシャン戦略』 （ダイヤモンド社，2013 年）ISBN:978-4-47-802467-6　1,900 円+税
履修上のポイント	1．経営戦略における全社戦略，事業戦略，実践として戦略的経営を理解する。 2．グローバル時間の成功戦略を解明するため，どのような戦略が必要となるのか，考察する。 3．基本図書の十分な理解は前提となるものの，当初理解が困難なときには，比較的平易な参考図書（『ＭＢＡ経営戦略入門』）を利用することにより，経営理論等の理解を早期に図ること。 4．参考図書のバーニー教授の「資源アプローチ」，W．チャン教授らの「ブルー・オーシャン戦略」は応用編として，理解を深めること。
リポート課題 1	アンゾフのマトリックスにつき，述べよ。同時に，アンゾフのマトリックスに基づき，1 社以上の企業を選び，その戦略を説明せよ。 **留意点**：アンゾフのマトリックスの弱みについても，論述のこと。
リポート課題 2	日本企業のグローバル戦略の課題は何か，を平易に論述すること。 **留意点**：1 社以上の日本企業を選び，論述のこと。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　新原浩朗 教材名：　『日本の優秀企業研究』（日本経済新聞出版社，2006 年） ISBN:978-4-53-219349-2　762 円+税
	後期は日本企業の競争優位の条件を更に深く考察する。その考察の中で，現在日本企業の課題となっているコーポレート・ガバナンスのあり方に焦点を絞ること。
参考図書	全国社外取締役ネットワーク編著『〈社外取締役〉のすべて』（東洋経済新報社，2004 年） ISBN:978-4-49-255514-9　1,800 円+税
履修上のポイント	1．日本企業の競争優位の条件・課題を多角的な観点より，考察する。 2．コーポレート・ガバナンス（企業統治）とは何か，を理解する。 3．企業における取締役会・社外取締役の役割につき，理解を深める。 4．世界的なコーポレート・ガバナンスの流れについての知識を深める。
リポート課題 1	日本企業の優秀企業の条件の中で，重要と思われる条件をいくつか指摘し，論述すること。 **留意点**：1 社以上の日本企業を選び，具体性を持たせること。
リポート課題 2	コーポレート・ガバナンスの意義を述べよ。 **留意点**：コーポレート・ガバナンスをもって，いかに競争優位が実現できるのか，を説明のこと。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（序章、第１節）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（全社戦略, 第１節）を行う
第３回	教材に基づく学修③（全社戦略, 第２節）
第４回	教材に基づく学修④（事業戦略、第１節）
第５回	教材に基づく学修⑤（事業戦略、第２節）
第６回	教材に基づく学修⑥（事業戦略、第３節）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材に基づく学修⑦（事業戦略、第４節）
第８回	教材に基づく学修⑧（戦略的経営、第１節）
第９回	教材に基づく学修⑨（戦略的経営、第２節）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（戦略的経営、第３節）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（序章）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（第１の条件）を行う
第３回	教材に基づく学修③（第２の条件）
第４回	教材に基づく学修④（第３の条件）
第５回	教材に基づく学修⑤（第４の条件）
第６回	教材に基づく学修⑥（第５の条件）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材に基づく学修⑦（第６の条件）
第８回	教材に基づく学修⑧（終章）
第９回	教材に基づく学修⑨（補論 1～補論 5）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（補論 6～補論 10）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	現代ファイナンス論特講	担当者	タテミヤ　ツトム 建宮　努	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は、企業活動の意志決定に寄与するファイナンスの知識を習得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 ① ファイナンス論を身につけることで、他の経営コア科目を理解するために必要な、企業の今と未来の財務的意思決定の力が身に着けられ、より深く立体的に理解することができる。 ② 不確実な未来を予測するための理論モデルを学ぶことで、日常発信される経済、経営、社会ニュースの本質を考えることができ、自らの次の行動の意志決定に活かせる ③ 低成長時代の企業のファイナンス戦略に関する考え方を、従来型の視点やニュースの文言にとらわれず、批判的な視点を持って自ら考えられるようになる。
到達目標	【一般目標（GIO） 企業経営に必要な、資金の調達・運用に不可欠なファイナンスに関する専門性を身につける。 【行動目標（SBOs）】 ① 学習者がファイナンスに関する知識を列挙し、関連付けて理解する（知識） ② 学んだ知識を活かして具体的な企業の事例を測定し、対象企業に対する自らの考えを形成できる。また自らの仕事の意思決定にも活用できる（技能） ③ 日々受け取る経済・経営情報から、ファイナンス的な視点をベースにしたコミュニケートができ、経営の未来の予測に対してより立体的な議論に参加できる（態度）
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・ まず，基本教材を熟読したうえで，副教材も参考にしつつ，リポートドラフトを作成する（自習） ・ リポート作成，SBO①②）【15 時間/リポート１本】 ・ 学修支援者による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき，初稿を作成する（自習・リポート作成，SBO①②）【15 時間/リポート１本】 ・ より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場（ディスカッション）となる「複数回の添削指導」を通じて，最終的にリポートを作成する。最終リポートに到達するまでには，与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し，更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで，より深い理解に到達する（自主研究・リポート作成・ディベート，SBO②③）【15 時間/リポート１本】 【準備学修時間】 準備学習時間：ファイナンスの基本知識は、内容を理解し，具体的な考察を自らやってみることで身につくものであるため、まずざっと全体像を把握したのち、要所については副教材も利用して電卓、エクセルなどで計算過程をたどることが効果的である。基本をしっかり身に付けるだけの準備を行うことを期待する。
スケジュール	① 提出期限までに何度か manaba folio を使って，考え方を確認・交換することで理解を深める必要がある。最低でも前後期とも課題提出期限１か月前までには初稿を提出すること。 ② 受講開始後，課題へのアプローチ方法がわからず，初稿期限(提出期限１か月前)までに課題提出することが難しいと考えた場合には，早期に必要な質問をメールあるいは manaba folio を使って連絡すること。効率的に学習に取り組むために，リポート作成前に，課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。 ③ 最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	① 教材の内容を修得し，その考えを踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを，相手に伝わるように解答できているか ③ 教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）
	観察記録	20%	① 最終提出までに複数回のリポート交換ができているか ② 途中稿提出期限（最終提出１か月前）が守れているか（減点項目）

履修者への要望	グローバル経営（MBA）部門のコア５科目の一つであり，他の科目（グローバル経営戦略論特講，ファイナンシャルアカウンティング論特講，マーケティング論特講，人材マネジメント論特講）と合わせて履修することが望ましい。 履修登録後，速やかに学修計画のすり合わせを行うために，担当教員（建宮）に連絡すること

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：　グロービス経営大学院 教材名：　『[新版]グロービスＭＢＡファイナンス』 （ダイヤモンド社、2009 年）ISBN-13：978-4478008768　2,800 円＋税
	前期は、基本的なファイナンス理論の基本を理解し、その思考方法を身につけることを目指した。過去の結果である会計と異なり、未来を予測するための意思決定ツールであるファイナンスの基本を身につけることで、日々得られる情報から得られる気づきをより高度化する。
参考図書	石野雄一『道具としてのファイナンス』（日本実業出版社、2005 年）2,400 円＋税
履修上のポイント	前期は、ファイナンスの基本的な視点、考え方を身につけ、具体的な日々の経営的な課題解決、ディスカッション等の中で活用できる下地をつくることを目指した。基本教材１の例題、事例などに取り組むとともに、参考図書で示した書籍にはダウンロード可能な事例を解説するためのエクセルシートが付録で提供されているので、より効率的な理解に活用して欲しい。
リポート課題１	事業の経済性を評価するための基本的な概念である「キャッシュフロー」について具体的な算出方法を説明するとともに、キャッシュフローの算出においてはなぜ埋没コスト（サンクコスト）をカウントしないのかについて、テキスト内事例および他の具体的な事例を用いて説明せよ。 **留意点**：基本教材１の第二章を参考に、ファイナンスの基本的な視点を身につける。
リポート課題２	資本コストの定義式であるＷＡＣＣ（加重平均資本コスト）および、その要素である株式への期待リターンを導くＣＡＰＭ（資本資産価格モデル）について説明せよ。 **留意点**：基本教材１の第五、六章を参考に、ファイナンスの基本的な考え方を身につける。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：　朝倉佑介 教材名：　『ファイナンス思考－日本を蝕む病と、再生の戦略論』 （ダイヤモンド社、2018 年）ISBN-13：978-4478103746　1,800 円＋税
	前期に習得したファイナンスの基本的な考え方をもとに、ファイナンス思考を活かして成長を果たした企業事例を学びつつ、今後の立体的な経営ディスカッションの中で活かせる視点を身につける。教材の視点はやや一面的な部分があるため、批判的な視点も維持しつつ学習をすすめることが望ましい。
参考図書	田淵直也『ファイナンス理論全史－儲けの法則と相場の本質』（ダイヤモンド社、2017 年） ISBN-13：978-4478103753　1,800 円＋税
履修上のポイント	基本教材２は前期に学んだファイナンス理論の基本、考え方が具体的に活かされている企業事例を学ぶことで、新しい企業経営の方向性を学ぶとともに、従来型の会計重視の経営意思決定が持つ問題とそれを取り巻く環境の問題などを知るためのきっかけである。学習者は本書にとどまることなく、さらに具体的な事例を探索し、考察することが望ましい。参考図書は、アカデミックな論を展開する場合に不可欠な歴史的な視点を補足するために示した。
リポート課題１	基本教材２第三章「ファイナンス思考を活かした経営」で示される企業の中から１社以上を選び、どのような企業行動にファイナンス的な思考が活かされているのかを整理し、従来の会計結果重視型の思考と比較しつつあなたの考えを論述しなさい。 **留意点**：基本教材２の考え方をうのみにせず、批判的な視点も含めて論述することが望ましい。
リポート課題２	前期、後期を通じて得られたファイナンスの基本的な知識、視点を具体的に活用できる状況を検討し、身に付けた知識、視点からどのような効果が期待できるのかついて論じなさい。 **留意点**：ファイナンスの知識、視点は、日々の意思決定活動に活かしてこそ身に付くものです。まず小さな活かせる状況を具体的に想定し、得られた知識、視点を具体的に活用できるよう想定してください。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材１に基づく学修①（ファイナンスの基本）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材１に基づく学修②（キャシュフロー１）を行う
第３回	教材１に基づく学修③（キャッシュフロー２）
第４回	教材１に基づく学修④（現在価値）
第５回	教材１に基づく学修⑤（リスク）
第６回	教材１に基づく学修⑥（リスクとリターン）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材１に基づく学修⑦（資本コスト）
第８回	教材１に基づく学修⑧（バリュエーション）
第９回	教材１に基づく学修⑨（企業価値）
第 10 回	教材１に基づく学修⑩（財務政策）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材２に基づく学修①（ＰＬ脳の問題）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材２に基づく学修②（ファイナンス思考－１）を行う
第３回	教材２に基づく学修③（ファイナンス思考－２）
第４回	教材２に基づく学修④（ファイナンス思考を活かした経営－１）
第５回	教材２に基づく学修⑤（ファイナンス思考を活かした経営－２）
第６回	教材２に基づく学修⑥（ファイナンス思考を活かした経営－３）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材２に基づく学修⑦（ファイナンス思考を活かした経営－４）
第８回	教材２に基づく学修⑧（ＰＬ脳症例－１）
第９回	教材２に基づく学修⑨（ＰＬ脳症例－２）
第 10 回	教材２に基づく学修⑩（なぜＰＬ脳に陥るのか）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	フィナンシャル・ アカウンティング論特講	担当者	丸森（マルモリ） 一寛（カズヒロ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は経営分野での共通言語である企業会計の知識・技術・マナーを修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 I.経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。 II.想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 III.さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。 IV.集団の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
到達目標	【一般目標（GIO)】 経営管理者が適切な意思決定を行うために、外部報告目的の財務諸表のメカニズムとその分析方法を理解し、企業活動を適切に表現並びに分析できる企業会計の知識・技能・マナーを修得する。 【行動目標（SBOs)】 i.企業会計における認識・測定ルールを説明できる。(知識・想起) ii.企業活動と財務諸表の関係を説明できる。(知識・解釈) iii.財務諸表から企業活動を測定並びに評価できる。(技能・コントロール) iv.企業活動を適切に表現するために一般に公正妥当な会計ルールに配慮できる。(態度・反応)
学修方略（方法） 【LS】と 学修時間	①基本教材を熟読し、副教材の問題の回答を準備して解答との照合を行うとともに解説を読んで理解を深める。全体を 12 の学修テーマに分け、各テーマ毎に具体的な学修目標（4 項目から 17 項目）を設定し、学修目標毎に基本教材および副教材の該当箇所を明示するとともに、副教材を問題＆回答形式とすることにより、履修者が自習によっても学修目標がクリアできるように工夫されている。(自習)【SBO i.＆ii.】【27 時間/リポート 1 本】 ②リポート課題に沿った事例及びデータを収集し分析する。(自主研究)【SBO　ii.】【3 時間/リポート 1 本】 ③リポートの草案を作成する。(リポート作成)【SBO　ii.＆iii.＆iv.】【3 時間/リポート 1 本】 ④ manaba folio での掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるリポート添削での教員と受講生とのディスカッションによりリポートの最終版を完成させる。(ディベート)【SBO　ii.＆iii.＆iv】【12 時間/リポート 1 本】
スケジュール	前半は学修テーマ 1.から 6.を学習範囲とする。6 月末までに一通りの学習を終了させ、「基本教材 1」のリポート課題 1 を 7 月 15 日、リポート課題 2 を 8 月 15 日までに、それぞれ初稿を提出していただき、最終稿の提出期限は学事暦に従うこととする。 後半は学修テーマ 7.から 12.を学習範囲とする。11 月中旬までに一通りの学習を終了させ、「基本教材 2」のリポート課題 1 を 11 月 15 日、リポート課題 2 を 12 月 15 日までに、それぞれ初稿を提出していただき、最終稿の提出期限は学事暦に従うこととする。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	70　%	課題に関係する重要な論点をおさえているか。 結論が明確であるか。 結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。 引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。
	観察記録	30　%	活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。 リポートの提出期限を厳守したか。 受講生同士及び教員の指摘事項を真摯に検討したか。 明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。

履修者への要望	会計関係の知識の有無は問いませんが、マーケティング、経営戦略の基本的な知識を習得しているか、あるいは当該科目を履修中であることが望ましいと考えます。“計画的かつ到達目標において示した時間を投入して学習できること”が履修要件と考えています。年度初めにたてた計画に従い、各学習目標毎の問題について必ず回答を準備してから解答と照らし合わせ、疑問点は躊躇することなく教員にメールで質問し、各テーマの学習目標を着実にクリアしてください。また、回答の準備、質問あるいはリポートにおいては「限られた情報を前提に常に意思決定を行う。」という姿勢で臨んでください。なお、履修希望者になるべく早く学修をスタートさせていただくために、**履修登録を行うと同時に担当教員（marumori.kazuhiro@nihon-u.ac.jp）にその旨メールにて連絡**をお願いいたします。勿論、その後の履修取り消し期間内において取り消しをすることは構いません。

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：伊藤邦夫 教材名：『新・現代会計入門　第３版』（日本経済新聞出版社、2018 年） ISBN:978-4532134808　3,500 円+税
	会計基準や制度の説明にとどまらず、企業の会計行動や会計事象にも焦点をあて、その背後にある要因の説明に多くのスペースを割いている。国内で評価の高いＭＢＡコースの基本テキストとして採用されており、理論や歴史から実務事例までを網羅している点で、修士課程の基本教材として最適である。
参考図書	著者名：金子智朗 教材名：『ＭＢＡ財務会計第２版』（日経ＢＰ社、2006 年） ISBN:978-4822245344　2,592 円
履修上のポイント	「1.複式簿記と財務諸表の構造」（学修テーマ 1.）をまず理解したうえで、企業活動（2.販売、3.購買・生産、4.設備投資、5.研究開発・マーケティング・人的資源管理、6.投資と資金調達）により、その投影図である財務諸表のどの部分がどのように変化するかという学修テーマ 2.から 6.を理解する。その際、「企業の具体的な活動が財務諸表にどう表現されるか」、とともに「損益とキャッシュ・フローは一致しない。」を常に意識することが重要である。SBOi.、SBOii.及び SBOiii.の達成を目指す。
リポート課題１	「損益とキャッシュ・フローは一致しない。」という命題について、1)どのようなメカニズムでそうなるのか、2)なぜこの命題が重要なのか、3.）1)及び 2)から導き出される経営管理上の留意点は何か、という観点から説明してください。 **留意点**：　学修テーマ 1.から 6.までの内容を丹念に復習して課題に臨んでください。
リポート課題２	株式会社ファーストリテイリング（2014 年 8 月期）の有価証券報告書をもとに、同社の経営戦略及び企業活動を分析してください。 **留意点**：　特にマーケティング、生産管理、などについての知識をフルに使い、同社の戦略が財務諸表にどのように表現されているかという観点から、具体的な分析を行ってください。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：伊藤邦夫 教材名：『新・現代会計入門　第３版』（日本経済新聞出版社、2018 年） ISBN: 978-4532134808　3,500 円+税
	会計基準や制度の説明にとどまらず、企業の会計行動や会計事象にも焦点をあて、その背後にある要因の説明に多くのスペースを割いている。理論や歴史から実務事例までを網羅しており、また国内で評価の高いＭＢＡコースの基本テキストとして採用されている点で、修士課程の基本教材として最適である。
参考図書	著者名：金子智朗 教材名：『ＭＢＡ財務会計第２版』（日経ＢＰ社、2006 年） ISBN:978-4822245344　2,592 円
履修上のポイント	前半でカヴァーできなかった、7.引当金、8.税金と税効果、9.キャッシュ・フロー計算書、10.外貨建取引、11.連結とＭ＆Ａ、という学修テーマを取り上げるとともに、各テーマ毎に取り上げてきた経営分析と評価を学修テーマ 12.として総括する。会計政策を使って「企業をどう見せるか」ということと、ファンダメンタル分析の方法とその限界を理解することが重要です。SBOiii.及び SBOiv.の達成を目指します。
リポート課題１	損益とキャッシュ・フローに与える影響から「実質的会計政策」を分類し、日本の中小企業の多くが該当する非上場のオーナー会社において、分類された各々の「実質的会計政策」を行使する目的とその具体例を論じてください。 **留意点**：経営者の立場から考察してください。
リポート課題２	ケース「Ｃ社」を分析し、投資対象としてのＣ社の評価とその理由を論じてください。 **留意点**：　ファンダメンタル分析を行った上で、これまでの学習で得た知識を最大限に活用してください。

基本教材１

第１回	1. 複式簿記と財務諸表の構造
第２回	1. 複式簿記と財務諸表の構造 2. 販売活動
第３回	2. 販売活動
第４回	3. 購買生産活動
第５回	3. 購買生産活動 4. 設備投資活動
第６回	4. 設備投資活動
第７回	5. 開発・マーケティング・人的資源管理活動
第８回	5. 開発・マーケティング・人的資源管理活動 6. 投資と資金調達活動
第９回	6. 投資と資金調達活動
第 10 回	リポート課題 1. の初稿作成
第 11 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第 12 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
第 13 回	リポート課題 2. の初稿作成
第 14 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第 15 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成

基本教材２

第１回	7. 引当金
第２回	7. 引当金 8. 税金と税効果
第３回	8. 税金と税効果
第４回	9. キャッシュ・フロー計算書
第５回	9. キャッシュ・フロー計算書 10. 外貨建取引
第６回	10. 外貨建取引
第７回	11. 連結とＭ＆Ａ
第８回	11. 連結とＭ＆Ａ 12. 経営分析と評価
第９回	12. 経営分析と評価
第 10 回	リポート課題 1. の初稿作成
第 11 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第 12 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
第 13 回	リポート課題 2. の初稿作成
第 14 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第 15 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成

科目名	マネジメント・ アカウンティング論特講	担当者	丸森（マルモリ） 一寛（カズヒロ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は、経営管理者として適切な意思決定を行うために必要な、会計情報を中心とした定量情報の利用についての知識・技術・マナーを修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 I.経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。 II.想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 III.さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。 IV.集団の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
到達目標	【一般目標（GIO）】 I.原価情報と意思決定、II.投資の意思決定（短期）、III.投資の意思決定（長期）から構成される「経済性分析による意思決定」と、IV.「予算管理と業績評価」のメカニズムと利用方法を理解し、経営管理者として優れた意思決定とマネジメント・コントロールを行うために必要な知識・技能・マナーを修得する。 【行動目標（SBOs）】 i.経済性分析及び予算管理と業績評価のメカニズムとその利用方法を説明できる。（知識・想起） ii.ケースにおいて上記のメカニズムの当てはめを行うことができる。（知識・解釈） iii.ケースを実際に分析し、適切な意思決定を行うことができる。（技能・コントロール） iv.上記分析と意思決定の限界を理解し、定性情報にも配慮することができる。（態度・反応）
学修方略（方法） 【LS】と 学修時間	①基本教材を熟読し、副教材のショート・ケース（I：5本、II：3本、III:5本、IV:2本）の回答を準備して提出し、教員による添削を受けるとともに指摘された事項について理解を深める。（自習）（ディベート）【SBO i.&ii. &iii.】【27時間/リポート1本】 ②リポート課題のケースについて、必要な情報及び分析方法を決定する。（自主研究）【SBO ii.】【2時間/リポート1本】 ③リポート課題のケースについて分析を行うとともに、その結果に基づいた意思決定を行う。（リポート作成）【SBO ii.&iii.&iv.】【3時間/リポート1本】 ④ manaba folio での掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるリポート添削での教員と受講生とのディスカッションにより、リポートの最終版を完成させる。（ディベート）【SBO ii.&iii.&iv】【12時間/リポート1本】
スケジュール	前半は6月末までに一通りの学習を終了させ、「基本教材1」のリポート課題1を7月15日、リポート課題2を8月15日までに、それぞれ初稿を提出していただき、最終稿の提出期限は学事暦に従うこととする。 後半は、11月中旬までに一通りの学習を終了させ、「基本教材2」のリポート課題1を11月15日、リポート課題2を12月15日までに、それぞれ初稿を提出していただき、最終稿の提出期限は学事暦に従うこととする。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	70　%	課題に関係する重要な論点をおさえているか。 結論が明確であるか。 結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。 引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。
	観察記録	30　%	活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。 リポートの提出期限を厳守したか。 受講生同士及び教員の指摘事項を真摯に検討したか。 明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。

履修者への要望	フィナンシャル・アカウンティング、マーケティング、経営戦略の基本的な知識を習得しているか、あるいは当該科目を履修中であることが望ましいと考えます。計画的かつ学修方法において示した時間を投入して学習できることが、履修要件と考えています。 また、実践的な能力を獲得するためには、「手を動かす。」事が不可欠です。副教材のケースについて必要な時間をかけて回答を準備して提出するとともに、疑問点は躊躇することなく教員にメールで質問して理解を確実なものとしてください。また、回答の準備、質問あるいはリポートにおいては「限られた情報を前提に常に意思決定を行う。」という姿勢で臨んでください。 なお、履修希望者になるべく早く学修をスタートさせていただくために、**履修登録を行うと同時に担当教員（marumori.kazuhiro@nihon-u.ac.jp）にその旨メールにて連絡**をお願いいたします。勿論、その後の履修取り消し期間内において取り消しをすることは構いません。

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：千住鎮雄、伏見多美雄 教材名：『新版　経済性工学の基礎』（日本能率協会マネジメントセンター、1994 年） ISBN:4-8207-1036-2　3,107 円+税
	採算的意思決定に関する諸理論を統合整理し、豊富な事例により自学自習ができるように工夫されており、国内で評価の高いＭＢＡコースの基本テキストとして採用されている。
履修上のポイント	①　「原価情報と意思決定」、②「投資の意思決定（短期）」、という各テーマについてその考え方を理解することにより、実務において「代替案の評価と選択」及び「投資案の評価と選択」ができるようになることを目指す。
リポート課題１	ケース「リライアブル製作所」を分析し、生産管理について経営管理者として適切な意思決定とその根拠について論じてください。 **留意点**：「原価情報と意思決定」がテーマです。
リポート課題２	ケース「株式会社ＮＢＳ」を分析し、①全社最適の観点からの意思決定、②分権的組織の問題点、について論じてください。 **留意点**：「投資の意思決定（短期）」がテーマです。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：千住鎮雄、伏見多美雄 教材名：『新版　経済性工学の基礎』（日本能率協会マネジメントセンター、1994 年） ISBN:4-8207-1036-2　3,107 円+税
	著者名：ロバート・サイモンズ 教材名：『戦略評価の経営学』（ダイヤモンド社、2003 年） ISBN: 978-4478470657　4,644 円 戦略を実行するための新たな管理会計として、競争、戦略、組織デザインと統合させた最新の業績評価と統制の手法を紹介している。ハーバード・ビジネス・スクールＭＢＡプログラムの人気科目の教科書を邦訳したものである。
参考図書	著者名：早坂清志 参考図書名：『すぐわかるポケット！ Excel 関数 パーフェクト事典（すぐわかるポケット!）』（アスキー・メディアワークス、2011 年）ISBN: 978-4048860666　1,522 円
履修上のポイント	③　「投資の意思決定（長期）」、④「予算管理と業績評価」、という各テーマについてその考え方を理解して、実務において「不確実性下の意思決定」及び「戦略的観点からの予算実績分析と評価」ができるようになることを目指す。
リポート課題１	ケース「レインボー油田」を分析し、経営管理者として適切な意思決定とその根拠について論じて下さい。 **留意点**：「投資の意思決定（長期）」がテーマです。
リポート課題２	ケース「エレクトリックカンパニー社」を分析し、業績の評価とその根拠について論じてください。 **留意点**：　「予算管理と業績評価」がテーマです。

基本教材１

第１回	Ⅰ．原価情報と意思決定 ①　イーストマン・コダック社（売上総利益と貢献利益）
第２回	②　メトロポリタン・シティ病院（病院のコスト）
第３回	③　ヒューレット・パッカード社（近年の製造業におけるＣＶＰ）
第４回	④　クラーク製紙株式会社（活動分析）
第５回	⑤　ポートランド電力株式会社（２段階方式のＡＢＣ）
第６回	（リポート課題1.）⑥リライアブル製作所（ＡＢＣとＡＢＭ）の初稿作成
第７回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第８回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
第９回	Ⅱ．投資の意思決定（短期） ①　イーグルテニスクラブ（埋没原価）
第10回	②　個人投資家のあなた（短期投資における独立と排反）
第11回	②　個人投資家のあなた（短期投資における独立と排反）
第12回	③　株式会社農創（無資格案の整理）
第13回	（リポート課題2.）④株式会社ＮＢＳ（複数事業所における複数プロジェクトの評価）の初稿作成
第14回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第15回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成

基本教材２

第１回	Ⅲ．投資の意思決定（長期） ①　割引現在価値（ＮＰＶ関数）
第２回	①　割引現在価値（ＮＰＶ関数） ②　現在価値・将来価値・定期支払額
第３回	②　現在価値・将来価値・定期支払額
第４回	③　優劣分岐と不確実性下の意思決定
第５回	④　ＮＰＶとＩＲＲ
第６回	⑤　ディシジョン・ツリーとベイジアン決定理論
第７回	（リポート課題1.）⑥レインボー油田（ディシジョン・ツリーによる不確実性下の意思決定）の初稿作成
第８回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第９回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
第10回	Ⅳ．予算管理と業績評価 ①　シェイドツリー・ファニチャー（戦略的視点からの利益評価）
第11回	①　シェイドツリー・ファニチャー（戦略的視点からの利益評価）
第12回	②　戦略的評価についての分析ノート
第13回	（リポート課題2.）③エレクトリックカンパニー社（戦略的観点からの予算実績分析と評価）の初稿作成
第14回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第15回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成

科目名	マーケティング論特講	担当者	雨宮（アメミヤ） 史卓（フミタカ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　的	本講座はマーケティング戦略の機能・役割を基礎から応用まで論理的に修得する事により，以下の能力を身につけることを目的とする。 ① マーケティング戦略の理論と実際が，市場動向，消費者ニーズの変化を捉えながら理解できる。 ② 実際のビジネスの場面で起きた事例に基づき，各個人が分析し問題を解決する手法を考案できるようになる。 ③ 広告及び宣伝，PR 等に焦点を置き，プロモーション全般の意義を理解し，マーケティング戦略の中でこれらがどのように機能しているかを論理的に解明できる。 ④ ブランド力を強化し，当該ブランドを拡張する場合，どのような広告戦略を行うべきかを既存の戦略にとらわれずに企画・検討できるようになる。
到達目標	【一般目標（GIO）】 企業が製品・サービスを売るための手段としてマーケティングを捉えるだけでなく，より広い視点でマーケティングを捉える事を心掛ける。そのため，社会情勢，経済状況の変化とともに消費者の嗜好がどのように変化し，市場に影響を及ぼしてきたかを深く理解する。 【行動目標（SBOs）】 ① 学修者がマーケティング戦略，ブランド・マネジメント，広告・プロモーション戦略に関連する知識を修得し，それぞれの知識を理論的に関連づけて理解する。（知識・解釈） ② 具体的な企業戦略の事例に対して，学んだ知識を活かして深く考えることで理解は一層明確になり，自らビジネスモデルを構築できる可能性を高める。（技能） ③ 学修していく上で，修得した知識や理論と事例に基づくマーケティング戦略の間には異なる点が見受けられることがある。その場合でも，自ら修得した能力を応用的に適用することで，具体的な企業戦略や商品カテゴリー毎の市場動向に応じて，使いこなせる配慮ある行動をとることができる。（態度・反応）
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 • 二冊の基本教材を熟読したうえで，リポートドラフトを作成する。（自習・リポート作成，SBO①②）【15 時間/リポート 1 本】 • 担当者によるコメント・指導に基づき，初稿を作成する。専門用語は予め各自で調べ理解しておく。（自習・リポート作成，SBO①②）【15 時間/リポート 1 本】 • インタラクティブな学習の場（ディスカッション）を通じて，最終的にリポートを作成する。日程を調整し，個別に対面指導やゼミ形式での討論の機会を設ける。（自主研究・リポート作成・ディベート，SBO②③）【15 時間/リポート 1 本】 【準備学修時間】 準備学習時間：教材を精読するのみであれば，時間はさほど必要ない。しかし、教材をまとめるだけ，或いは抜粋するのみではリポートにはならない。内容を理解し，具体的な考察を自らやってみることで学修能力は身につくものである。そのため，具体的な企業事例などに対しては，各自が教材以外の関連書籍やデータを探し，新聞・ネットメディアなどの記事にもアクセスし，幅広い情報源を活用することが望まれる。また，アンケート・データが必要な場合には，その方法について教員に相談する必要がある。
スケジュール	前期　課題 1　初稿：令和 2 年 7 月 10 日，最終稿の提出期限は学事暦に従う 　　課題 2　初稿：令和 2 年 8 月 10 日，最終稿の提出期限は学事暦に従う 後期　課題 1　初稿：令和 2 年 11 月 10 日，最終稿の提出期限は学事暦に従う 　　課題 2　初稿：令和 2 年 12 月 10 日，最終稿の提出期限は学事暦に従う

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	70%	① 教材の基本内容を修得し，理論を踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを，相手に伝わるように解答できているか ③ 教材以外の文献・資料・データ等を活用して解答しているか
	観察記録	30%	① 提出期限を厳守し，コメントへの適切な対応がなされているか ② リポート字数・脚注・参考文献等の形式が守られているか

履修者への要望	本講座は，グローバル経営（MBA）部門のコア５科目の一つであり，他の科目（グローバル経営戦略論特講，アカウンティング論特講，人材マネジメント論特講，現代ファイナンス論特講）と合わせて履修することが望ましい。 履修登録後，速やかに学修計画のすり合わせを行うために，担当教員（雨宮）に連絡すること

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　フィリップ・コトラー，ゲイリー・アームストロング，恩藏直人 教材名：　『コトラー，アームストロング，恩藏のマーケティング原理』(丸善出版，2014 年) (1)　ISBN:978-4-621-06622-5　4,800 円+税
	著者名：　雨宮　史卓 教材名：　『広告コミュニケーション』(八千代出版，2020 年) (2)　ISBN:978-4-8429-1763-4　2,300 円+税
	教材の１冊目は,最新の事例を数多く盛り込んだシンプルかつ体系的なマーケティングの良書である。アップ・トゥ・デートなマーケティングの本質や理念を章ごとに学んでほしい。全体を通読し，各章で学ぶコンセプトの概要，前章までに学んだコンセプトとの繋がりを理解し，体系的に学ぶことを心がけてほしい。２冊目の教材は,広告コミュニケーションを中心にプロモーション戦略,ブランド戦略に焦点を当てた内容になっている。マーケティング戦略の中で，広告・プロモーションやブランド概念がどのように機能し，役割を担っているかを理論的に学んでほしい。こちらの本も事例が多く述べられているので、自分自身がビジネスモデルを構築する場合，いかなる可能性があるかという事を念頭に置くことを望む。前期・後期ともに，この二冊を基本教材として学修をしてほしい。
参考図書	石井淳蔵・栗本契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナール　マーケティング入門』 （日本経済新聞社，2004 年）ISBN:4-532-13272-X　3,200 円+税
履修上のポイント	まずは，マーケティングとは何か，という問いに対し企業が商品を売るという視点であるのに対して，顧客は商品の価値や，それにまつわる問題解決策を購入しているという視点で理論を考察してほしい。その際に，自身が経験した具体的な購買行動に置き換えながら学ぶことで，より深い理解に繋がる可能性がある。
リポート課題 1	マーケティング戦略を成功させ,ヒット商品を市場投下している企業にはどのような差別化要因があるのであろうか。消費者ニーズや市場動向の変化を見極めながら，その要因を説明せよ。 **留意点**：有形財・無形財にとらわれず，自分自身が興味・関心のある商品を事例として取り上げ，学んできた理論と照らし合わせて考察してほしい。
リポート課題 2	マーケティング・ミックスとプロモーション・ミックスの関係性を，商品の特質やブランド力を見極めた上で説明し，自分自身が関心・興味のある商品を例にとり，プロモーション・ミックスの最適化を論述しなさい。 **留意点**：マーケティング・ミックスの意義を深く理解し，プロモーションの種類を詳細に学んだ上で事例を選び，当該商品にはいかなるプロモーション戦略が必要かを考えてほしい。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　フィリップ・コトラー，ゲイリー・アームストロング，恩藏直人 教材名：　『コトラー，アームストロング，恩藏のマーケティング原理』(丸善出版，2014 年) (1)　ISBN:978-4-621-06622-5　4,800 円+税
	著者名：　雨宮　史卓 教材名：　『広告コミュニケーション』(八千代出版，2020 年) (2)　ISBN:978-4-8429-1763-4　2,300 円+税
参考図書	田中洋『ブランド戦略論』(有斐閣，2017 年）ISBN:978-4-641-16510-6　4,000 円+税
履修上のポイント	近年では,マーケティング戦略の中で,ブランド・マネジメントという領域が築かれている。その活動がブランドを基点として行われ，ブランドを構築・育成するための活動であるならば，広告を中心とした他の戦略もブランドを中心として行われるコミュニケーション活動であることを認識してた上で学修してほしい。
リポート課題 1	ブランドの概念を「競争の視点」と「財務の視点」に分けて考察し，企業にとってブランドを拡張することの意義を論じなさい。 **留意点**：なぜブランドを競争の視点として捉えるかの理由を論理的に学ぶこと。そして，財務の視点においては、ブランド・エクイティ，ブランド・アイデンティティの概念を理解すること。
リポート課題 2	第四の経済価値である経験価値が，ブランドの概念にどのような影響を与えるかを考察した上で，経験価値に対する広告戦略の役割をサービス産業を事例にあげて説明しなさい。 **留意点**：まずは，経験価値が重要視される商品とコモディティ商品の違いを理解する。そして，経験価値を消費者に訴求する具体的な広告戦略を事例と共に述べることを勧める。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし，教材１，２に基づく学修①（マーケティングの本質）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し，教材１，２に基づく学修②（マーケティング・ミックス，市場原理）を行う
第３回	教材１に基づく学修③（企業とマーケティング戦略）
第４回	教材２に基づく学修④（プロモーションの役割と機能）
第５回	教材２に基づく学修⑤（広告コミュニケーション）
第６回	教材１に基づく学修⑥（広告とパブリック・リレーションズ）
第７回	教材１に基づく学修⑦（消費者と購買行動）
第８回	教材２に基づく学修⑧（企業と消費者間の共感性と広告コンセプト）
第９回	教材２に基づく学修⑨（広告コンセプトとタイム・マーケット）
第 10 回	教材１に基づく学修⑩（製品，サービス，ブランド）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け，それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け，それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし，教材１，２に基づく学修①（ニーズ，ウォンツ，デマンドの関係性）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し，教材１，２に基づく学修②（ブランド概念の変遷）を行う
第３回	教材１に基づく学修③（新製品開発と製品ライフサイクル）
第４回	教材１に基づく学修④（コミュニケーションによる顧客価値の説得）
第５回	教材２に基づく学修⑤（ブランドの基本的概念，ブランドを軸としたマーケティング戦略の展開）
第６回	教材２に基づく学修⑥（ブランド・ライフサイクル，ブランド拡張）
第７回	教材１に基づく学修⑦（人的販売と販売促進）
第８回	教材２に基づく学修⑧（経験価値とブランド概念）
第９回	教材２に基づく学修⑨（サービスに対する消費者行動，ストア・ブランド）
第 10 回	教材１に基づく学修⑩（マーケティングと社会的責任）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ，初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け，それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け，それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	人材マネジメント論特講	担当者	加藤（カトウ）　孝治（コウジ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は企業活動の根幹である組織・従業員のマネジメントの知識を修得することにより，以下の能力を身に付けることを目的とする。 ① 企業を構成する３つの資源（ヒト・モノ・カネ）のうち，人的資源として捉えた時の人材の性格を把握し，人材をマネジメントする方法につき，自ら学ぶ。 ② 人材マネジメントの知識を持つことで，自らの属している組織の中での従業員の行動パターンを理解し，次の行動・活動を自ら考えることができる。 ③ 組織の中で繰り広げられる経営活動・人事マネジメントについて，より深い見地から理解することができるようになることで，行動に責任を持って自ら道をひらいていくようになる。 ④ 人材マネジメント論・経営組織論を修得することは，経営管理に繋がる重要な企業経営の知識を身に付けることとなり，経営に関してより深い理解に到達することができる。
到達目標	【一般目標（GIO）】 企業経営に必要な組織運営，人材マネジメントに関する専門性を理解する 【行動目標（SBOs）】 ① 学修者が経営組織・人材マネジメントに関する知識を列挙し，それぞれの知識を関係づけて理解する(知識) ② 具体的な企業の事例に対して,学んだ知識を活かして深く考えることで理解は一層明確になり，自ら使うことができる技能に高める(技能) ③ 理論と具体的な組織の中での活動の間には異なる点があり，その考え方を応用的に適用することで，具体的なビジネスシーンに応じて使いこなせるように配慮ある行動となる(態度)
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 • まず，基本教材を熟読したうえで，副教材も参考にしつつ，リポートドラフトを作成する（自習・リポート作成，SBO①②）【15 時間/リポート１本】 • 学修支援者による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき，初稿を作成する（自習・リポート作成，SBO①②）【15 時間/リポート１本】 • より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場（ディスカッション）となる「複数回の添削指導」を通じて，最終的にリポートを作成する。最終リポートに到達するまでには，与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し，更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで，より深い理解に到達する（自主研究・リポート作成・ディベート，SBO②③）【15 時間/リポート１本】 【準備学修時間】 準備学習時間：教材精読のみであれば数日もあれば読めるものであるが，内容を理解し，具体的な考察を自らやってみることで身につくものであり，その 3～5 倍の時間は取って，しっかり身に付けるだけの準備を行うことを期待する。 具体的な企業事例については，各自が教材以外の関連書籍を探し，新聞・ネットメディアなどの記事のほか，企業の公表資料などにもアクセスしていく必要がある。論文，民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。
スケジュール	① 提出期限までに何度か manaba folio を使って，考え方を確認・交換することで理解を深める必要がある。最低でも前後期とも課題提出期限１か月前までには初稿を提出すること。 ② 受講開始後，課題へのアプローチ方法がわからず，初稿期限(提出期限１か月前)までに課題提出することが難しいと考えた場合には，早期に必要な質問をメールあるいは manaba folio を使って連絡すること。効率的に学習に取り組むために，リポート作成前に，課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。 ③ 最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	① 教材の内容を修得し，その考えを踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを，相手に伝わるように解答できているか ③ 教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）
	観察記録	20%	① 最終提出までに複数回のリポート交換ができているか ② 途中稿提出期限（最終提出１か月前）が守れているか（減点項目）

履修者への要望	グローバル経営（MBA）部門のコア５科目の一つであり，他の科目（グローバル経営戦略論特講，アカウンティング論特講，マーケティング論特講，現代ファイナンス論特講）と合わせて履修することが望ましい。履修登録後，速やかに学修計画のすり合わせを行うために，担当教員（加藤）に連絡すること（kato.koji115@nihon-u.ac.jp）

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：　佐藤剛 教材名：　『グロービスＭＢＡ組織と人材マネジメント』（ダイヤモンド社，2007 年） (1)　ISBN:978-4-47-800321-3　2,800 円+税
	著者名：　スティーブン・Ｐ・ロビンス 教材名：　『〔新版〕組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社，2009 年） (2)　ISBN:978-4-47-800459-3　2,800 円+税
	前期教材の１冊目（グロービス）は経営組織と人材マネジメントの関係を理解してもらうために選んだ入門書である。全体を通読し，人材マネジメントに係る論点がどこにあるかを把握してほしい。２冊目の教材（ロビンス）は組織行動論を考えるための良書であり，前期は組織の中で個人がどのような関係にあるのかを考えてほしい。
参考図書	金井壽宏，高橋潔『組織行動の考え方』（東洋経済新報社，2004 年） ISBN:978-4-49-252146-5　2,400 円+税 スマントラ・ゴシャール，クリストファー・Ａ・バートレット『(新装版)個を活かす企業　自己変革を続ける組織の条件』（ダイヤモンド社，2007 年）ISBN: 978-4-478-00194-3　2,592 円+税
履修上のポイント	経営組織の中で人材がどのようにマネジメントされているのか,現代の組織運営上の問題点はどこにあるのかを把握してほしい。その際に，自分が経験した具体的な事例に置き換えながら学ぶことでより深い理解に繋がるものである
リポート課題１	教材１（グロービス）を使い，従業員にとって納得性を与えるために，人事システムにおいて考えられている仕組みについて，その項目を挙げ，内容を説明しなさい。 **留意点**：人事システムを，制度・仕組みを知識として理解するだけでなく，その背景，目的まで踏まえて説明すること。
リポート課題２	個人が組織の中で活かされるために必要な動機づけに関する理論をあげ,その内容を説明するとともに，具体的なプログラムとして応用されている事例を説明しなさい。 **留意点**：教材２（ロビンス）の第Ⅱ部で示されている内容を踏まえ，組織の中で個人が活かされていくために組織は何ができるのか，考えてほしい。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：　スティーブン・Ｐ・ロビンス新版『組織行動のマネジメント』 教材名：　（ダイヤモンド社，2009 年）ISBN:978-4-47-800459-3　2,800 円+税
	組織を運営していくために一人一人の行動と,部門の行動をどのようにコントロールするべきか考える。
参考図書	ピーター・Ｍ・センゲ『最強組織の法則　新時代のチームワークとは何か』 （徳間書店，1995 年）ISBN:978-4-19-860309-0　1,900 円+税 Ｅ・Ｈ・シャイン『企業文化　生き残りの指針』（白桃書房，2004 年） ISBN:978-4-561-23393-0　2,800 円+税
履修上のポイント	組織運営においてルールは大事であるが，明文化されている仕組みだけでなく，目に見えない文化にこそ本質が宿っている場合があることも理解する。
リポート課題１	組織の中で，パワー，政治がどのように利用され権力を掌握することにつながるのか，組織内でコンフリクトが発生した時にどのように対処することができるのか，説明しなさい。 **留意点**：ロビンスの第Ⅲ部に示されている内容からまとめる。その際に，自分がこれまで組織の中で経験したことのある事例も活用して説明することが望ましい。
リポート課題２	組織はヒトの集団であり，構成メンバーの意識が同じ方向に向かうほど強い組織となる。組織文化が企業競争力の強化に効果を上げていることについて説明しなさい。 **留意点**：企業は組織を従業員にとって働きやすく，かつ自己実現を達成できる場となるように様々な工夫をしている。本課題に関しては，教材（ロビンス）の第Ⅳ部からまとめるだけでなく，可能な限り，具体的な企業の状況を把握し，複数の企業を比較しながら説明することが望ましい。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（組織の目的、組織文化）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（組織構造）を行う
第３回	教材１に基づく学修③（人事システム、多様性のマネジメント）
第４回	教材１に基づく学修④（組織と人材を動かす仕組み）
第５回	教材１に基づく学修⑤（組織と人材マネジメントの実践例）
第６回	教材２に基づく学修①（組織行動学とは何か）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材２に基づく学修②（個人の行動の基礎、パーソナリティと感情）
第８回	教材２に基づく学修③（動機づけの基本的なコンセプト）
第９回	教材２に基づく学修④（動機づけ：コンセプトから応用へ）
第 10 回	教材２に基づく学修⑤（個人の意思決定）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（集団行動の基礎）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（チームを理解する）を行う
第３回	教材に基づく学修③（コミュニケーション）
第４回	教材に基づく学修④（リーダーシップと信頼の構築）
第５回	教材に基づく学修⑤（パワーと政治）
第６回	教材に基づく学修⑥（コンフリクトと交渉）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材に基づく学修⑦（組織構造の基礎）
第８回	教材に基づく学修⑧（組織文化）
第９回	教材に基づく学修⑨（人材管理の考え方と方法）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（組織変革と組織開発）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	多国籍企業論特講	担当者	諸上（モロカミ） 茂登（シゲト）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	2008 年のいわゆるリーマンショック以来、従来の経済・市場と企業活動等のグローバリゼーションの展開への懐疑が世界的に広まった。本講義では、新自由主義者たちが主張してきたような一律のグローバリゼーションが現実的でもなく理想的でもないことを理解し、現代多国籍企業が直面している経営環境変化と企業行動の諸課題について把握することを目的とする。また、それらを踏まえて、日系多国籍企業にとっての課題の把握と問題解決の方向性についての知識を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 ① 一律のグローバリゼーションの幻想を理解することができる。 ② 国境を越えるビジネスにおける文化、政治制度、地理、経済（CAGE）の隔たりについて理解することができる。 ③ 上記②を含む基本的な課題に対して、多国籍企業の戦略ロジックと具体的対応の仕方について理解できるようになる。 ④ 日系多国籍企業が直面する諸課題、特に国際マーケティング上の課題と解決の方向性について理解できる。
到達目標	【一般目標（GIO）】 多国籍企業を取り巻く環境と行動原理を理解する 【行動目標（SBOs）】 ① 多国籍企業経営に関するグローバルスタンダードな専門的な構成概念や知見を理解する（知識） ② 日系多国籍企業の課題把握と問題解決のための分析枠組の構築の仕方を身につける（技能） ③ 日系多国籍企業が今後鍛えていくべき組織ケイパビリティについても自ら考え、提案することができる（態度）
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・ まず基本教材を熟読し、多国籍企業経営の特質（環境や行動原理）を理解し、リポートのドラフトを作成する。SBO① ・ 上記の基本的知識を身につけた上で、日系多国籍企業が抱える特定の課題解決の方策を考えるための分析枠組の構築の仕方について検討する。そのために仮説設定と分析方法（質的データ分析と量的データ分析）について、例えば基本教材２の参考文献などを参照する。SBO② ・ 次に、領域を国際マーケティングに絞った上で、その基本的な課題と分析枠組および解決策について検討する。SBO②③ ・ この講座は学術的リポートおよび修士論文の作成のための訓練の場としても活用していただきたい。そのためには複数回の添削指導を通した最終リポートの作成が必要である。 【学修方略（LS）】 基本教材、参考文献の他にも出来るだけ広くの関連文献を渉猟し、また新聞やネットメディアなどの記事の収集と活用も心がけたい。 【準備学修時間】 ・ 準備学習時間：教材につき内容を理解し，具体的な考察を自らやってみることで身につくものであり，それぞれのリポート作成につき最低 45 時間の学習時間を要す。 ・ 教材以外の関連書籍を探し，新聞・ネットメディアなどの記事のほか，企業の公表資料などにもアクセスしていく必要がある。論文，民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。
スケジュール	① 初稿の作成前に教員とおよそのアイデア交換を行う。 ② 課題へのアプローチ方法がわからない場合には早い段階でメール等にて連絡すること。 ③ リポートの最終提出までに複数回の添削指導を行う。 ④ 最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80 ％	① 教材の内容を十分に理解しているか ② リポート課題への解答が的確であるか ③ 基本教材、参考文献以外の資料が有効に活用できているか（加点項目）
	観察記録	20 ％	① 最終提出までに複数回のリポート交換ができているか ② 途中稿提出期限（最終提出１ヶ月前）が守られているか（減点項目）

履修者への要望	履修登録後、速やかに担当教員と学習計画について相談を始めること

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：パンカジ・ゲマワット 教材名：『コークの味は国ごとに違うべきか』（文藝春秋、2009 年） ISBN-13:978-4163713700　1905 円＋税
	多国籍企業経営の入門書として評価の高いこの教材を通して、多国籍企業を取り巻く環境と基本的な課題と戦略について学ぶことができる
参考図書	諸上茂登、藤沢武史、嶋正編著『国際ビジネスの新機軸―セミ・グローバリゼーションの現実の下で―』（同文舘出版、2015 年）
履修上のポイント	世界的に著名なゲマワット教授によるテキストを通して、現代多国籍企業の行動原理と基本戦略について体系的な理解に努めましょう。
リポート課題 1	セミ・グローバリゼーションの下での現代多国籍企業が抱える基本的な諸課題について論述しなさい。 **留意点**：　最新の経営環境の変化については、新聞・ネットメディア等の記事も反映すること
リポート課題 2	国ごとの差異（CAGE/文化・政治体制・地理・経済）を成功につなぐ方策について論述しなさい。 **留意点**：　ゲマワット教授の AAA 戦略を参考に論述すること

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：諸上茂登 教材名：『国際マーケティング講義』（同文舘出版、2013 年） ISBN-13:9784495646110　2300 円＋税
	９０年代以降、日本企業は「技術では勝っているのに事業で負ける」と言われることが少なくない。本書ではその構造的要因を探ると同時に、国際マーケティング視点からそうした状況を脱するための様々なアイデアを提供している。
参考図書	諸上茂登編著『国際マーケティング・ケイパビリティー戦略計画から実行能力へ―』（同文舘出版、2019 年）2800 円＋税 佐藤郁哉『質的データ分析法―原理・方法・実践』（新曜社、2008 年）
履修上のポイント	日系多国籍企業は、新しい市場動向と技術動向を捉えた起業家のマーケティング・イマジネーションを起点とするマーケティングとモノづくりのより効率的、効果的な連携によって、国際市場での競争優位性を獲得・維持・強化することが可能であることを学びましょう。
リポート課題 1	９０年代以降、エレクトロニクス産業を中心に多くの日本企業が競争力を失った構造的要因について論述しなさい。 **留意点**：　教材の要約に終わるのではなく、できるだけ多くの関連文献を渉猟して学術的リポートとして執筆すること。
リポート課題 2	日系多国籍企業による①先進国市場の深耕、②途上国市場開拓、③BOP（最貧国市場）開拓の方策のいずれか１つに絞って論述しなさい。 **留意点**：　具体的な企業事例を交えて執筆すること。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について理解する。（フラット化しない世界、国ごとの違いを成功につなぐ）
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換を行う。
第３回	教材１に基づく学修①（コークの味は国ごとに違うべきか）
第４回	教材１に基づく学修②（ウォルマートは外国であまり儲けていない）
第５回	教材１に基づく学修③（ハーゲンダッツはヨーロッパの会社ではない）
第６回	教材１に基づく学修④（インドのマクドナルドには羊バーガーがある）
第７回	教材１に基づく学修⑤（トヨタの生産ネットワークはここがすごい）
第８回	教材１に基づく学修⑥（だからレゴは後発メーカーの追従を許した）
第９回	教材１に基づく学修⑦（IBM はなぜ新興国の社員を３倍にしたか）
第 10 回	教材１に基づく学修⑧（世界で成功するための５つのステップ）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について理解する。（世界の産業・競争構造の理解と国際マーケティング）
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換を行う。
第３回	教材に基づく学修①（国際マーケティングの概念と進化モデル）
第４回	教材に基づく学修②（グローバリゼーションの現実）
第５回	教材に基づく学修③（世界的な産業・競争構造の激変）
第６回	教材に基づく学修④（日本企業の競争力）
第７回	教材に基づく学修⑤（持続的競争力のある企業の条件）
第８回	教材に基づく学修⑥（国際マーケティング戦略の基本と典型的イメージ）
第９回	教材に基づく学修⑦（国際マーケティング戦略の各論：４P を中心に）
第 10 回	教材に基づく学修⑧（世界から敬愛される人と企業へ）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	流通ビジネス論特講	担当者	コバヤシ 小林　フミオ 二三夫	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は、近代組織小売業の原点である世界初のデパートメント・ストアから現代の流通・小売業まで流通全般を研究することにより、「商いのころころと小売技術の知識」に関しての総合的な知識を修得することを目的とする。流通業は変化対応型の産業である。流通業界も情報化社会の進展、グローバル化、少子高齢化、消費の成熟化、EC チャネルの発達など大きな変化に直面している。このような変化をチャンスとして捉えて、高い業績を上げる企業がある一方、かつては有力な企業であっても消滅する事例が多くある。本講義では、組織小売業の歴史、流通の仕組み、商流、物流、情報流、流通業態、日本の商業の現状、通商政策など流通全般について研究する。創業者の商いのこころ、「ロス」の発生を最小化する技術、社会変化に対応をしている企業のビジネスモデル研究も行う。
到達目標	【一般目標（GIO)】 問題の発見・解決能力：　事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。 論理的・批判的思考力：　得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。豊かな知識・教養に基づく高い倫理観：　豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。 【行動目標（SBOs)】 企業をめぐる流通ビジネス論はもとより、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・外観ができるようになることである。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した指導を実施する。 【学修方略（LS)】 1. 流通経済の縮図「流通業の動きを見れば経済の大きな流れがわかる」という捉え方で流通・小売業を研究する。 2. 教材、参考図書をベースに具体的な企業を研究する。 3. 利益を上げて伸びている業態、伸びている小売業が何故成功しているか、創業者の企業哲学を含めてその背景を分析する。 4. 経営理念、リーダーシップ、「商人道」についても考えてみる。 【準備学修項目と準備学修時間】 １つのリポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに 25 時間以上 Manaba-Folio への提出・再提出のやりとりに 20 時間以上を目安にする。
スケジュール	1. 前期は、組織小売業として最古となるパリ「ボンマルシェ」デパートについて研究する。『デパートを発明した夫婦』を教材とする。日本流通史、商人道を通して、近世から現代の流通を概観する。教材『ようこそ小売業の世界へ』で学ぶ。 2. 後期は、歴史認識を踏まえて個々の流通企業について具体的に企業研究をする。『日本の優秀小売企業の底力』を教材として使用する。 3. 期限に先立ち、早期に初稿を提出し、最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	１００　％	課題リポートの内容を重視する。 リポート形式、字数にも注意すること。多いのは良いが基準より少ないリポートは減点する。
	観察記録	％	

履修者への要望	１．教材を良く読み、商品流通の歴史、変遷を大きく捉えて欲しい。 ２．組織小売業が登場する歴史的な背景や創業者の「商いのこころ」を理解して欲しい。 ３．総合スーパーが登場する戦後の背景と、いわゆる「流通革命」についてりかいする。 ４．環境変化が与える小売業への変化、その状況を理解する。 ５．リポートには、引用、参考文献を記載すること。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	(1)著者名：　小林二三夫・他 教材名：　改定版『ようこそ小売業の世界へ－先人に学ぶ商いのこころ－』(商業界　2017 年) ISBN978-4-7855-0524-0　1,800 円＋税 (2)著者名：　鹿島茂 教材名：　『デパートを発明した夫婦』(講談社現代新書、1991 年) ISBN978-4-06-149076-5　760 円＋税
	前期では、商品流通の歴史について概観する。特にデパートメント・ストアが登場した理由、第二次世界大戦以降の大規模メーカーによるマーケティングと流通の組織化、総合スーパーの登場と流通革命、コンビニエンス・ストアの登場、グローバリゼーション下の小売業、少子高齢化、情報化社会への対応について学ぶ。
参考図書	(1) 矢作敏行『現代流通－理論とケースで学ぶ』(有斐閣、1996 年) ISBN-978-4-64-112014-3　2,200 円＋税 (2) 各業態の代表的な企業のホームページ、業界団体のホームページ (3) 日々の流通に関する新聞記事、経済誌などの記事に注目する。
履修上のポイント	１．商品流通の歴史、変遷を大きく捉えて欲しい。 ２．組織小売業が登場する経済的な背景を理解する。 ３．総合スーパーが登場する戦後の経済的な背景を理解する。 ４．いわゆる「流通革命」の意義を考える。 ５．コンビニエンス・ストアの興隆の意味を考える。
リポート課題 1	教材『デパートを発明した夫婦』で述べられている「小売革新」について整理して説明せよ。 **留意点**：パリのデパート「ボンマルシェ」における小売革新は、現在の小売業の運営に通じるものが多くある。そのような視点で整理して欲しい。
リポート課題 2	コンビニエンス・ストアと総合スーパー（GMS）の違いについて説明せよ。 **留意点**：コンビニエンス・ストアが生まれて拝啓、総合スーパーとの違いについて注目する。

基　本　教　材　2	
教材の概要	(1)著者名：　原田秀生、向山雅夫、渡辺達朗 教材名：　『新版　ベーシック流通と商業』(有斐閣、2010 年) ISBN:978-4-64-112398-4　1,900 円＋税 (2)著作者：　矢作敏行 教材名：　『日本の優秀小売企業の底力』(日本経済新聞社、2011 年) ISBN: 978-4-53-231716-4　2,700 円
	後期は、前期で学んだ流通・小売業の歴史を基に具体的に優秀な小売業のビジネスモデルのケーススタディを行う。
参考図書	緒方和行『流通・商業の栄枯衰退の方程式』(商業界、2008 年) ISBN:978-4-78-550337-6　1,600 円＋税
履修上のポイント	１．流通は、経済の縮図「流通業の変化を見れば経済の大きな流れがわかる」という捉え方で流通を研究する。 ２．教材、参考図書をベースに具体的な企業を事例に研究する。 ３．顧客満足を実現しつつ、効率化の徹底と付加価値の形成という二つを実現し、高い業績を上げている企業の実態、その背景を研究する。小売業は、創業者の精神が企業文化に大きく影響する。そのような視点から創業者の精神、経営哲学も研究して欲しい。
リポート課題 1	小売業の事例研究教材で上げている企業について整理してリポートせよ。 事例で上げていない企業についてリポートする場合は、教材の分析手法に基づいて欲しい。 **留意点**：創業の精神、経営理念や経営者のリーダーシップといった企業の価値、組織設計や業態などの戦略、効率的なオペレーションやマーチャンダイジングなどの業務遂行、などの視点を入れること。
リポート課題 2	リポート(1)と同様の課題とする。従って、2 社について整理しリポートをすることになる。 **留意点**：留意点も(1)と同様

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（社会変化に対応する小売業について）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（従業員、取引先、地域社会、オーナーの関係）を行う
第３回	教材１に基づく学修③（小売技術の開発、従業員教育、ロスの管理について）
第４回	教材１に基づく学修④（創業者のお客様第一の「商いのこころ」について）
第５回	教材１に基づく学修⑤（商品にとって舞台となる店舗について）
第６回	教材２に基づく学修①（小売の創業者について）
第７回	教材２に基づく学修②（商業の歴史）
第８回	教材２に基づく学修③（出店戦略と財務戦略）
第９回	教材２に基づく学修④（商品政策とマーチャンダイジング）
第 10 回	教材２に基づく学修⑤（価格政策とプロモーション）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（集団行動の基礎）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（チームを理解する）を行う
第３回	教材に基づく学修③（商品開発とプライベートブランド）
第４回	教材に基づく学修④（人材マネジメントと人づくり）
第５回	教材に基づく学修⑤（情報化とサプライチェーン・マネジメント）
第６回	教材に基づく学修⑥（小売業と法規制、商慣習）
第７回	教材に基づく学修⑦（国際化とグローバルチェーンへの道）
第８回	教材に基づく学修⑧（これから小売業に求められるもの）
第９回	教材に基づく学修⑨（事例研究１）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（事例研究２）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	ビジネス法特講	担当者	ナカムラ　リョウ 中村　良	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	経済法という法典は存在しません。また経済法をどのように考えるかについていては、諸説あります。ビジネス法特講においては、「市場支配」に対する国家による規制法と定義し、私的独占の禁止および公正取引確保に関する法律（以下、独占禁止法とします）をその中心と考えます。 経済法を理解することなく事業活動を進めることは、多くのリスクが予想されます。そこでにリスクを回避するためにも、具体的な事例を通じて経済法（特に独占禁止法）を理解することが重要です。リポート 1 では、その中心的な概念である私的独占・不当な取引制限等の主要な概念を中心に勉強を進めて頂きます。リポート２では、不公正な取引方法、刑事罰・損害賠償・課徴金等を中心に勉強して頂きます。本講義の目的は、リポート作成を通じて受講生に抽象的な知識ではなく具体的な知識を取得する。
到達目標	【一般目標（GIO)】 ①問題点を見いだせる。②必要な情報を調べられる。③必要な情報を事例に適用できる。 【行動目標（SBOs)】 ①独占禁止法の意義・基礎概念をしっかり理解する。②独占禁止法違反を回避する方法について理解する。③損害を最小限にするために適切な行動ができる。
学修方略 （方法）	【学修方略（LS)・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・まず，基本教材を熟読したうえで，副教材も参考にしつつ，リポートドラフトを作成するとともに、質問事項をまとめ、第一回質問、第二回質問、第三回質問に対する学修支援者によるコメント・指導に基づき，基本知識を修得し、課題内容の理解を深める（自習・リポート作成，SBO①②)【15 時間/リポート１本】 ・第四回質問に対するコメント・指導に基づき初稿を作成する（自習・リポート作成，SBO①②)【15 時間/リポート１本】 ・初稿に対するインタラクティブな学習の場（ディスカッション）となる「複数回の添削指導」を通じて，最終リポートを作成する。(自主研究・リポート作成・ディベート，SBO②③)【15 時間/リポート１本】 不明な点は、担当教員にメールで質問して下さい。(nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp) 【準備学修時間】 準備学習時間：教材の精読、副読本を利用し、複数回の質問おおよびディスカッションを通じて基本知識の修得、論理的思考を身に着ける。審決・判例および公正取引委員会の最近の活動については、公正取引委員会の HP を利用してください。また、課題理解のためにも教材以外の関連書籍を探し，新聞・ネットメディアなどの記事のその他，論文，民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。
スケジュール	①初稿作成前に、最低四回の質問（manaba folio を使用）で担当教員とコミュニケーションをとって下さい。そのうえで最低でも前後期とも課題提出期限１か月前までには初稿を提出して下さい。 ②受講開始後，第一回目の質問が難しいようなら、早い段階でメールにてご連絡をお願いします。 ③最終稿の提出期限は学事暦に従う

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	60%	①教材の内容を修得し，その考えを踏まえて解答されているか ②課題の正確な理解がなされているか ③論理的な構成か ④教材以外の資料を参照しているか ⑤自分の独自の考えを，相手に伝わるように解答できているか ⑥引用方法が適正か
	観察記録	40%	①初稿作成前の３回の質問を行ったか。 ②初稿作成段階および初稿に対する質問のやりとり（質問、および添削に対する対応等)。

履修者への要望	1　基本教科書について不明な点、資料の調べ方等電子メールを活用し、どのような質問でも結構ですので、積極的に質問して下さい。 2　新聞等で特に独占禁止法に関連する報道があれば是非調べてみて下さい。 3　履修登録と同時に下記メールあてにご連絡をお願い致します。 nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名： 教材名： ①公正取引委員会 HP（http://www.jftc.go.jp/）「動画で分かる公正取引委員会」 ②著者名：泉水文雄、土佐和生、宮井雅明、林　秀弥 教材名：『経済法（第 2 版）』（有斐閣 2015 年） ISBN 978-4-641-17928-8　定価 2,900 円+税 ③著者名　舟田 正之（編集），金井 貴嗣（編集），泉水 文雄（編集） 教材名　『経済法判例・審決百選 2 版（別冊ジュリスト）』（有斐閣 2017 年） ISBN-13: 978-4641115347　定価 3024 円（税込み）
	教材①は独占禁止法を管轄する「公正取引委員会」が作成している「動画」です。平易な表現で説明していますので、法律を初めて勉強する方にもよい教材です。教材②は法学部さらには法科大学院の教科書として使用に耐える教科書です。少し難解かもしれませんが挑戦してみてください。教材③は、主として独占禁止法を理解するうえで重要な判例・審決について解説しています。
参考図書	著者名　根岸 哲（編） 書　名　『注釈独占禁止法』（有斐閣 2009 年）ISBN978-4-641-01836-5 定価 7,000 円+税 著者名　武田晴人 書　名　『談合の経済学』（集英社文庫 2006 年）ISBN4-08-747091-1　定価 533 円+税
履修上のポイント	独占禁止法の法律要件を抽象的に理解するだけでは、十分に理解したことにはなりません。典型的な事例を分析・検討することがとても重要です。まず、教材①で独占禁止法について概観し、次に教材②を通読し、独占禁止法の要件について勉強します。そして知識を立体化するために教材②の文中で紹介されている判例・審決について教材③で確認してください。担当教員への最低四回の質問を有効に利用してください（メール等）。
リポート課題 1	「独占禁止法の目的」とは何か **留意点**：複数の学説があります。判例も参照したうえで、それぞれの説について検討するとともに、自らの見解も示してください（根拠も示すこと）。
リポート課題 2	「談合は、規制されるべきか」 **留意点**：①談合とは何か。②何故談合が行われるのか。③談合は独占禁止法違反となるか。丁寧に検討するとともに、自らの見解も示してください（根拠も示すこと）。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名： 教材名： ①公正取引委員会 HP（http://www.jftc.go.jp/）「動画で分かる公正取引委員会」 ②著者名：泉水文雄、土佐和生、宮井雅明、林　秀弥 教材名：『経済法（第 2 版）』（有斐閣 2015 年） ISBN 978-4-641-17928-8　定価 2,900 円+税 ③著者名　舟田 正之（編集），金井 貴嗣（編集），泉水 文雄（編集） 教材名　『経済法判例・審決百選 2 版（別冊ジュリスト）』（有斐閣 2017 年） ISBN-13: 978-4641115347　定価 3024 円（税込み）
	教材①は独占私法を管轄する「公正取引委員会」が作成している「動画」です。平易な表現で説明していますので、法律を初めて勉強する方にもよい教材です。教材②は法学部さらには法科大学院の教科書として使用に耐える教科書です。少し難解かもしれませんが挑戦してみてください。教材③は、主として独占禁止法を理解するうえで重要な判例・審決について解説しています。
参考図書	著者名　根岸 哲（編） 書　名　『注釈独占禁止法』（有斐閣 2009 年）ISBN978-4-641-01836-5 定価 7,000 円+税 著者名　武田晴人 書　名　『談合の経済学』（集英社文庫 2006 年）ISBN4-08-747091-1　定価 533 円+税
履修上のポイント	リポート課題 1、2 ともに、教材②を精読するとともに、インターネット等を通じて資料を検索・検討してください。担当教員への最低四回の質問を有効に利用してください（メール等）。
リポート課題 1	「再販売価格維持制度とその適用除外について論じなさい」 **留意点**：独占禁止法は原則再販売価格維持行為を禁止しているが、例外を認めている。再販売維持行為を禁止する理由と例外を認める理由につき検討し、その妥当性について検討するとともに、自らの見解をしめすこと（根拠を示すこと）。
リポート課題 2	「独占禁止法違反を予防するために、どのような措置が考えられるか論じなさい」 **留意点**：現在の独占禁止法の執行方法について検討するとともに、より予防するためにどのような措置が考えられるか検討して下さい。

基本教材 1

第 1 回	履修のポイントとよく読み、資料の収集、読み方について質問する（第一回質問）。
第 2 回	教材 1 に基づく学修①（第 1 章独占禁止法理解の基礎になる概念等）
第 3 回	教材 1 に基づく学修②（第 6 章エンフォースメント）
第 4 回	1～3 回目の内容について学修し、意見・質問をする。（第二回質問）
第 5 回	教材 1 に基づく学修③（第 2 章不当な取引制限等の規制（価格カルテル））
第 6 回	教材 1 に基づく学修④（第 2 章不当宇な取引制限（入札談合））
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑤（第 3 章私的独占（排除型私的独占））
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑥（第 3 章私的独占（支配型私的独占））
第 9 回	不当な取引制限規制と私的独占規制におけるエンフォースメントの問題点について考察する
第 10 回	5～9 回の内容について学修し、要点をまとめ、意見・質問をする（第三回質問）。 課題の趣旨について質問する（第四回質問）。
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する。
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する。
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する。
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める。
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する。

基本教材 2

第 1 回	履修のポイントとよく読み、資料の収集、読み方について質問する（第一回質問）。
第 2 回	教材 2 に基づく学修①（第 4 章企業結合規制）
第 3 回	教材 2 に基づく学修②（第 4 章業務提携と企業結合規制）
第 4 回	1～3 回目の内容について学修し、意見・質問をする（第二回質問）。
第 5 回	教材 2 に基づく学修③（第 5 章不不公正な取引方法（不当な差別的取扱い、不当な対価取引））
第 6 回	教材 2 に基づく学修④（第 5 章不不公正な取引方法（不当顧客誘引、不当な取引強制）
第 7 回	教材 2 に基づく学修⑤（第 5 章不不公正な取引方法（事業活動の不当な拘束））
第 8 回	教材 2 に基づく学修⑥（第 5 章不不公正な取引方法（取引上の地位の不当利用））
第 9 回	不公正な取引法とエンフォースメントの問題点について考察する。
第 10 回	5～9 回の内容について学修し、要点をまとめ、意見・質問をする（第三回質問）。 課題の趣旨について質問する（第四回質問）。
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する。
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する。
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する。
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める。
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する。

科目名	ファミリー ガバナンス論特講	担当者	階戸（シナト） 照雄（テルオ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本科目では，ファミリー企業のガバナンスにつき，海外の豊富な具体的な企業ケース・スタディも交えて，考察してゆくことで、以下の能力を習得することを目的とする。 I.経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。 II.想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を　解決することができる。 III.さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。 IV.集団の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指　導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
到達目標	【一般目標（GIO)】 経営者が会社経営において適切な意思決定を行うために、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することを一般目標とする。 【行動目標（SBOs)】 企業を巡るファミリーガバナンス論はもとより、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。
学修方法	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・manaba foio の掲示板や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。 ・図書館、インターネット等で自ら論文検索して、レポートを作成する。 【学修方略（LS)】 ・基本図書・教材の十分な理解、参考文献の検索と適切な理解、レポート作成、受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。 【学修時間】 リポート課題１つにつき，完成までに以下を目安に最低45 時間の学修時間を要するものとする。 ・教材の学修：20 時間 ・リポート執筆：10 時間 ・リポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導等を含む）：15 時間
スケジュール	＜前期＞ ・リポート課題１　初稿締切期限：６月末　★最終稿提出期限=前期締切日 ・リポート課題２　初稿締切期限：８月末　★最終稿提出期限=前期締切日 ＜後期＞ ・リポート課題１　初稿締切期限：10 月末 ★最終稿提出期限=後期締切日 ・リポート課題２　初稿締切期限：12 月末 ★最終稿提出期限＝後期締切日

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	教材内容を十分理解・修得し，リポートが作成されているかを基準とする（論旨明確さ，独創性，文章表現の妥当性，引用の適切性等）。
	観察記録	20%	初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。

履修者への要望	・初稿の提出は締め切りを遵守すること。 ・経営関連科目の基礎の理解が前提のため，経営関連科目との同時履修が好ましい。また，他のファミリービジネス関連科目の履修も望ましいのは言うまでもない。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠雄編著、階戸照雄他著 教材名：　『日本のファミリービジネスーその永続性を探るー』(中央経済社，2016 年) ISBN:978-4-502-19011-7　2,400 円+税
	前期はファミリー企業の現状と課題につき，理解を深めることに重点を置く。このため，データ・理論面だけではなく，実際のファミリー企業像が得られるよう，具体的な企業についての知識を得るように努める。
参考図書	ジョン・A・デーヴィス他『オーナー経営の存続と継承』（流通科学大学出版，1999 年） ISBN:978-4-94-774630-6　2,800 円+税 全国社外取締役ネットワーク編著『〈社外取締役〉のすべて』（東洋経済新報社，2004 年） ISBN:978-4-49-255514-9　1,800 円+税
履修上のポイント	1．ファミリー企業の定義から，その実態までの数々のデータを基に，理解を深める。 2．一般的な企業とファミリー企業の経営課題の違いを十分理解する。 3．一般的な企業と比較して，ファミリー企業のガバナンスの問題点を考える。
リポート課題 1	ファミリー企業成功の条件を述べよ。 **留意点**：１社以上の具体例を説明すること。
リポート課題 2	ファミリー企業における，コーポレート・ガバナンス（企業統治）の必要性につき，説明せよ。 **留意点**：１社以上の具体例を含めること。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　ランデル・カーロック，ジョン・ワード（訳者）階戸照雄 教材名：　『ファミリービジネス　最良の法則』(ファーストプレス社，2015 年) ISBN:978-4-90-433681-6　3,800 円+税
	後期は，前期で習得した知識をベースにして，基本教材（『ファミリービジネス　最良の法則』）で広範囲に扱われている，ファミリーガバナンスを中心に知識を深めていく。本書は優れた実務的な経験を踏まえた理論書であり，深い理解が望まれる。
参考図書	倉科敏材編著『オーナー企業の経営』（中央経済社，2008 年） ISBN:978-4-50-266160-0　2,600 円+税
履修上のポイント	1．欧米のファミリー企業の現状につき，知識を得る。 2．日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の経営課題の違いを理解する。 3．公開企業（非ファミリー企業）のコーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題点を理解する。 4．ファミリー企業のガバナンスの問題点を理解する。
リポート課題 1	ファミリーガバナンスとコーポレート・ガバナンスの違いにつき，説明せよ。 **留意点**：１社以上の具体例を含めること。
リポート課題 2	ファミリーガバナンス実現のための条件を述べよ。 **留意点**：１社以上の具体例を説明すること。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（第１章）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（第２章）を行う
第３回	教材に基づく学修③（第３章）
第４回	教材に基づく学修④（第４章）
第５回	教材に基づく学修⑤（第５章）
第６回	教材に基づく学修⑥（第６章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材に基づく学修⑦（第７章）
第８回	教材に基づく学修⑧（第８章）
第９回	教材に基づく学修⑨（第９章）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（終章）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（なぜファミリービジネスは悪戦苦労しているのか）を行う
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（ファミリー計画と事業計画の策定を同時進行させる）を行う
第３回	教材に基づく学修③（ファミリーの価値観と企業文化）
第４回	教材に基づく学修④（ファミリーとビジネスのビジョン：ファミリーのコミットメントを探る）
第５回	教材に基づく学修⑤（ファミリーの戦略：ファミリーの参加に関するプランニング）
第６回	教材に基づく学修⑥（ビジネス戦略：会社の将来の計画）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第７回	教材に基づく学修⑦（ファミリービジネスを成功へと導くための投資）
第８回	教材に基づく学修⑧（ファミリービジネス・ガバナンスと取締役会の役割）
第９回	教材に基づく学修⑨（ファミリー・ガバナンス：ファミリー集会とファミリー協定）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（木を植える人々）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	事業創造論特講	担当者	ナカムラ　ユウイチロウ 中村　裕一郎	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座は，新規事業創造（企業内での新規事業開発，ベンチャー企業の起業）についての知識を修得することにより，以下の能力を身に付けることを目的とする。 ① 新規事業創造の方法論と日本の現状について，自ら学び，当該分野における課題を提示できる。 ② 自らの属している組織における新規事業創造の課題を抽出して，その課題を解決するための行動・活動を自ら考えることができる。 ③ 社会に求められる新しい事業を創造するため，指導的立場で企業内において新しい事業を立ち上げること，あるいは，自らベンチャー企業を起業することができる。
到達目標	【一般目標（GIO)】 企業内における新規事業開発，ならびにベンチャー企業の起業に必要な事業創造に関する専門性を修得する。 【行動目標（SBOs)】 ① 事業創造に関する理論や事例について説明できる。(知識) ② 事業創造を阻害する課題を抽出し，その解決策を提示・実行できる。(技能)。 ③ 現実の社会に求められている新規事業を立ち上げるため，自ら行動し，多くの関係者と協調できる。(態度・習慣)
学修方略 （方法）	【学修方略（LS)・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ① 基本教材・副教材を学修する。(自習，SBO①②)【20 時間/リポート 1 本】 ② リポートの初稿を作成する（自習・リポート作成，SBO①②)【10 時間/リポート 1 本】 ③ 教員とのディスカッション（複数回の添削指導）を通じて，最終的にリポートを作成する。最終リポートを完成させるには，提示された教材以外に自ら参考資料を探索して，そこから得られる知見を加えることが必須である。(自主研究・リポート作成・ディベート，SBO②③)【15 時間/リポート 1 本】 【準備学修項目と準備学修時間】 提示された教材の内容を理解するためには，ベンチャー企業論，ベンチャー経営論等の基礎的な知識が必要である。当該分野を学修していない履修者は，入門レベルの教科書（参考図書(1)等）を学修する必要がある。
スケジュール	前期は，リポート課題 1 の初稿の締切りを 6 月 20 日，課題 2 の初稿の締切りを 8 月 20 日とする。最終稿の提出期限は，いずれも前期リポート期限とする。 後期は，リポート課題 1 の初稿の締切りを 10 月 31 日，課題 2 の初稿の締切りを 12 月 10 日とする。最終稿の提出期限は，いずれも後期リポート提出期限とする。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	①　リポートが求める課題に対して適切に解答されているか ②　結論の論拠が明確で，説得力のあるものになっているか。 ③　結論に独自性があるか。(加点項目)
	観察記録	20%	①　レポートの提出期限が守られているか。 ②　教員とのディスカッションへの対応

履修者への要望	提示された教材、参考図書以外に，新聞・雑誌・ネットメディアなどの記事のほか，学術論文，民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。 学修計画のすり合わせを行うために，履修登録後，速やかに担当教員に連絡すること

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：　グロービス経営大学院編著 教材名：　『グロービスＭＢＡ事業開発マネジメント』(ダイヤモンド社，2010 年) (1)　ISBN: 978-4478012130　2,800 円+税 著者名：　ブランク，スティーブン G. 教材名：　『アントレプレナーの教科書[新装版]』(翔泳社，2016 年) (2)　ISBN: 978-4798143835　2,400 円+税 教材(1)、参考図書(2)は，新規事業開発やそれに必要な事業計画書についての標準的な考え方を述べた文献。教材(2)、参考図書(3)は，事業創造の新しいプロセスについて述べた文献。レポート課題１を行うには参考図書(2)を参照すること、レポート課題２を行うには参考図書(3)を参照することが望まれる。
参考図書	(1)忽那憲治他『アントレプレナーシップ入門』(有斐閣，2013 年) ISBN: 978-4641150027　1,800 円+税 (2)グロービス経営大学院編著『グロービスＭＢＡビジネスプラン[新版]』 (ダイヤモンド社，2010 年)　ISBN: 978-4478014745　2,800 円+税 (3)マウリャ，アッシュ『実践リーンスタートアップ』(オライリージャパン，2012 年) ISBN: 978-4873115917　2,200 円+税
履修上のポイント	新規に事業を創造するための標準的なプロセスと，新しいプロセスについて学ぶ。自らの体験等を踏まえて，それらを実践するとどうなるかについて深く考察して欲しい。
リポート課題１	事業創造のプロセスにおける事業計画書（ビジネスプラン）の役割，意義について，昨今の経営環境を踏まえて，5,000 字以内にまとめなさい。 **留意点**：取り上げる事業創造のプロセスは，企業内における新規事業開発であっても，起業を前提とする事業創造であっても構わないが，どちらについての記述であるか明確にすること。
リポート課題２	シリコンバレー等のベンチャー企業で採用されるようになった新しい事業創造プロセスが日本においても実践可能なものであるかについて 5,000 字以内にまとめなさい。 **留意点**：新しい事業創造プロセスを日本で実行しようとする際に阻害要因となり得るものを挙げ，その阻害要因を克服できる可能性を考察すること。

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：　中村裕一郎 教材名：　『アライアンス・イノベーション－大企業とベンチャー企業の提携:理論と実際－』 (白桃書房，2013 年)ISBN: 978-4561266204　3,500 円+税 大企業にとって重要なベンチャー企業との提携が，日本ではあまり行われていない原因とその解決策を提示する文献。意図的に提携の戦略的位置付けを明確にすること，ベンチャー企業や VC とのネットワーク形成の手段として CVC (Corporate Venture Capital) 活動を行うこと等が重要であり，これらを実践するための組織として全社的新規事業開発組織の設置を提案する。
参考図書	(1)チェスブロウ，ヘンリー編著『オープンイノベーション―組織を越えたネットワークが成長を加速する』(英治出版，2008 年) ISBN: 978-4862760463　2,800 円+税 (2)ハメル&ドーズ『競争優位のアライアンス戦略―スピードと価値創造のパートナーシップ』 (ダイヤモンド社　2001 年) ISBN: 978-4478373446　2,800 円+税 (3)KPMG FAS 編『実践 CVC－戦略策定から設立・投資評価まで』(中央経済社，2018 年) ISBN: 978-4502281419　2,800 円+税
履修上のポイント	ベンチャー企業との提携は，大企業の事業創造の手法として欧米において広く行われているにもかかわらず，日本企業が積極的ではない原因を理解し，その打開策として CVC の役割，運営上の課題について学ぶ。
リポート課題１	日本の大企業が，事業創造において重要なベンチャー企業と提携に対して積極的ではない理由とその解決策について 5,000 字以内にまとめなさい。 **留意点**：そのグローバル化が進行している経営環境にあって，なぜ日本企業の行動様式が欧米企業と異なるかを考える必要がある。
リポート課題２	近年，日本においても CVC を設立する企業が増えている。こうした状況を踏まえ，課題 1 で述べた日本企業の課題は解決されたのかどうかについて，5,000 字以内にまとめなさい。 **留意点**：昨今の企業を取り巻く経営環境の大きな変化に留意して考察すること

基本教材１

第１回	本科目の「目的」と「到達目標」を理解した上で、教員との意見交換により「学修の進め方」を理解する
第２回	教材１に基づく学修①（アイデアとビジネスモデル、ビジネスプラン）
第３回	教材１に基づく学修②（新事業戦略の定石）
第４回	教材１に基づく学修③（人材・組織づくりとリーダーシップ）
第５回	教材１に基づく学修④（マネジメント・システムの強化、新ビジネスに必要なもの）
第６回	リポート課題１について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第７回	リポート課題１の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第８回	リポート課題１について最終レポートを提出する
第９回	教材２に基づく学修①（製品開発モデルと顧客開発モデル）
第 10 回	教材２に基づく学修②（顧客発見）
第 11 回	教材２に基づく学修③（顧客実証）
第 12 回	教材２に基づく学修④（顧客開発と組織構築）
第 13 回	リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 14 回	リポート課題２の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第 15 回	リポート課題２について最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	教材２に基づく学修①（イノベーション・モデルとしてのシリコンバレー）
第２回	教材２に基づく学修②（日本の大企業にとってのベンチャー企業との提携の意義）
第３回	教材２に基づく学修③（提携についての研究のレビュー）
第４回	教材２に基づく学修④（日本的経営についての研究のレビュー）
第５回	教材２に基づく学修④（日本の大企業とベンチャー企業との提携についての研究のレビュー）
第６回	リポート課題１について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第７回	リポート課題１の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第８回	リポート課題１について最終レポートを提出する
第９回	教材２に基づく学修⑤（日本の大企業とベンチャー企業の提携の成功事例①）
第 10 回	教材２に基づく学修⑥（日本の大企業とベンチャー企業の提携の成功事例②）
第 11 回	教材２に基づく学修⑦（日本の大企業がベンチャー企業との提携を成功させるための方策）
第 12 回	ここまでの学修を踏まえ、昨今の日本の大企業とベンチャー企業との提携の状況について調査・考察
第 13 回	リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 14 回	リポート課題２の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第 15 回	リポート課題２について最終レポートを提出する

科目名	事業承継論特講	担当者	曽根（ソネ） 秀一（ヒデカズ）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講座では、「事業承継」について経営学の視点から理解し、その知識を得るとともに、実践的な課題解決に関して修得することを目的とする。 日本の地域、経済の活性化を担っていく存在として、近年、中小企業とりわけ、ファミリービジネス（同族企業、家族企業）に注目が集まっている。また、欧米の大学では、ファミリービジネス論の授業が盛んに行われ、わが国でもファミリービジネスを取り扱った授業が増えつつある。その中でも本講義では、ファミリービジネスの中でも重要項目となる事業承継に焦点をあて、理解を深めていく。「理論・概念」と「実例」の対応関係に留意し資料の読み込みがのぞまれる。 以上の目的を達成することにより、理解力に加え、論理的かつ批判的思考力を中心に、問題発見、解決能力、計画・戦略立案、導入、遂行できる能力の獲得を目指す。
到達目標	【一般目標（GIO)】 ファミリービジネスならびに事業承継の内容と位置づけについて、専門性を理解する。 【行動目標（SBOs)】 ・ファミリービジネスの基礎となる概要及び基礎理論を説明できる（知識)。 ・それをもとに、事業承継の仕組みを理解し、ケース事例を分析・評価・形成できる（技能)。 ・経営学の理論や情報などをもとに、事業承継に関する諸課題解決策の議論に参加し、コミュニケートする（態度)。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した指導を実施する。 【学修方略（LS)】 １．教材の熟読ならびに体系的理解する。 ２．長寿企業、ファミリー企業における事業承継の特徴や問題点を理解する。 ３．事業承継に至るまでの後継者育成について理解する。 ４．日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の比較検討を行う。 【準備学修項目と準備学修時間】 1つのリポート作成にあたり基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上Manaba-folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。
スケジュール	複数回にわたるリポートを提出することで修士論文作成の際の必要となる基礎的な事項を修得することができる。具体的には、第 1 回目のリポートの草稿は、遅くとも最終提出期限の１か月前を目安にすること。最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	教材内容の理解、修得、リポートの構成、文章表現を基準とする。
	観察記録	20%	草稿段階から最終稿に至るまでのプロセスや取組みを評価基準とする。

履修者への要望	経営関連科目の基礎の理解が前提なため、経営関連科目との同時履修が望ましい。 また、他のファミリービジネス関連の履修も望ましい。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　倉科敏材編『オーナー企業の経営：進化するファミリービジネス』(中央経済社、2008 教材名：　年) ISBN:978-4-502-66160-0 2,600 円+税
	テキストはファミリービジネスに関して、網羅的に論じたものである。主な研究成果を体系的に概説しており，その優位性・特徴，成長と発展，経営戦略，事業承継，ガバナンス，社会的責任などを相互関連に着目して理解するのに適している。事業承継の理解に加えて，それに関連した諸事情の理解に有効である。
参考図書	星野妙子編 『ファミリービジネスの経営と革新―アジアとラテンアメリカー』(アジア経済研究所、2004 年) ISBN: 978-4-258-04538-9 4,500 円+税 落合康裕 『事業承継のジレンマ：後継者の制約と自律のマネジメント』(白桃書房、2016 年) ISBN: 978-456126682-2 3,200 円+税
履修上の ポイント	・事業承継の概要、プロセスについて理解する ・ファミリー企業と非ファミリー企業の事業承継の違いを理解する。 ・事業承継の課題と解決策について理解する。
リポート課題 1	◎事業承継の難しさとその解決策について述べよ。 **留意点**：スリー・デメンショナル・モデル、コンフリクトに触れながら論じること。 承継の困難を乗り越えたケースを 1 つ以上あげて補足すること。
リポート課題 2	◎後継者自身がリーダーへと成長するうえで重要な要因を述べよ。 **留意点**：具体的なケースを 1 つ以上あげて補足すること。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　曽根秀一『老舗企業の存続メカニズム：宮大工企業のビジネスシステム』(中央経済社、 教材名：　2019 年) ISBN:978-4-502-29981-0 3800 円+税
	本書はファミリービジネスの中でも長期存続してきた建築企業群 4 社を対象に、老舗企業の存続や事業承継のメカニズムを経営学（とくに経営戦略論、組織論)、経営史学融合の方法から論じたものである。そして、そこから伝統と革新のダイナミズムの解明に取り組んでいる。ファミリー型長寿企業にみられる商慣習やしきたりといった厳しい伝統の継承が求められることが多いファミリー型長寿企業の経営者は、どのようにして独創的な行動をとり次世代の経営者として育っていくのか、など先行研究では触れられてこなかった点について議論が進められる。
参考図書	デニス・ケニョン・ルヴィネ・ジョン・ウォード編 『ファミリービジネス永続の戦略』(ダイヤモンド社、2007 年) ISBN:978-4-478-33125-5 2,000 円+税 ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠男編 『日本のファミリービジネス：その永続性を探る』(中央経済社、2016 年) ISBN:978-4-502-19011-7 2,400 円+税
履修上の ポイント	・わが国における長期存続企業の事業承継について理解する。 ・事業承継における後継者の正統性の問題を理解する。 ・承継プロセスにおける承業経営者の役割に着目し、その必要性について理解する。
リポート課題 1	◎承業経営者（中興の祖）および企業家精神の発露が長期存続に対してどのように関連するのか述べよ。 **留意点**：複数企業の事例を含めながら説明することが望ましい。
リポート課題 2	◎長期存続を果たすために最も重要なことは何であると考えるか。事業承継の視点も含めながら述べよ。 **留意点**：著者が論じていることをまとめたうえで見解を示してほしい。

基本教材 1

第 1 回	オリエンテーション：より詳細な授業の概要説明と導入
第 2 回	事業承継、ファミリービジネスの定義・概要・特徴
第 3 回	事業承継、ファミリービジネスの先行研究と理論
第 4 回	ファミリービジネスの類型
第 5 回	ファミリービジネスのガバナンス
第 6 回	ファミリービジネスの存続と後継者育成
第 7 回	ファミリービジネスの経営戦略
第 8 回	ファミリーアントレプレナーの特性
第 9 回	ファミリービジネスの顧客関係維持
第 10 回	地域におけるファミリービジネス
第 11 回	ファミリービジネスの国際比較
第 12 回	ファミリービジネスの未来と課題、リポート課題 1, 2 の初稿の提出
第 13 回	リポート課題 1 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題 2 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 15 回	まとめと振り返り：リポート課題 1, 2 に関する自らの考えを共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	オリエンテーション：より詳細な授業の概要説明と導入
第 2 回	老舗企業の定義・概要・特徴
第 3 回	老舗、ファミリービジネス研究の変遷
第 4 回	ファミリービジネス、事業承継を捉えた理論
第 5 回	長期存続を果たす経営の人材
第 6 回	長期存続を果たすガバナンス
第 7 回	顧客関係、組織構造、技能の継承を反映した事業承継
第 8 回	承業経営者（継承経営者）の誕生とその役割
第 9 回	生得的獲得と十全的参加
第 10 回	事業承継と存続の軌跡
第 11 回	組織文化と企業家精神
第 12 回	サステイナブルな経営論の再考、リポート課題 1, 2 の初稿の提出
第 13 回	リポート課題 1 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題 2 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 15 回	まとめと振り返り：リポート課題 1, 2 に関する自らの考えを共有し最終レポートを提出する

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ 田中　ケンイチロウ 堅一郎	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	本講義の目的は，①調査の種類，その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し，実際に調査票を作成し，面接計画を作ることを目的とする。②調査分析で必要な統計手法について学習し，実際に分析できることを目的とする。 Ⅰ．仮説に基づく課題や問題を提示し，客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて，具体的克論理的な見解を示すことができ，その限界を認識することができる。 Ⅱ．データを分析し，分析結果の意味を理解し，問題を解決することができる。 Ⅲ．経験や学修から得られた知識や教養に基づき，倫理的な課題を理解し説明できる。
到達目標	【一般目標（GIO)】 データを注意深く読み取り，適切な分析を行うことができ，分析結果を客観的に解釈することができる。 【行動目標（SBOs)】 ・データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる)。 ・データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。 ・データ分析に必要なコンピュータ･リテラシーを身につけられる。 ・収集されたデータを，統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し，分析した結果を解釈することができる。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・リポートの推敲過程において，Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に，想定される質問とその回答を纏めた「Q & A」を公開する。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し，その過程を受講生全員に公開する。 ・オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 【学修方略】 指定された基本教材，および参考文献を読みこなし，リポートを作成する。それでも理解できない場合は，Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。 【学修時間】 1 つのリポート課題の完成までに最低 45 時間の学習時間を要するものとする。 ・基本教材および参考文献の読み込み：20 時間 ・リポート課題の執筆：10 時間 ・Manaba-Folio へのリポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導，ピア・レスポンスを含む)：15 時間
スケジュール	前期：基本教材 1 のリポート課題 1： 6 月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材 1 のリポート課題 2： 8 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 後期：基本教材 2 のリポート課題 1： 11 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材 2 のリポート課題 2: 12 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	79%	・最終提出期限内に提出されなかったリポート課題は，（原則的に）0 点となります。 ・リポート課題の作成において，自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたリポートは評価の対象としません)。教材の引き写しは評価の対象外とします。
	観察記録	21%	・最終提出までに Manaba-Folio 上でリポートの草稿の送信･返信を行ったかどうかで評価します。 ・草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合，そのリポート課題の評価点は 79 点以下しか得られません。

履修者への要望	・リポート作成にあたって文献を引用した場合は，それらすべてをリポートの巻末に示してください。その際，本文に引用した文献（引用文献）と，本文には引用しなかったがリポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。 ・要覧にもあるように，後期課題のリポートでは，意味ある情報を的確に，かつ少数の値に集約して表現し，それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をリポートに提示する場合は，必ず通し番号とその表題をつけること。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　鈴木淳子 教材名：　『質問紙デザインの技法（第２版)』(ナカニシヤ出版，2016 年) ISBN:978-4-7795-1075-5　2,800 円+税 著者名：　鈴木淳子 教材名：　『調査的面接の技法（第２版)』(ナカニシヤ出版，2005 年) ISBN:978-4-88-848960-7　2,500 円+税
	(1)は，主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。 (2)は，研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。
参考図書	大竹恵子（編著)『なるほど！　心理学調査法』(北大路書房，2017 年)　ISBN:978-4-7628-2990-1　2,200 円+税 鎌原雅彦他 (編著)『心理学マニュアル　質問紙法』(北大路書房，1998 年)　ISBN:978-4-76-282109-7　1,500 円+税 三浦麻子（監修)，米山直樹・佐藤　寛（編著)『なるほど！ 心理学面接法』(北大路書房，2018 年)　ISBN:978-4-7628-3051-3　2,400 円+税
履修上のポイント	リポート課題における「①質問紙（アンケート調査）を行う手順」と「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所」は，教材の『質問紙デザインの技法』を参考にし，「③面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所」は，教材の『調査的面接の技法（第２版)』を参考にする。
リポート課題 1	以下に示す項目について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順　②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所　③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順　④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所 **留意点**：各項目あたり 2,000 字以内を目安に説明すること。
リポート課題 2	以下の２項目のうち，一つを選ぶこと： ①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，実際に質問紙（アンケート）を作成する。 ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成する。 **留意点**：教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては，調査後に分析がしやすいように配慮すること。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　南風原朝和（著) 教材名：　『心理統計学の基礎　統合的理解のために』(有斐閣アルマ，2002 年) ISBN:4-641-12160-5　2,200 円+税
	この教材は，統計的手法について詳細に解説したものである。
参考図書	村井潤一郎･柏木恵子『ウォームアップ心理統計』(東京大学出版会,2008 年)ISBN:978-4-13-012046-3　2,000 円+税 松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析　数式が絶対に出てこない因子分析入門』(北大路書房，2002 年) ISBN:978-4-76-282251-3　2,500 円+税 繁桝算男・森　敏昭・柳井晴夫『Q & A で知る統計データ解析　Dos and DON’Ts』(サイエンス社，2008 年)　ISBN:978-4-78-191186-1　2,450 円+税
履修上のポイント	教材を読んでも統計学の基本がわからない場合は，参考図書の『ウォームアップ心理統計』(東京大学出版会）を参照すること。
リポート課題 1	以下に示す用語について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①偏相関　②決定係数　③標準偏回帰係数　④因子負荷量　⑤多重共線性 **留意点**：各用語あたり 800 字以内を目安に，3,000～4,800 字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし，その際に用いた記号について脚注をいれること。
リポート課題 2	与えられたデータをもとに，統計解析ソフト（BellCurve Excel 統計，㈱社会情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い，その結果を要約すること。 ①すべての変数について度数分布，代表値，散布度を示す。　②任意に 2 変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する。 ③3 つ以上の変数を選び,重回帰分析法を実施する。 ④5 つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する。 **留意点**：分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（manaba folio）に添付する。統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし，掲載する図表を Excel で作成するのはかまわない)。

基本教材 1

1 回	教材に基づく学修(1)	質問紙調査法について，「学ぶべき課題」を全体的に理解する：質問紙とは何か，質問紙法の基礎（教材 1；1 章，2 章）
2 回	教材に基づく学修(2)	質問紙法の調査プロセス，データ収集の技法（教材 1；3 章，4 章）
3 回	教材に基づく学修(3)	サンプリングの技法，調査実施に向けての準備（教材 1；5 章，6 章）
4 回	教材に基づく学修(4)	倫理的ガイドライン，質問紙デザインの基礎，質問紙の構成と体裁（教材 1；7 章，8 章，9 章）
5 回	教材に基づく学修(5)	質問の種類と順序，質問作成，ワーディング（教材 1；10 章，11 章，12 章）
6 回	教材に基づく学修(6)	選択回答法，自由回答法，予備調査（教材 1；13 章，14 章，15 章）
7 回	リポート課題の作成(1)	リポート課題 1：①，②の草稿作成
8 回	教材に基づく学修(7)	調査的面接法について，「学ぶべき課題」を全体的に理解する：調査的面接法とは何か（教材 2；第 1 章）
9 回	教材に基づく学修(8)	調査的面接法の分類，データ収集法の組み合わせ（教材 2；第 2 章，第 3 章）
10 回	教材に基づく学修(9)	調査的面接法のデザイン（教材 2；第 4 章）
11 回	教材に基づく学修(10)	調査的面接法のガイドライン（教材 2；第 5 章）
12 回	リポート課題の作成(2)	リポート課題 1：③，④の草稿を作成　①②とともに提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
13 回	リポート課題の作成(3)	リポート課題 1 の最終レポート作成
14 回	リポート課題の作成(4)	リポート課題 2 の草稿を提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
15 回	リポート課題の作成(5)	リポート課題 2 の最終レポート作成

基本教材 2

1 回	教材に基づく学修(1)	心理学研究における統計の役割について，「学ぶべき課題」を全体的に理解する：心理学研究と統計（第 1 章）
2 回	教材に基づく学修(2)	分布の記述的指標（第 2 章）
3 回	教材に基づく学修(3)	相関係数の把握と回帰係数（第 3 章），確率モデルと標本分布（第 4 章）
4 回	教材に基づく学修(4)	統計的推定・検定（第 5 章），平均値差と連関についての統計的推定（第 6 章）
5 回	教材に基づく学修(5)	線形モデルの基礎（第 7 章），偏相関と重回帰分析（第 8 章）
6 回	教材に基づく学修(6)	実験デザインと分散分析法（第 9 章）
7 回	教材に基づく学修(7)	因子分析法（第 10 章）
8 回	リポート課題の作成(1)	リポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
9 回	リポート課題の作成(2)	リポート課題 1 の最終レポート作成
10 回	実習課題(1)	サンプルデータを確認し，Excel と統計解析ソフトの操作に慣れる
11 回	実習課題(2)	①サンプルデータの全変数について度数分布，代表値，散布度を示す ②任意に 2 つの変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する
12 回	実習課題(3)	③3 つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する
13 回	実習課題(4)	④5 つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する
14 回	リポート課題の作成(3)	リポート課題 2 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
15 回	リポート課題の作成(4)	リポート課題 2 の最終レポート作成

科目名	統計基礎Ⅰ	担当者	荒関（アラセキ） 仁志（ヒトシ）	期間	通年	単位数	2

【科目概要】

目　　的	最近の統計ソフトは、大変に使い勝手が良く、ややもすると統計的基礎や計算の前提条件を理解しなくても、統計計算を形の上では、結果を得ることができますが、多くの場合、前提条件や利用条件を知らないことで、統計結果の解釈に間違いが散見されます。 本講座では，従来のような数式を中心とする説明ではなく，我々の身近にあるような具体的な例を取り上げ，数式を解さず，統計の基本概念を理解します。 また、直接表計算ソフトを使うことで，数学が苦手な人でも統計処理の「基本的な考え方を理解する」ことを修得の目的とします。
到達目標	【一般目標（GIO)】 統計が身近な疑問や現象に答えてくれる，比較的身近な数学であることを理解してください。統計処理は，決して理解が難しい数学ではなく，非常に単純な数学的考えに立脚した数値処理であることを理解してください。 【行動目標（SBOs)】 ① 本講座では，統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意さを表す検定」について理解することを目指します。 ② 特に「検定」に関しては，その背景にある単純な仮定を理解することで，検定の「考え方」や「適用範囲」を理解します。 ③ ここでは，それらの統計処理を使って身近なデータを処理し，それによって具体的な統計処理技術の習得も目指します。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等などを積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 【学修方略（LS）と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。 ① 指定教科書および参考文献を熟読してください。【SBO①】【30 時間／1 冊】 ② 与えられた課題についてリポートを提出します。【SBO②&③】【45 時間／レポート件】 ※）なお，参考文献等を読む場合やリポートを作成するに当たり，疑問点や不明な点などがある場合には，長時間悩まず，必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては，基本的なことや専門的なこと，直接関係がないと思われることでも，何でも構いませんので，遠慮なく質問してください。リポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に，電子メールでのコミュニケーションは，本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し，常に活用することを心掛けてください。
スケジュール	【前期】 ① リポートの受付は何時でも行っていますので，リポートの完成を待たずに，疑問点や質問などがある場合には，積極的に未完成リポートを提出することを推奨します。【5 月～】 ② リポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が，本科目の大きな学習目的であることを理解してください。なお，教員とのやり取り無しに，リポート提出期限間際のリポート提出は，基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り 1 ヶ月前には草稿レポートをなからず 1 本は提出をしてあること】 ③ レポートの提出期限：最終稿は学年歴で定められていた期限までに提出してください。 ※）リポートの提出に関しては，各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが，予め遅れることが分かっている場合には，その旨を必ず知らせてください。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	70%	「分散」や「検定，分散分析」について数学的背景を理解できたか。 「検定，分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 「検定，分散分析」の適用範囲を理解できたか。
	観察記録	30%	「分散」や「検定，分散分析」についての疑問や質問が解決できたか・ 「検定，分散分析」について，議論することができるか。

履修者への要望	特にありませんが，数学が苦手で，特に統計処理が嫌いな人が受講することをお勧めします。教科書や学習する項目は，基本的なことが主ですので，数学や統計処理が得意な人はご遠慮ください。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　向後千春，冨永敦子，『First Book 統計学がわかる』（技術評論社，2007 年），ISBN:978-4-77-413190-0，1,680 円+税 教材名：　または、 涌井 貞美,『意味がわかる統計解析』(ベレ出版, 2013 年), ISBN: 978-4-86064-345-4, 2,000 円+税
	本書は,数式をなるべく使わずに統計処理の仕組みを説明する初心者でも気軽に読めて楽しく統計を学習できる教科書です。 本書では，ある「ハンバーガー屋さん」で起こる様々な疑問や問題を，統計処理を使って登場人物たちと一緒に解決していく教科書です。とても面白く，統計データ分析の基本を理解できます。統計が苦手と思っている人には最適な教科書です。
参考図書	涌井良幸，涌井貞美『Excel で学ぶ統計解析』（ナツメ社，2003 年）ISBN:978-4-81-633418-4 2,500 円+税 菅 民郎『Excel で学ぶ統計解析入門　第２版』（オーム社，2003 年）ISBN:978-4-81-633418-4 2,800 円+税 小島 寛之，『完全独習　統計学入門』（ダイヤモンド社，2006 年），ISBN：978-4-478-82009-4, 1,800 円＋税
履修上のポイント	本講義は，とにかく数学が苦手で，統計学が苦手な人のための講義です。多くの教科書に見られるような数式で説明することを極力避け，実際のデータを，表計算ソフトを使うことで数式での説明を介さずに，統計データ処理を解説しています。ですから，理屈で統計処理を理解するのはなく，体で統計データ処理を理解することを目的としています。 先ずは，手を動かして統計データ処理を行ってください。
リポート課題 1	ｔ検定と分散分析とは，何を説明するための統計処理なのかを，自分の言葉で説明してください特に，標本の正規性や等分散性を意識してリポートを作成してください。 **留意点**：
リポート課題 2	身の回りのデータを１組用意し，ｔ検定を行い，統計処理の結果を考察してください。また，別な身の回りのデータを１組用意し，分散分析を行い，その統計処理の結果を考察してください。 **留意点**：

基本教材１

第１回	統計と確率の関係について理解する。 特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を理解してください。また、授業を受講する上で必須な、各自のパソコンのエクセルで「データ分析」が使えるようにするための設定手順も合わせて講義します。
第２回	平均と分散、特に分散についての重要性について講義します。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について理解する。
第３回	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理について理解する
第４回	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができます。この信頼区間に考えが、有意差検定の基本であることを理解する。
第５回	有意差検定の考え方の基本を講義します。第４回に講義した「信頼区間」との関係を理解する。また、有意差検定の考え「帰無仮説」や「対立仮設」についても理解する。
第６回	カイ２乗検定の考え方を講義します。有意差検定の最も基本になる考えを、このカイ２乗検定を使って具体的な計算方法について理解する。
第７回	カイ２乗検定の計算の実際を講義します。特に、実際のデータを使って、カイ２乗検定の具体的な計算方法の手順を理解する。
第８回	有意差検定で、最も利用されている「ｔ検定（対応なし）」の考え方を講義します。特に、正規分布とｔ分布、その信頼区間の関係について理解する。
第９回	実際のデータを使った「ｔ検定（対応なし）」の計算方法について講義します。計算の手順と、エクセルにおける「データ分析」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も講義します。また、「ｔ検定（対応なし）」の前提条件である「等分散性」についても理解する。
第10回	実際のデータを使った「ｔ検定（対応あり）」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も理解する。さらに第９回講義に「ｔ検定（対応なし）」との違いについても理解する。
第11回	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を理解する。特に「ｔ検定」との違いと、「分散分析」の考え方を理解する。特にＦ分布とＦ値の考えを理解することを目的とします。また、分散分析の前提条件である等分散性についても理解する。
第12回	実際のデータを使った「分散分析（1 要因）」についての計算方法を理解する。特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順について理解する。
第13回	「分散分析(2 要因)」について「分散分析（1 要因）」との違いについて理解する。特に「分散分析(多要因)」で現れる「交互作用」について理解する。
第14回	実際のデータを使った「分散分析(2 要因)」についての計算方法を理解する。特に「交互作用」について理解する。
第15回	半年間行った講義内容を、データ分析の立場から、統計分析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	統計基礎Ⅱ	担当者	荒関（アラセキ） 仁志（ヒトシ）	期間	後期	単位数	2

【科目概要】

目　　的	最近のコンピュータの高性能化に伴い，高性能な統計ソフトを自由に利用できるようになってきました。その結果，今までは利用するのが難しかった，多変量解析などが簡単に誰でもが利用できるようになりました。しかし，統計処理が簡単に利用できる反面，その基本にある「数理学的背景」をまったく理解しないまま，データ処理を行っているが学生が多く見られるようになってきました。 本講座では，実際の修士論文や研究に利用されることが多い『多変量解析』における「回帰分析」，「相関係数」や「因子分析」などの数学的背景と前提条件、利用条件などを理解します。 また、身近な具体例を使い，なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで，その基本的考え方を理解することを目指します。
到達目標	【一般目標（GIO)】 本講座では，実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学習します。特に，「相関」，「重回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の取得を目指します。 【行動目標（SBOs)】 ① 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが，この「多変量統計解析」ですが，その理論的背景を理解することを目指します。 ② 多変量解析が単純な数学的仮定（線形関係）の上に成り立っていることを理解する。 ③ その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを認め，その線形代数の手法が「最小２乗法」や「(座標）回転」や「固有値」と関係することを理解することで，多変量解析では何を計算するのかを理解することで，その適用範囲を各自が理解できることを目指します。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等などを積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 【学修方略（LS）と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。 ① 指定教科書および参考文献を熟読します。【SBO①】【30 時間／1 冊】 ② 与えられた課題についてリポートを提出します。【SBO②&③】【45 時間／レポート件】 ※）なお，参考文献等を読む場合やリポートを作成するに当たり，疑問点や不明な点などがある場合には，長時間悩まず，必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては，基本的なことや専門的なこと，直接関係がないと思われることでも，何でも構いませんので，遠慮なく質問してください。リポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に，電子メールでのコミュニケーションは，本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し，常に活用することを心掛けてください。
スケジュール	【後期】 ① リポートの受付は何時でも行っていますので，リポートの完成を待たずに，疑問点や質問などがある場合には，積極的に未完成リポートを提出することを推奨します。【9 月～】 ② リポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が，本科目の大きな学習目的であることを理解してください。なお，教員とのやり取り無しに，リポート提出期限間際のリポート提出は，基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り 1 ヶ月前には草稿レポートをなからず 1 本は提出をしてあること】 ③ レポートの提出期限：最終稿は学年歴で定められていた期限までに提出してください。 ※）リポートの提出に関しては，各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが，予め遅れることが分かっている場合には，その旨を必ず知らせてください。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	70%	「多変量解析」の数学的仮定を理解できたか。 「相関」や「重回帰分析」，「因子分析」とは何かを理解できたか。 エクセルを使って，「多変量解析」処理を行うことができたか。
	観察記録	30%	「多変量解析」に関する疑問や不明な点が解決できたか。 「多変量解析」に関する統計処理技術を議論できたか。

履修者への要望	数学が苦手で，統計処理が嫌いな人が受講してください。ただし，そのような数学を毛嫌いしている人は，必ず「統計基礎Ⅰ」も併せて受講してください。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　向後千春，冨永敦子，『First Book「統計学がわかる」―回帰分析・因子分析編―』（技術評論社，2009 年），ISBN:978-4-77-413707-0，1,680 円+税 教材名：　または、 石井 俊全，『意味がわかる多変量解析』(ベレ出版，2014)，ISBN: 978-4-86064-398-0，1,900 円+税
	理数系以外の学生で，統計を知っている人でも「回帰分析」や「因子分析」など，データ間の「関係を調べる」ための統計データ処理の仕組みを理解している人は多くありません。本書では，極力数式を使わず，このデータの「関係を調べる」ための統計データ処理の基本的な仕組み解説します。 アイスクリームショップを舞台にアルバイトのアイちゃんと一緒に悩みながら，気温とアイスクリームの売り上げの関係など，あなたの研究・調査に応用の利用可能な話題を取り上げます。親しみやすい話題と物語の展開で，比較的理解することが難しいといわれている「多変量データ解析」を理解することができます。
参考図書	上田太一郎，小林真紀，渕上美喜『Excel で学ぶ回帰分析入門』(オーム社，2004 年) ISBN:978-4-27-406556-9　2,800 円+税 菅　民郎『Excel で学ぶ多変量解析入門　第２版』(オーム社，2007 年) ISBN:978-4-27-406708-2 2,800 円+税 加藤剛『知識ゼロでもわかる統計学シリーズ 本当に使えるようになる多変量解析超入門』(技術評論社，2013 年) ISBN 978-4-7741-5630-9 1,980 円＋税
履修上のポイント	本講義では，多変量解析の基本的な仕組みや数理的背景を理解することを目的とします。ここでは数式による説明ではなく，表計算ソフトを使って，直接データを統計処理します。ですから，数学が苦手な人でも「相関」や「回帰分析」，「因子分析」の基本的な仕組みを理解することができますので安心して受講してください。
リポート課題 1	「相関」と「回帰分析」，「因子分析」は何を知るための統計データ処理なのかを，自分の言葉で説明してください。特に，説明変数や因子間の線形性について注意しながらリポートを作成してください。 **留意点**：
リポート課題 2	身の回りのデータを用意し，「相関」と「回帰分析」，「因子分析」を計算し，それぞれの結果を考察してください。 **留意点**：

基本教材１

第１回	本講義で行う「多変量解析」についての概要を理解する。また、本講義で必要な各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても理解する。
第２回	教科書の例題を参考に、データに構造を表す「散布図と相関」について理解する。特に、データ間に関係がデータ解析に重要な要素であることを理解する。
第３回	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について理解し、その計算方法を理解する。また、偏差積についても理解する。
第４回	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について理解する。この「無相関検定」を行う場合には、統計基礎Ｉで学習した「有意差検定」を利用することを理解する。
第５回	講義では「回帰分析」の考え方を講義します。特に計算の要となる「最小二乗法」について理解する。
第６回	本講義では、実際のデータを使った「単回帰分析」についての具体的な計算方法について理解する。また、この単回帰分析と相関係数との関係についても理解する。
第７回	ここでは「重回帰分析」の考え方と計算方法を理解する。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について理解する。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても理解する。
第８回	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を理解する。ここでは１ステップずつの計算方法を説明し、その後でエクセルの「データ分析」を使った計算方法も理解する。
第９回	多変量解析における「相関行列」について理解する。第３回の講義で説明した「相関」との関係を理解し、「相関行列」の利用方法を理解します。
第10回	多変量解析における「相関行列」について理解する。第３回の講義で説明した「相関」との関係を理解し、「相関行列」の利用方法を理解する。
第11回	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを理解し（別途資料あり）、主成分分析では何が分るのかも理解する。
第12回	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を理解する。各自の身の回りにある具体的なデータを利用し、各自主成分分析の計算方法を理解する。
第13回	「因子分析」の考え方を理解する。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法を理解する。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても理解する（別途資料あり）。また、「主成分分析」との違いも理解する。
第14回	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に理解する。また、因子分析の解釈の方法も合わせて理解する。
第15回	半年間行った講義内容を多変量解析の立場から理解し、多変量解析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	ゲーム理論	担当者	荒関　仁志（アラセキ　ヒトシ）	期間	前期	単位数	2

【科目概要】

目　　的	ゲーム理論は、経済学から発展してきたが、現在では経営学、政治学、法学、経済学、社会学、心理学、生物学、工学、コンピュータ化学など様々な分野に応用されている。 社会における個人の行動を決定する場合、他人との相互作用を考慮した意思決定をすることが重要になってくるが、この相互作用を考慮した意思決定を数学的なモデルとして研究されているのがゲーム理論である。 本講座では、このゲーム理論における基礎的な考え方を習得することを目的とする。 具体的には、ゲーム理論の基礎である「囚人のジレンマ問題」を理解し、それを元により現実的な意思決定である「交渉ゲーム問題」を理解することを最終目標とする。
到達目標	【一般目標（GIO）】 「囚人のジレンマ問題」を理解し、ゲーム理論に特有な「利得」や「ナッシュ均衡」の考え方を数学的に理解する。さらに、より一般的な意思決定と考えられている「交渉ゲーム」を学習し、そこで使われている「混合戦略」や「期待利得」の計算方法を理解する。 【行動目標（SBOs）】 ①　身の回りの様々な医師決定過程をゲーム理論的志向で考察できることを目的とする。 ②　それによって合理的意思決定とは何かを理解する。
学修方法（方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・リポート作成） ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等などを積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 【学修方略（LS）と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。 ①　教科書の「非協力ゲーム（または囚人のジレンマ問題）」を熟読し理解する。【SBO①】【30 時間／1 冊】 ②　次に「交渉ゲーム」を理解すること。その上で、レポートの設問に回答してください。その際、教科書の数学的な取扱いで分からない部分などがあれば、担当者に質問し、個人指導を受けることを基本とします。SBO②】【45 時間／レポート件】 なお、交渉ゲームを理解するためには、繰り返しゲームなどの理解が必要になりますので、「囚人のジレンマ問題」や「交渉ゲーム」以外の章の知識が多少必要となりますので、他の章もザーッと読まれることをお勧めします。SBO②】【30 時間／レポート件】
スケジュール	【前期】 ①　リポートの受付は何時でも行っていますので，リポートの完成を待たずに，疑問点や質問などがある場合には，積極的に未完成リポートを提出することを推奨します。【5 月～】 ※）リポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が，本科目の大きな学習目的であることを理解してください。 ②　教員とのやり取り無しに，リポート提出期限間際のリポート提出は，基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り１ヶ月前には草稿レポートをなからず1本は提出をしてあること】 ③　レポートの提出期限：最終稿は学年歴で定められていた期限までに提出してください。 ※）リポートの提出に関しては，各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが，予め遅れることが分かっている場合には，その旨を必ず知らせてください。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	70%	ゲーム理論の基礎を理解できているか。 身近な問題に対してゲーム理論を応用できるか。
	観察記録	30%	ゲーム理論の数学的仕組みを理解できているか。

履修者への要望	特にありませんが，様々な「関係」について興味をもっている学生の受講を歓迎します。 ゲーム理論の理解には数学が必要となりますが、本講座では簡単な四則演算程度で十分です。また、数学に興味があるが、難しそうと思っている学生も大歓迎いたします。数学的取り扱いは、別途担当者作成のレジメで解説します。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　岡田 章,『ゲーム理論・入門』(有斐閣アルマ, 2014), ISBN 978-4-641-22028-7, 1,900円+税 教材名：　または 武藤/滋夫,『ゲーム理論入門 』(日経文庫―経済学入門シリーズ)(日本経済新聞社, 2001年), ISBN-10: 4532108292, 860円+税
	本テキストは, ゲーム理論の数学的説明が平易に正確に記述されており、国内のゲーム理論の書籍の中では、最も優れた書籍である。内容は「囚人のジレンマ」に始まり、「繰り返し囚人のジレンマ問題」や「交渉ゲーム」など多義にわたっている。
参考図書	Avinash K. Dixit (著), Barry J. Nalebuff (著)『The Art of Strategy: A Game Theorist's Guide to Success in Business and Life』(W W Norton & Co Inc, 2010年) ISBN 978-0-393-33717-4, 1,770円+税 (Aamazon.co.jpにて2016年11月現在) 川越 敏司(著),『行動ゲーム理論入門』(エヌティティ出版, 2010年), ISBN:978-4-7571-2258-1, 2,700円＋税 岡田 章 (著),『ゲーム理論 新版』(有斐閣; 新, 2011年), ISBN 978-4-641-16382-9, 3,800円+税
履修上のポイント	数学的取り扱いで疑問が生じた場合には、悩まず担当教員に質問をしてください。初めは、数学的取り扱いに慣れていない院生には難しそうに思える数学的表現も、その基本は非常に単純な構造であることが分かりますので、ご安心して受講してください。
リポート課題1	囚人のジレンマ問題を身近な事例によって説明し、その時の「ナッシュ均衡」について、各自の説明してください。 **留意点**:
リポート課題2	身の回りの「ジレンマ問題」を取り上げ、「囚人のジレンマ問題」と「交渉ゲーム問題」で解析し、それぞれの特徴を説明してください。 **留意点**:

基本教材 1

第 1 回	ゲーム理論の基礎、ゲーム理論の基本用語の習得
第 2 回	意思決定モデルと期待効用仮説の理解、ゲーム理論の理解のための確率の基礎知識
第 3 回	戦略ゲームの理解
第 4 回	ナッシュ均衡点の考え方の理解
第 5 回	支配戦略とミニマックス戦略の理解
第 6 回	囚人ジレンマと合理性、パレート最適の理解
第 7 回	ナッシュ均衡とパレート最適性の理解
第 8 回	協力ゲームと非協力ゲームの理解
第 9 回	ゲームの木と先読み推論の理解
第 10 回	展開ゲームの戦略の概念、部分ゲーム完全均衡点についての理解
第 11 回	繰り返しゲームとフォークの定理の理解
第 12 回	不確実な相手とのゲーム理論における不完全完備ゲームの理解
第 13 回	不確実な相手とのゲーム理論とベイズの定理の関係の理解
第 14 回	交渉ゲームの理解、特にナッシュの公理の理解
第 15 回	交渉の戦略ゲームにおけるナッシュ交渉解の実践的理解